

但シ其通知ハ決議ノ時ヨリ三日内ニ之ヲ爲シ而シテ其會議ヲ設置シタル地ト後見人ノ住所トノ間ニ三ミリアメートルノ距離毎ニ一日ヲ加フ可キモノトス(新八九五九六八)〇三三民四〇六以下四三八以下)

【參看】

千八百六十二年五月三日ノ法律ヲ以テ三ミリアメートルヲ改メテ五ミリアメートルト爲シタリ

**第百八拾三條** 親族會議ノ決議カ總員一致ノモノニ非サル時ハ其會議ヲ組成スル各員ノ意見ヲ調書ニ記載ス可シ

後見人代後見人又ハ管財人又然ノミナラス親族會議員ハ其決議ニ對シテ上訴スルコトヲ得可シ但シ右ノ各人ハ其決議ノ意見ノモノタル各會議員ヲ勸解ノ爲メ招喚スルヲ要セスシテ其各會議員ニ對シテ請求ヲ爲ス可キモノトス(新四九ノ第七四九四民四〇五四一五以下)

**第百八拾四條** 其訴訟ハ簡畧ノ方法ヲ以テ之ヲ裁判ス可シ(新四〇四以下)

**第百八拾五條** 認可ヲ受ク可キ決議ニ關スル總テノ場合ニ於テハ其決議書ノ副本ヲ裁判所長ニ呈出ス可シ而シテ裁判所長ハ其決議書ノ末ニ記シ

タル命令書ニ依リ檢察官ヘノ通報ヲ命令シ且ツ指示セラレタル日ニ於テ其報告ヲ爲サシムル爲メ裁判官一名ヲ委任ス可シ(新八三九一民四五八四六七)

**第百八拾六條** 檢事ハ右命令書ノ末ニ其意見ヲ記シ而シテ認可ノ裁判書ノ細字正本ハ右ノ書面上ニ於テ其意見ヲ記シタル末ニ之ヲ記載ス可キモノトス(新一四一八八五民四四八四五七四五八四八三)

**第百八拾七條** 若シ後見人又ハ認可ヲ請求スルコトヲ任セラレタル其他ノ者カ決議ニ依リ定メラレタル期限内ニ其請求ヲ爲サス又其期限ヲ定メサルニ於テハ十五日ノ期限内ニ其請求ヲ爲サ、ル時ハ會議員中ノ一名ハ後見人ニ對シテ其認可ヲ請求スルコトヲ得可シ但シ其請求ノ費用ハ後見人自カラ之ヲ負擔ス可クシテ後ニ之ヲ取戻スコトヲ得サルモノトス

**第百八拾八條** 會議員中ニテ認可ニ付キ故障ヲ申立テサル可カラスト思考スル者ハ其認可ヲ請求スルコトヲ任セラレタル者ニ裁判外ノ證書ヲ以テ其故障ノ旨ヲ申述ス可シ而シテ若シ其者ノ招喚セラレサル時ハ裁判ニ付キ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ得可シ(新八八三三八九)

第八百八拾九條 親族會議ノ決議ニ付キ爲シタル裁判ハ控訴ヲ受ク可キモ  
ノトス(昨四四三以下民四四八)

○第拾壹卷 治産禁

第八百九拾條 凡ソ治産禁ノ請求ニ於テハ白痴癲病狂病ノ事柄ヲ裁判所長  
ニ呈出シタル請願書ニ表示ス可シ但シ其請願書ニハ證明ノ爲メノ證據物  
ヲ添ヘ且ツ證人ヲ指示ス可キモノトス(昨四九ノ第一二五ニ民四八九以下四九三)

第八百九拾壹條 裁判所長ハ其請願書ヲ檢察官ニ通報ス可キ旨ヲ命令シ且  
ツ指示セラレタル日ニ於テ報告ヲ爲サシムル爲メ裁判官一名ヲ委任ス可  
シ(昨八三八八五民五一五)

第八百九拾貳條 裁判官ノ報告及ヒ檢事ノ意見申立ノ上裁判所ニ於テハ民  
法幼年後見及ヒ後見ノ免脱ノ卷第二章第四節ニ定メタル仕方ニ從ヒ組成

シタル親族會議ヨリ治産禁ノ請求ヲ受ケタル者ノ景狀ニ付キ其意見ヲ申  
述ス可キ旨ヲ命ス可シ(昨八九三以下民四九四以下)

第八百九拾三條 請願書及ヒ親族會議ノ意見書ハ被告人ノ審訊ニ取掛ル前  
ニ之ヲ被告人ニ送達ス可シ

若シ審訊及ヒ差出シタル證據物ノ不充分ニシテ而シテ其事柄ヲ證人ヲ以  
テ證明スルコトヲ得可キ時ハ裁判所ニ於テ證人訊問ヲ爲ス可シトスルニ於  
テハ其訊問ヲ命令ス可シ但シ其證人訊問ハ通常ノ方法ヲ以テ之レヲ爲ス  
可キモノトス

若シ景況ニ依リテ必要ナルコトアル時ハ裁判所ニ於テ被告人ノ面前外ニテ  
證人訊問ヲ爲ス可キ旨ヲ命令スルコトヲ得可シ然レハ此場合ニ於テハ被告  
人ノ代辦人之ニ代理スルコトヲ得可キモノトス(昨二五二以下八九〇民四九六)

第八百九拾四條 治産禁ヲ宣告セラレタル者ノ爲ス所ノ控訴ハ治産禁ノ要  
求者ニ對シテ之ヲ爲ス可シ

治産禁ノ要求者又ハ會議員中ノ一名ヨリ爲ス所ノ控訴ハ其治産禁ヲ要求

セラレタル者ニ對シテ之ヲ爲ス可シ

裁判上ノ輔佐人ヲ撰任シタル場合ニ於テハ其輔佐人ヲ附與セラレタル者ノ控訴ハ其要求者ニ對シテ之ヲ爲ス可シ(訴四四三以下民五〇。五一三)

**第八百九拾五條** 治産禁ノ裁判ヲ控訴セサル時又ハ控訴ノ上ニテ其裁判ノ是認セラレタル時ハ親族ノ意見ノ卷ニ定メタル規則ニ從ヒ其治産禁ヲ受ケタル者ノ爲メニ後見人及ヒ代後見人ヲ撰任スルノ設備ヲ爲ス可シ

民法第四百九十七條ニ據リ撰任セラレタル假リノ管理人ハ其職務ヲ止ム可ク而シテ己レ自カラ後見人ニ撰任セラレサル時ハ後見人ニ計算ヲ爲ス可キモノトス(訴五二七以下、八八二以下、八九四、民四〇。五以下、四二。以下五〇。五)

**第八百九拾六條** 治産禁解除ノ請求ハ治産禁ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ審理シ及ヒ裁判ス可シ(訴八九。八九二、民四九四、五一三)

**第八百九拾七條** 輔佐人ノ補助ナクシテ訴訟ヲ爲シ和解ヲ爲シ金額ヲ借受ケ(動産ノ元金ヲ受取リテ其義務免除ノ證書ヲ與ヘ財産ノ所有權ヲ移轉シ又ハ之ヲ借入質ト爲ス)ノ禁止ヲ宣告スル裁判書ハ民法第五百一條ニ定

メタル方法ヲ以テ之ヲ附隨ス可シ(民四九九五。一五一三)

○第拾貳卷 讓給ノ利益

**第八百九拾八條** 民法第千二百六十八條ニ依リ許與セラレタル裁判上ノ讓給ヲ求ム可キ場合ニアル所ノ負債者ハ之レカ爲メ其請求ヲ申告スル所ノ裁判所ノ書記局ニ其權利義務ノ目錄及ヒ帳簿ノアルニ於テハ其帳簿並ニ其能働上ノ證券ヲ差出ス可シ(訴八〇。ノ第三、民一、二六五以下、一九四五、四一)

**第八百九拾九條** 其負債者ハ自己ノ住所ノ裁判所ニ上訴ス可シ(訴五九六、一九〇。民一。三)

**第九百條** 其請求ハ檢察官ニ通報ス可シ而シテ其請求ハ如何ナル起訴タリト之レカ效力ヲ停止セス但シ裁判官ハ關係各人ヲ招喚シタル上ニテ假リニ其效力ヲ猶豫ス可キ旨ヲ命令スルコトヲ得可シ(訴八三以下)

第九百壹條 讓給ノ利益ヲ允許セラレタル負債者ハ其住所ノ商事裁判所ノ審問席ニ其各債主ヲ招喚シ若シ商事裁判所ノアヲサル時ハ公務ヲ行フ日ニ於テ邑廳ニ其各債主ヲ招喚シタル上代理人ヲ用ヒス己レ自カラ其讓給ヲ繰返シテ申述ス可シ但シ邑廳ニ於テ其讓給ヲ繰返シテ申述シタル場合ニ於テハ其負債者ノ申述ヲ使吏ノ調書ヲ以テ證明シ而シテ其調書ハ邑長之ニ署名ス可キモノトス(附一。三九以下)

第九百貳條 若シ負債者ノ拘留セラレタル時ハ其負債者ニ讓給ノ利益ヲ許容スル所ノ裁判ハ前條ニ從ヒ其申述ヲ爲サシムル爲メ之ヲ拘留場ヨリ出タサシム可キ旨ヲ命令ス可シ但シ此クノ如キ場合ニ於テ必要ト爲ス慣例ノ豫防ヲ用フ可キモノトス(附八〇。ノ第三九〇。一民一二七〇。)

參看 民事及ヒ商事ニ於テ拘留ヲ廢止スル千八百六十七年七月二十二日ノ法律ヲ参照可シ

第九百三條 負債者ノ姓名職業居所ハ其住所ノ商事裁判所又ハ之レカ職務ヲ爲ス始審裁判所ノ聽訟席ト邑廳ノ公務ヲ行フ場所トニ備ヘ置キタル特設ノ公ケナル帖上ニ之ヲ記入ス可シ(附八六七八七二)

第九百四條 讓給ノ利益ヲ許容スル裁判ハ各債主ニ負債者ノ動産及ヒ不動産ヲ賣拂ハシムルノ權力ヲ附與シタルニ等シキ效アリトス而シテ其賣拂ハ目錄ノ利益アル相續人ノ爲メニ定メタル方法ヲ以テ之ヲ爲ス可シ(附九四五以下九五三以下九八七以下民一二六九)

第九百五條 外國人假冒售賣者詐欺ノ倒産者盜罪又ハ詐欺取財ノ爲メニ刑ヲ冒渡サレタル者及ヒ計算ヲ爲ス可キ者後見人管理人受託者ハ讓給ノ利益ヲ許容セラル、トヲ得ス(民一二六八一九四五二。五九四五四一五九一六一二刑三七九四〇。一以下四〇五)

第九百六條 右ノ外本卷ノ成規ハ商業ニ關シテハ毫モ影響ヲ及ボスナシ但シ商業上ノ習慣ハ方今ニ於テハ毫モ之ヲ更改セサルモノトス(附五四一)

○第貳編

財産相續ノ開始ニ關スル訴訟手續千八百六年四月二十八日決定五月八日宣令

○第壹卷

死去ノ後ニ於テ封印ヲ附スル事

第九百七條 死去ノ後ニ於テ封印ヲ附ス可キアル時ハ治安裁判官之ヲ爲ス可ク若シ治安裁判官ノアラサル時ハ其補役之ヲ爲ス可シ(証五九一九〇八以下民一一四二七〇四五一六〇七六九七七三八一〇八一八九二〇一〇三二一〇三四四四五以下刑二四九)

第九百八條 治安裁判官及ヒ其補役ハ特別ナル璽印ヲ用フ可シ但シ其璽印ハ治安裁判官及ヒ其補役ノ手裏ニ存在ス可キモノニシテ且ツ其印形ヲ始審裁判所ノ書記局ニ藏メ置ク可キモノトス

第九百九條 左ノ各人ハ封印ヲ附スルヲ請求スルヲ得可シ

- 第一 遺留財産又ハ共通財産ニ於ケル權利ヲ稱言スル各人
- 第二 執行ス可キ證券ヲ以テ憑據ト爲シ又ハ始審裁判所長若クハ封印ヲ附ス可キ縣ノ治安裁判官ノ許ニ依リ許可セラレタル各債主

第三 配偶者若クハ相續人數名又ハ其中一名ノ不在ノ場合ニ於テ死者ト同居シタル各人並ニ死者ノ從者及ヒ雇人(昨九〇七九三〇)

第九百拾條 後見ヲ免脱セラレタル幼年ノ權利稱言者及ヒ債主ハ其管財人ノ補助ナクシテ封印ヲ附スルコトヲ請求スルヲ得可シ

若シ右ノ者カ後見ヲ免脱セラレサル幼者ニシテ其者ノ後見人ナキ時又ハ後見人ノ不在ノ時ハ其者ノ血屬親中ノ一名ヨリ封印ヲ附スルコトヲ請求スルヲ得可シ(昨九〇九九三〇。民三八八四七六以下四八一四九〇。元八三二一六六)

第九百拾壹條 左ノ場合ニ於テハ檢察官ノ求メニ依リ若クハ本邑ノ邑長又ハ其副職ノ申述ニ依リ又然ノミナラス治安裁判官ノ職權ヲ以テ封印ヲ附ス可シ

第一 幼者ニ後見人ナク而シテ血屬親ヨリ封印ヲ請求セサル時

第二 配偶者又ハ相續人數名又ハ其中一名ノ不在ノ時

第三 死者カ公ケノ受託者タル時但シ此場合ニ於テハ其受託ノ爲メニシテ且ツ受託品ヲ組成スル物件ノミニ付キ封印ヲ附ス可キモノトス

(昨八三三九〇七九一二九一四九三〇。民四五二八一)

第九百拾貳條 封印ハ其地ノ治安裁判官又ハ其補役ニ非サレハ之ヲ附スルコトヲ得ス(昨九〇七九一二)

第九百拾三條 若シ埋葬前ニ封印ヲ附セザリシ時ハ裁判官封印ヲ附スルコトヲ請求セラレタル時期ト其請求若クハ封印ヲ附スル事ヲ遅延シタル原因トヲ其調書ヲ以テ証明ス可シ

第九百拾四條 封印ヲ附スルノ調書ニハ左ノ諸件ヲ記ス可シ

第一 年、月、日、時

第二 封印ヲ附スルノ原由

第三 請求者アル時ハ其請求者ノ姓名職業及ヒ居所又請求者ノ其封印ヲ附スル邑内ニ居住セサル時ハ其邑内ニ於ケル住所ノ撰定

第四 若シ請求者アラサル時ハ職權上ニテ封印ヲ附シタル事又ハ第九百十一條ニ記シタル官吏中一頁ノ請求或ハ申述ニ依リ封印ヲ附シタル事ヲ其調書ニ表示ス可シ

第五 封印ヲ許可スル命令ヲ爲シタル時ハ其命令

第六 關係各人ノ出席及ヒ申立

第七 其孔口ニ封印ヲ附シタル場所、桌子、箱篋、戸棚ノ指定

第八 封印ヲ附セサル品物ノ簡略ナル明記

第九 封印ヲ附スルノ時ニ當リテ其場所ニ居住スル者ノ何等ノ物ヲモ詐取セス又直接或ハ間接ニ何等ノ物ヲモ詐取スルヲ見ス又之ヲ知ラサル旨ノ誓

第十 立テントスル監守人ノ必要ナル性質ヲ有スル時ハ其監守人ノ設置但シ其立テントスル監守人ノ必要ナル性質ヲ有セサル時又ハ監守人ヲ立テント申述セサル時ハ治安裁判官ノ職權ヲ以テ監守人ヲ設置ス可キモノトス(新五九六九一五以下九三六九四三ノ第八)

第九百拾五條 封印ヲ附シタル鎖ノ鑰ハ其封印ノ除去ニ至ル迄治安裁判所書記ノ手裏ニ預リ置キ其書記ハ右ノ鑰ヲ受取リタル旨ヲ調書ニ記載ス可シ而シテ裁判官モ又書記モ封印除去ニ至ル迄ハ其封印ノアル家屋内ニ行

クヲ得ス若シ之ニ背ク時ハ其職務ヲ禁止セラル可シ但シ裁判官又ハ書記ノ其家屋内ニ行クヲ請求セラレ又ハ其家屋ニ至ル前ニ理由ヲ附シタル命令書ヲ受ケシ時ハ格別ナリトス(新九一四二〇二九)

第九百拾六條 封印ヲ附スル時ニ當リテ封シタル遺囑 又ハ其他ノ書類アル時ハ治安裁判官其外部ノ體裁及ヒ押印ト上ハ誓ノアルニ於テハ其上ハ誓トヲ証明シ若シ出席シタル各人ノ花押ヲ爲スヲ知リ又ハ之ヲ爲シ得ルニ於テハ其各人ト共ニ封袋ニ花押ヲ爲シ且ツ其包ヲ自己ヨリ始審裁判所長ニ呈出ス可キ時日ヲ指示ス可シ但シ治安裁判官ハ右ノ諸件ヲ其調書ニ記載シテ出席シタル各人之ニ署名ス可ク若シ然ラザレハ其各人拒メ旨ヲ記載ス可キモノトス(新九一四九一七以下九二〇九七六、九七六一〇〇七)

第九百拾七條 治安裁判官ハ關係各人ノ請求ニ依リ封印ヲ附スル前ニ其存在ノ通知セラレタル遺囑書ノ捜査ヲ爲ス可ク而シテ之ヲ見出シタル時ハ前ニ記シタル如クニ處分ス可シ(新九一六九二〇九三六)

第九百拾八條 別ニ呼出ヲ爲スニ及ハスシテ其指示セラレタル日時ニ至リ

封シタル儘ニテ見出サレタル包ハ治安裁判官ヨリ始審裁判所長ニ之ヲ呈出シ而シテ始審裁判所長ハ之ヲ開封シテ其景狀ヲ證明シ且ツ其書ニ記シタル所ノモノガ財産相續ニ關スル時ハ其附託ヲ命令ス可シ(新九一六民一〇〇七)

**第九百拾九條** 若シ封シタル包カ其上ハ書ニ依リ又ハ總テ其他ノ書證ニ依リ第三ノ人ニ屬スルモノナリト思ハル、時ハ裁判所長ヨリ其第三ノ人ヲシテ開封ノ時ニ立會フヲ得セシムル爲メ其定ムル所ノ期限内ニ之ヲ招喚ス可キ旨ヲ命令ス可シ但シ裁判所長ハ其指示シタル日ニ至リ右第三ノ人ノ面前ニ於テ開封ヲ爲シ又ハ其出席セサル儘ニテ開封ヲ爲ス可ク而シテ若シ其包カ財産相續ニ關係ナキモノタル時ハ其中ニ記シタル所ノモノヲ知ラシムルヲナクシテ之ヲ其第三ノ人ニ交付シ又ハ其第三ノ人ノ請求次第之ヲ交付スル爲メ更ニ再ヒ之ヲ封ス可シ(新九三九)

**第九百貳拾條** 若シ遺囑書カ封セスシテ見出サレタル時ハ治安裁判官其景狀ヲ證明シ且ツ第九百十六條ニ定メタル所ノモノヲ遵守ス可シ

**第九百貳拾壹條** 若シ入り口ヲ閉タル時又ハ封印ヲ附スルニ付キ障碍ニ遭遇シタル時又ハ封印ヲ爲ス前若クハ其間ニ紛争ノ生スル時ハ裁判所長至急審理ヲ以テ之ヲ裁定ス可シ○之カ爲メ其封印ヲ爲スヲ猶豫シ而シテ治安裁判官ハ外部ノ番人ヲ設置シ又場合ニ依リテハ内部ノ番人ヲモ設置ス可シ但シ治安裁判官ハ即時ニ裁判所長ニ其旨ヲ報告ス可キモノトス然レド治安裁判官ハ若シ遲延ニ於テ危険アル時ハ假リニ裁定スルヲ得可シ但シ其後ニ至リ裁判所長ニ其旨ヲ報告ス可キモノトス(新五八七八。六以下九二八以下)

**第九百貳拾貳條** 封印ノ事項ニ付キ若クハ其他ノ事項ニ付キ治安裁判官ヨリ裁判所長ニ報告ヲ爲ス可キ總テノ場合ニ於テハ其爲シタル所ノモノ及ヒ命令シタル所ノモノハ治安裁判官ノ作リタル調書上ニ之ヲ証明ス可シ但シ裁判所長ハ右調書上ニ於ケル其命令書ニ署名ス可キモノトス(新八〇九九一四九一六)

**第九百貳拾三條** 若シ財産目錄ヲ成就シタル時ハ封印ヲ附スルヲ得ス但



シ其目錄ノ取摺セラレ而シテ裁判所長ヨリ其封印ヲ附ス可キ旨ヲ命令シタル時ハ格別ナリトス

若シ財産目錄ヲ作ル間ニ封印ヲ附スルイヲ請求シタル時ハ其目錄ニ記セサル物品ノミニ封印ヲ附ス可シ

第九百貳拾四條 若シ如何ナルモノタリハ動産ノアラサル時ハ治安裁判官財産虧缺ノ調書ヲ作ル可シ

若シ家屋内ニ居住スル各人ノ使用ニ必要ナル動産又ハ封印ヲ附スルイ能ハサル動産アル時ハ治安裁判官其動産ノ簡略ナル記載ヲ包含スル所ノ調書ヲ作ル可シ

第九百貳拾五條 人口ニ萬以上ノ各邑ニ於テハ始審裁判所ノ書記局ニ封印ノ爲メノ順序ノ簿冊ヲ設ケ置キ而シテ本部ノ各治安裁判官カ封印ヲ附シタル時ヨリ二十四時間ニ送達セシム可キ申述書ニ從ヒ左ノ諸件ヲ其簿冊ニ記入ス可シ

第一 其封印ヲ附シタル動産ヲ所有セシ各人ノ姓名及ヒ居所

第二 封印ヲ附シタル裁判官ノ姓名及ヒ居所

第三 封印ヲ附シタル日

○第貳卷

封印ノ除去ニ付テノ故障申立

第九百貳拾六條 封印ノ除去ニ付テノ故障申立ハ封印ノ調書上ニ於ケル申述ニ依リ若クハ治安裁判官ノ書記ニ送付シタル送達狀ニ依リ之ヲ爲スイヲ得可シ(附九三以下一。三九八二)

第九百貳拾七條 凡ソ封印ノ除去ニ付テノ故障申立書ニハ總テノ送達狀ニ共通ノモノタル法式ノ外更ニ左ノ諸件ヲ記ス可ク若シ然ラサレハ無効タル可シ

第一 若シ故障申立人ノ其封印ヲ附シタル邑内又ハ治安裁判所ノ管轄地内ニ居住セサル時ハ其邑内又ハ管轄地内ニ於ケル住所ノ撰定

第二 故障申立ノ原由ノ着實ナル表示(附九二六一。二九)

○第三卷 封印ノ除去

**第九百貳拾八條** 若シ埋葬以前ニ封印ヲ附シタル時ハ其埋葬ノ時ヨリ三日ノ後又埋葬ノ後ニ封印ヲ附シタル時ハ其封印ヲ附シタル時ヨリ三日ノ後ニ非サレハ封印ヲ除去シ及ヒ財産目録ヲ作ルヲ得ス若シ之ニ背ク時ハ封印除去及ヒ目録ノ調書ノ效ナカル可ク且ツ其調書ヲ作り及ヒ請求シタル各人ニ對シテ損害賠償ヲ言渡ス可シ但シ始審裁判所長ノ命令書ニ記載シタル至急ヲ要スル理由ノ爲メ右裁判所長ヨリ別段ノ命令ヲ爲シタル時ハ格別ナリトス○此場合ニ於テ若シ封印ノ除去ニ立會フ可キノ權利ヲ有スル各人ノ出席セサル時ハ封印ノ除去ト財産目録トニ付キ其各人ノ爲メ裁判所長ノ職權上ヨリ撰任シタル公証人一名ヲ招喚ス可シ(附八。六以下九三)

六九四。一。二九前四七九

**第九百貳拾九條** 若シ相續人數名又ハ其中或者ノ後見ヲ免脱セラレサル幼者ナル時ハ豫メ其後見人ヲ撰任シ又ハ其後見ヲ免脱シタルニ非サレハ封印ノ除去ニ取掛ル可カラズ(附九一。民四。五。四七六以下)

**第九百三拾條** 凡ソ封印ヲ附セシムルノ權利ヲ有スル各人ハ封印ノ除去ヲ請求スルヲ得可シ但シ前第九百九條ノ第三ノミニ據リ封印ヲ附セシメタル者ハ格別ナリトス(民七六八前四七九)

**第九百三拾壹條** 封印ノ除去ヲ得ル爲メノ法式ハ左ノ諸件ナリトス

- 第一 之レカ爲メ治安裁判官ノ調書上ニ記スル所ノ請求
  - 第二 除去ヲ爲ス可キ日時ヲ指示スル裁判官ノ命令
  - 第三 生殘ル配偶者思置ノ相續人遺囑執行者全括ノ受遺囑者及ヒ全括ノ名義ニ於ケル受遺囑者ノ知レタル時ハ此等ノ受遺囑者及ヒ故障申立人ニ爲シタル其除去ニ立會フ可キノ催促
- 關係各人ノ五ミリアメートル距離外ニ居住スル時ハ其關係各人ヲ招喚

スルヲ要セス然レハ其除去ト財産目録トニ於テ其各人ノ爲メ始審裁判所長ノ職權上ヨリ撰任シタル公証人一名ヲ招喚ス可シ

故障申立人ハ其撰定シタル住所ニ招喚セラル可シ(新九二七九四三民一一三九二及九四三)

第九百三拾貳條 配偶者遺囑執行者相續人全括ノ受遺囑者及ヒ全括ノ名義ニ於ケル受遺囑者ハ封印ノ除去及ヒ財産目録ノ取調席毎ニ自カラ立會ヒ又ハ代理者ヲシテ立會ハシムルヲ得可シ

故障申立人ハ第一次ノ取調席ニ於ケルノ外自カラ立會ヒ又ハ代理者ヲシテ立會ハシムルヲ得ス其故障申立人数名ハ次キノ取調席ニ於テハ其全員ノ爲メニ代理者一名ヲ合意シテ撰定シ之ヲシテ代理セシム可ク若シ協議セサル時ハ裁判官ノ職權上ヨリ其代理者一名ヲ撰定ス可シ

若シ其代理者中ニ其地ヲ管轄スル始審裁判所ニ於ケル代書人アル時ハ其本人ノ証券ヲ呈示スルニ依リ其權力ヲ証明ス可ク而シテ公正ノ証券ヲ以テ憑據ト爲ス各債主ノ代書人中ニ就キ其受任ノ順序ニ於テ最先任ノ者ハ

故障申立人全員ノ爲メニ當然立會フ可ク若シ債主中ニ公正ノ証券ヲ以テ憑據ト爲ス者アラサル時ハ私シノ証券ヲ以テ憑據ト爲ス故障申立人ノ代書人中最先任者其立會ヲ爲ス可シ○其先後ノ順序ハ第一次ノ取調席ニ於テ確然之ヲ規定ス可シ(新五二九五三六)

第九百三拾三條 若シ故障申立人中ノ一人カ他ノ者ノ利益ト異ナリタル利益ヲ有シ又ハ相反シタル利益ヲ有スル時ハ自己ノ費用ニテ自カラ立會ヒ又ハ己レ一個ノ代理者ヲシテ立會ハシムルヲ得可シ

第九百三拾四條 自己ノ負債者ノ權利ヲ保存スル爲メノ故障申立人ハ第一次ノ取調席ニ立會フヲ得ス又其他ノ取調席ノ爲メ共通ノ代理者ヲ撰任スルニ付キ參加スルヲ得ス(新七七八民一一六六)

第九百三拾五條 財産ヲ共通スル配偶者相續人遺囑執行者及ヒ全括ノ受遺囑者又ハ全括ノ名義ニ於ケル受遺囑者ハ公証人一名又ハ二名及ヒ動産評價人一名又ハ二名或ハ鑑定人一人又ハ二名ノ撰任ニ付キ合意スルヲ得可シ若シ之ヲ合意セサル時ハ物品ノ性質ニ從ヒ始審裁判所長ノ職權上ヨ

リ撰任シタル公証人動産評價人又ハ鑑定人一名又ハ二名ヲシテ取扱ハシ  
△可シ○鑑定人ハ治安裁判官ノ面前ニ於テ誓ヲ爲ス可キモノトス(訴三〇五  
九三六)

第九百三拾六條

封印除去ノ調書ニハ左ノ諸件ヲ記ス可シ

第一 日附

第二 請求者ノ姓名職業居所及ヒ住所ノ撰定

第三 其除去ノ爲メニ交付シタル命令書ノ表示

第四 前第九百三十一條ニ定メタル催促ノ表示

第五 關係各人ノ出席及ヒ申立

第六 取扱ヲ爲ス可キ公証人動産評價人及ヒ鑑定人ノ撰任

第七 封印ノ損破スルコトナキ時ハ其封印ノ認定若シ又損破シタル時ハ

變更ノ景狀但シ其變更ノ爲メ相當ノ上訴ヲ爲スコトヲ得可キモノトス

第八 捜査ノ爲メノ請求其捜査ノ成果及ヒ裁定ヲ爲ス可キ總テ其他ノ

請求(訴九一四九一七九三。以下九三七以下九四三前二四九以下)

第九百三拾七條

封印ハ財産目錄ヲ作ルニ准シテ逐次之ヲ除去ス可ク而シ  
テ各次ノ取調席ノ終ニ於テ更ニ封印ヲ附ス可シ

第九百三拾八條

同一ノ性質ノ物品ハ其順序ニ從ヒ逐次之ヲ財産目錄ニ記  
スル爲メニ併合スルコトヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ其物品ニ更ニ封印ヲ  
爲ス可キモノトス

第九百三拾九條

若シ財産相續ニ關係ナクシテ而シテ第三ノ人ノ得ント求  
ムル所ノ物品及ヒ書類ノアル時ハ其屬スル所ノ者ニ之ヲ交付ス可シ若シ  
直チニ之ヲ交付スルコトヲ得スシテ且ツ之レカ明細書ヲ爲スノ必要ナル時  
ハ封印ノ調書ニ其明細書ヲ爲ス可ク財産目錄ニ其明細書ヲ爲ス可カラズ  
(訴九一九九三六)

第九百四拾條

若シ封印ヲ除去スル前又ハ之ヲ除去スル間ニ封印ヲ附スル  
原由ノ止ミタル時ハ明細書ナクシテ其封印ヲ除去ス可シ(訴九三〇)

○第四卷 財産目録

第九百四拾壹條 財産目録ハ封印ノ除去ヲ請求スルノ權利アル各人ヨリ之ヲ請求スルコトヲ得可シ(新九。九以下九三。一〇〇。民一二六四五一六。〇。六二六七六九七九四以下八一三一。〇三一。一。五八。一四五六一五。四。商四七九以下)

第九百四拾貳條 財産目録ハ左ノ各人ノ面前ニ於テ之ヲ作ラサル可カラス

- 第一 生殘ル配偶者
- 第二 思量ノ相續人
- 第三 遺囑ノ知レタル時ハ遺囑執行者
- 第四 所有權ニ於ケルト使用收益權ニ於ケルトヲ問ハス全括又ハ全括ノ名義ニ於ケル受贈者及ヒ受遺囑者ノ五ミリアメートルノ距離内ニ居住スル時ハ此等各人ノ面前又ハ此等ノ各人ヲ適法ニ招喚シタル上ニテ財産目録ヲ作ル可ク若シ此等各人ノ五ミリアメートルノ距離外ニ居住スル時ハ招喚セラレテ缺席スル各人ニ代理セシムル爲メ始審

裁判所長ヨリ撰任シタル公証人一名ヲ其不在者全員ノ爲メニ招喚ス可シ(新九三一ノ第三九四七民一一三四五一七九四)

第九百四拾三條

其目録ニハ公証人ノ面前ニテ作ル所ノ各證書ニ共通ノモトナル法式ノ外更ニ左ノ諸件ヲ記スヘシ

- 第一 請求者出席者缺席者及ヒ不在者ノ姓名職業居所ノ知レタル時ハ其姓名職業居所此等ノ各人ニ代理スル爲メニ招喚セラレタル公証人ノ姓名職業居所助産評價人及ヒ鑑定人ノ姓名職業居所並ニ不在者及ヒ缺席者ノ爲メニ公証人ヲ委任スル命令ノ記載
- 第二 目録ヲ作ル地ノ指示
- 第三 品物ノ明記及ヒ評價但シ其評價ハ正當ノ價額ニテ増額ヲ要スルコトナク之ヲ爲ス可キモノトス
- 第四 銀器ノ品質重量及ヒ性合ノ指定
- 第五 貨幣ノ指定
- 第六 書類ハ其初ト終トニ番號ヲ附シ且ツ公証人ノ手ニテ之ニ花押ヲ

附ス可ク又商業上ノ帳簿及ヒ簿冊ノアル時ハ之レカ景狀ヲ証明シ若シ其各葉ニ番號ヲ附シ及ヒ花押ヲ附セサル時ハ右ニ同シク之ニ記號ト花押トヲ附ス可ク若シ又文字ヲ書シタル頁中ニ空白アル時ハ其空白ニ線ヲ引ク可シ

第七 能働及ヒ所働ノ証券ノ申述

第八 財産目錄ノ前ニ物品ヲ占有シタル者又ハ其物品所在ノ家屋ニ住居シタル者ノ其目錄終成ノ時ニ當リテ其物品ヲ詐取セス又何等ノ物ヲモ詐取スルヲ見ス又之ヲ知ラサル旨ノ誓ノ記載

第九 別段ノ理由アル時ハ合意シテ撰定シタル者若シ又合意セサル時ハ裁判所長ノ撰任シタル者ノ手裏ニ於ケル品物及ヒ書類ノ交付(第九一四九三六民一一三四五二四五三三九二八二五二四六〇一四七七)

第九百四拾四條 若シ財産目錄ノ時ニ當リテ紛争ノ生スル時又ハ共通財産或ハ遺留財産ノ管理ノ爲メ又ハ其他ノ目的ノ爲メニ請求ヲ爲シ而シテ他ノ各人ニ於テ之ヲ承引セサル時ハ公証人其關係各人ヲシテ始審裁判所長

ノ面前ニ於テ至急審理ヲ受クル爲メニ上訴セシム可ク又公証人ハ其裁判所々在ノ縣内ニ居住スル時ハ己レ自カラ至急審理ヲ受クル爲メニ上訴スルヲ得可シ但シ此場合ニ於テ裁判所長ハ調書ノ細字正本上ニ其命令ヲ記ス可キモノトス(第九〇六以下)

○第五卷 動産ノ賣拂

第九百四拾五條 遺留財産ニ屬スル動産ノ賣拂ヲ民法第八百二十六條ニ據リ爲ス可キ時ハ動産差押ノ卷ニ定メタル法式ヲ以テ其賣拂ヲ爲ス可シ(第九六一七以下九六五九八七九八九一〇〇民四五二七九六以下八一五八二六前七六)

第九百四拾六條 關係各人中一名ヨリ請求ノ上始審裁判所長ノ命令ニ據リ公ケノ役員其賣拂ヲ爲ス可シ(第九四四九四七以下九八六八九九)

第九百四拾七條 財産目錄ニ立會フ可キノ權利アリテ五ミリアメートルノ

距離内ニ居住シ又ハ住所ヲ撰定シタル各人ハ之ヲ招喚ス可シ但シ其証書ハ撰定シタル住所ニ送達ス可キモノトス(昨九三二ノ第三九四二)

第九百四拾八條 若シ紛争ノ生スル時ハ始審裁判所長至急審理ヲ以テ假リニ裁定スルヲ得可シ(昨八〇六以下)

第九百四拾九條 其賣拂ハ品物所在ノ地ニ於テ之ヲ爲ス可シ但シ別段ノ命令アル時ハ此限ニアラス(昨六一七六ニ。以下九四五)

第九百五拾條 其賣拂ハ出席セサル者ノ爲メニ何人ヲモ招喚スルヲナク出席ト不在トヲ問ハス之ヲ爲ス可シ(昨九四七九五)

第九百五拾壹條 調書ニハ請求者ノ出席又ハ不在ヲ記載ス可シ(昨六二三九五)

第九百五拾貳條 若シ各人ノ皆成年ニシテ出席シ且ツ相合同シ而シテ第三ノ關係人アラサル時ハ其各人ハ前ニ記シタル法式中何レノモノヲモ遵守スルニ及ハス(昨九八五)

○第六卷

法律

幼者ニ屬スル不動産ノ賣拂千八百四十一年六月二日ノ

第九百五拾三條

幼者ニ屬スル不動産ノ賣拂ハ其財産ノ性質ト其見積リ價額トヲ表示スル親族ノ意見ニ據ルニ非サレハ之ヲ命令スルヲ得ス

若シ其財産カ之レト同時ニ成年者ニ屬シ而シテ成年者ヨリ其賣拂ヲ請求スル時ハ右ノ意見ヲ必要トセス○然ル時ハ分派及ヒ不分割ノ賣賣ノ卷ニ從ヒ之ヲ處分ス可シ(昨九六六以下九八五民四。五以下四五七四六。四六五八。六八二七)

第九百五拾四條

裁判所ニ於テ右ノ意見ヲ認可シタル時ハ之ト同一ノ裁判ニ依リ裁判所ノ賣拂審問席ニ於テ其裁判所ノ裁判官中一名ノ面前ニテ其賣拂ヲ爲シ若クハ特ニ委任セラレタル公證人ノ面前ニテ其賣拂ヲ爲ス可キ旨ヲ宣告ス可シ

若シ其不動産ノ數郡ニ在ル時ハ裁判所ヨリ其各郡ニ於テ公證人ヲ委任シ

又然ノミナラス其財産所在地ノ各裁判所ニ委託ノ證書ヲ附與スルヲ得可シ(新八八五九五三九五五)〇三五民四五七四五八四五九)

**第九百五拾五條** 其賣拂ヲ命令スル裁判書ニハ賣拂ヲ可キ各箇ノ不動産ノ見積リ代價ト其賣拂ノ要件トヲ定ム可シ〇其見積リ代價ハ親族ノ意見ニ從ヒ若クハ所有權ノ證券ニ從ヒ若クハ公正ノ貸貸證書又ハ正確ナル日附ヲ得タル私署ノ貸貸證書ニ從ヒ若シ又貸貸證書ノアラサル時ハ地稅ノ納稅人姓名表ニ從ヒ之ヲ規定ス可シ

然レモ裁判所ハ景況ニ從ヒ不動産ノ全部又ハ一部ノ評價ニ取掛ラシムルヲ得可シ

其評價ハ財産ノ輕重及ヒ性質ニ從ヒ裁判所ヨリ特ニ委任シタル鑑定人一名又ハ三名ニテ之ヲ爲ス可シ(新三〇二以下九九七)

**第九百五拾六條** 評價ヲ命令シタル時ハ鑑定人一名又ハ三名ハ裁判所長ノ面前若クハ裁判所長ノ委任シタル治安裁判官ノ面前ニ於テ誓ヲ爲シタル後其報告書ヲ作ル可シ但シ其報告書ニハ賣拂ヲ可キ財産ヲ詳細ニ記載ス

ルヲナク簡畧ニ其評價ノ基本ヲ指示ス可キモノトス

其報告書ノ細字ノ正本ハ裁判所ノ書記局ニ之ヲ納ム可シ〇其細字ノ正本ハ之レカ副本ヲ交付ス可カラヌ(新三〇七三一五三一八以下民八二四)

**第九百五拾七條** 雜賣ハ代書人ヨリ裁判所ノ書記局ニ納メタル雜賣箇條書ニ依リ若シ又委任セラレタル公証人ノ面前ニ於テ賣拂ヲ爲ス可キ時ハ其公証人ノ作リテ自己ノ役場ニ納メタル雜賣箇條書ニ據リ之ヲ開始ス可シ其雜賣箇條書ニハ左ノ諸件ヲ記ス可シ

- 第一 賣拂ヲ許可シタル裁判書ノ表示
- 第二 所有權ヲ証スル証券ノ表示
- 第三 賣拂ヲ可キ財産ノ性質及ヒ所在地ノ指示不動産ノ指示其見積リ面積ノ指示及ヒ横隣及ヒ裏隣中二箇ノ指示
- 第四 雜賣ヲ開始ス可キ代金ノ表示及ヒ賣拂ノ要件(新六七五ノ第三六九〇ノ

第四)

**第九百五拾八條** 雜賣箇條書ヲ納メタル後左ノ諸件ヲ記スル所ノ貼附書ヲ



作リテ之ヲ印刷ス可シ

- 第一 賣拂ヲ許可シタル裁判書ノ表示
- 第二 幼者其後見人及ヒ其代後見人ノ姓名職業住所
- 第三 糶賣箇條書ニ記入シタル如キ財産ノ指定
- 第四 賣拂ヲ可キ各箇ノ財産ニ付キ糶賣ヲ開始ス可キ代金
- 第五 糶賣入札ノ日場所時並ニ公証人及ヒ其居所ノ指示若クハ其糶賣入札ヲ爲ス可キ裁判所ノ指示及ヒ如何ナル場合ニ於テモ賣主ノ代書人ノ指示(第六九九以下七四三三八三六九五九以下民一〇ニ以下三八八以下四五九以下)

第九百五拾九條

貼附書ハ糶賣入札ノ時ヨリ少クモ十五日多クモ三十日前ニ第六百九十九條ニ指定シタル各箇ノ場所ニ之ヲ貼附シ且ツ右ノ外其賣拂ヲ爲ス公証人ノ役場ノ入り口ニ之ヲ貼附ス可シ但シ其貼附ヲ爲シタル事ハ同條ニ從ヒ之ヲ証明ス可キモノトス(第七四三三八三六九六〇)

第九百六拾條 其貼附書ノ寫ヲ右ト同一ノ期限内ニ第六百九十六條ニ指示

シタル新聞紙ニ記入ス可ク若シ又財産所在ノ郡ニ於テ賣拂ノ手續ヲ爲サハル時ハ其賣拂ノ手續ヲ爲ス郡ノ爲メニ指定シタル新聞紙ニ亦之ヲ記入ス可シ

其新聞紙ニ記入ヲ爲シタル事ハ第六百九十八條ニ從ヒ之ヲ証明ス可シ(第六九五以下)

第九百六拾壹條

財産ノ性質及ヒ輕重ニ依リ第六百九十七條及ヒ第七百條ニ從ヒ其賣拂ヲ更ニ一層公示スルヲ得可シ

第九百六拾貳條

幼者ノ代後見人ハ民法第四百五十九條ニ定メタル如ク賣拂ニ之ヲ招喚ス可ク之カ爲メ其糶賣入札ノ日場所時ヲ一月以前ニ代後見人ニ通知シ且ツ其代後見人ノ出席ト不在トヲ問ハス其糶賣入札ヲ爲ス可キ旨ヲ通知ス可シ(第六九五ノ第二一〇三三)

第九百六拾三條

若シ糶賣入札ノ爲メニ指示シタル日ニ於テ其糶賣カ見積リ代價ニ登ラサル時ハ裁判所ハ裁判官會議室ニ於ケル單純ナル請求書ニ依リ財産ヲ其評價以下ニテ落札ス可キ旨ヲ命令スルヲ得可シ但シ其糶賣

入札ハ裁判ニ依リ定メタル期限ニ之ヲ延ス可ク而シテ其期限ハ十五日ヨリ少ナキコトヲ得サルモノトス

其糶賣入札ハ少クモ八日前ニ前ニ記シタル如ク更ニ貼附及ヒ新聞紙ニ於ケル記入ヲ以テ之ヲ指示ス可シ(第七〇四九五九以下)

第九百六拾四條 第七百一條第七百五條第七百六條第七百七條第七百十一條第七百十二條第七百十三條第七百三十三條第七百三十四條第七百三十五條第七百三十六條第七百三十七條第七百三十八條第七百三十九條第七百四十條第七百四十一條第七百四十二條ハ本卷ニ共通ノモノト定ム  
然レモ若シ公証人ノ糶賣ヲ爲ス時ハ何人ニ限ラヌ代書人ノ紹介ナクシテ其糶賣ヲ爲スコトヲ得可シ

公証人ノ面前ニ於ケル賣拂ノ場合ニ於テ若シ過當ノ糶買ヲ爲ス時ハ其請求ヲ裁判所ニ申告ス可シ  
○糶賣落札人ノ其糶賣落札條件ノ履行ヲ証明セカリシ旨ヲ証スル保証書ハ公証人ヨリ之ヲ交付ス可シ  
○糶賣落札ノ調書ハ糶買ニ用立ッ爲メ之ヲ書記局ニ納ム可シ(第七〇一)

第九百六拾五條 糶賣落札ノ時ヨリ八日內ニ何人ニ限ラス前第七百八條第七百九條第七百十條ニ規定シタル法式ト期限トニ從ヒ六分一ノ増糶買ヲ爲スコトヲ得可シ

右ニ記シタル増糶買ノ後ニ再度ノ糶賣落札ヲ爲シタル時ハ共同一ノ財産ニ付キ更ニ其他ノ増糶買ヲ爲スコトヲ得ス(第八三八九八五民二一八五)

○第七卷 分派及ヒ不分物ノ糶賣

第九百六拾六條 民法第八百二十三條及ヒ第八百三十八條ノ場合ニ於テ裁判上ニテ分派ヲ爲サ、ルヲ得サル時ハ最モ先キニ手續ヲ爲ス者ヨリ上訴ス可シ(民四〇五八一五以下八八二一六八六以下一八七三三二〇五)

第九百六拾七條 原告人二名ノ間ニ於テハ裁判所ノ書記ヲシテ先キニ其呼出狀ノ正本ニ檢署セシメタル者ニ請求手續ノ權利アリトス但シ其檢署ニ

ハ之レカ日時ヲ記ス可シ(附一〇三九)

**第九百六拾八條** 互ニ反對ノ利益アル各個ノ幼者ニ附ス可キ特別格段ナル後見人ハ親族ノ意見ノ卷ニ記シタル規則ニ從ヒ之ヲ撰任ス可シ(附八八以下民四〇六以下八三八)

**第九百六拾九條** (千八百四十一年六月二日ノ法律ヲ派ニ於ケル訟求ニ付キ宣告スル所ノ裁判ハ別段ノ理由アルニ於テハ民法第八百二十三條ニ從ヒ裁判官一名ヲ委任シ且ツ之ト同時ニ公証人一名ヲ委任ス可シ)

若シ所爲ノ進行中ニ裁判官又ハ公証人ニ差支アル時ハ裁判所長請願書ニ依リ一箇ノ命令ヲ以テ其引易ノ設備ヲ爲ス可シ但シ其命令ハ故障申立ヲモ又控訴ヲモ爲ス可カラサルモノトス(附九五四九七〇以下民八二三)

**第九百七拾條** (千八百四十一年六月二日ノ法律) 裁判所ハ右ノ訟求ニ關シテ宣告スルニ付キ之ト同一ノ裁判ヲ以テ分派ヲ爲シ得可キ時ハ分派ヲ命令シ又ハ不分物ノ糶賣ニ依レル糶賣ヲ命令ス可シ但シ其糶賣ハ第九百五十四條ニ從ヒ裁判所ノ職員ノ面前又ハ公証人ノ面前ニ於テ之ヲ爲ス可キモ

ノトス

裁判所ハ分派ヲ命令スルト不分物ノ糶賣ヲ命令スルトヲ問ハス假令訴訟中ニ幼者アル時ト雖モ豫メ鑑定ヲ爲サスシテ直チニ其分派又ハ不分物ノ糶賣ニ取り掛ル可キ旨ヲ宣告スルヲ得可シ但シ不分物糶賣ノ場合ニ於テハ裁判所ニ於テ第九百五十五條ニ從ヒ見積リ代價ヲ定ム可キモノトス(附九六九九七〇以下民八二四八二七二六八六)

**第九百七拾壹條** (千八百四十一年六月二日ノ法律) 若シ裁判所ヨリ鑑定ヲ命令スル時ハ鑑定人一名又ハ三名ヲ委任スルヲ得可ク而シテ其鑑定人ハ第九百五十六條ニ記シタル如ク誓ヲ爲ス可キモノトス  
鑑定人ノ撰任及ヒ報告ハ鑑定人ノ報告ノ卷ニ定メタル法式ニ從ヒ之ヲ爲ス可シ

鑑定人ノ報告書ニハ其分派シ又ハ不分物糶賣ヲ爲ス可キ財産ヲ詳細ニ記載スルヲナク簡略ニ其評價ノ基本ヲ示ス可キモノトス  
其訟求ノ手續ヲ爲ス者ハ代書人ヨリ代書人ヘノ單純ナル請求ノ証書ニ依

リ報告書ノ認可ヲ請求ス可シ(附三〇三以下民八二四)

第九百七拾貳條 (千八百四十一年六月二日ノ法律賣拂ニ付テハ幼者ニ屬スル不動産ノ賣拂ノ卷ニ定メタル法式ニ從フ可シ但シ糶賣箇條書ニ左ノ諸件ヲ加フ可キモノトス

請求ノ手續ヲ爲ス者ノ姓名居所及ヒ職業並ニ其代書人ノ姓名及ヒ居所不分物共同糶賣者ノ姓名居所及ヒ職業並ニ其代書人ノ姓名居所及ヒ職業(附九五七九七三)

第九百七拾三條 (千八百四十一年六月二日ノ法律) 書記局又ハ公証人ノ役場ニ糶賣箇條書ヲ納メタル時ヨリ八日內ニ不分物共同糶賣者ノ代書人ノ役場ニ送付シタル單純ナル證書ニ依リ其糶賣箇條ヲ査視ス可キノ催促ヲ其共同糶賣者ニ爲ス可シ  
若シ糶賣箇條書ニ付キ紛争ノ起リタル時ハ別ニ請願書ヲ差出スコナク代書人ヨリ代書人ヘノ單純ナル證書ヲ送付シタル上審問席ニ於テ之ヲ裁定ス可シ

右ニ付キ爲ス所ノ裁判ハ此法典第七百三十一條及ヒ第七百三十二條ニ定メタル法式ト期限トニ於テ控訴ヲ爲スノ外之ヲ駁撃スルコトヲ得ス  
糶賣箇條書ヲ査視ス可キ旨ノ催促以後ノ法式ニ關スル紛争ニ付テノ總テ其他ノ裁判ハ故障申立ニ依テモ又控訴ニ依テモ之ヲ駁撃スルコトヲ得ス  
若シ糶賣入札ノ爲メニ指示セラレタル日ニ於テ其糶買カ見積リ代價ニ達セサル時ハ第九百六十三條ニ記シタル如クニ處分ス可シ

糶賣落札ノ時ヨリ八日內ニ何人ニ限ラヌ第七百八條第七百九條第七百十條ニ定メタル條件ト法式トニ從フニ於テハ主タル代金ノ六分一ノ増糶買ヲ爲スコトヲ得可シ○其増糶買ハ幼者ノ財産ノ賣拂ニ於ケルト同一ノ效ヲ生ス可キモノトス(附四五六九五八九六三九六五九七二九七七一〇三三民八二二以下)

第九百七拾四條 若シ不動産ノ所在地ノ爲メ相異ナレル數箇ノ鑑定ヲ必要トシ而シテ其各箇ノ不動産カ分派ス可カラスト申述セラレタル時ト雖モ若シ其數箇ノ報告書ヲ照ラシ合ハスニ依リ其數箇ノ不動産ノ全部ヲ都合ヨク分派シ得可キ旨ヲ推知シタル時ハ不分物ノ糶賣ヲ爲ス可カラサルモ

ノトス(民八三三三三六六二)

**第九百七拾五條** (千八百四十一年六月二日ノ法律若シ分派ニ於ケル訟求カ關係各人ノ權利ノ既ニ算定セラレタル一箇又ハ數箇ノ不動産ノ分割ノヨリ以テ目的ト爲ス時ハ鑑定人ハ評價ヲ爲スニ付キ民法第四百六拾六條ニ定メタル如ク區分財産ヲ組立ツ可シ而シテ鑑定人ノ報告書ノ認可セラレタル後ニ至リ其區分財産ヲ第九百六十九條ノ文面ニ據リ裁判所ヨリ既ニ委任シタル委員裁判官ノ面前若クハ公証人ノ面前ニ於テ抽籤ス可キモノトス(昨九七六以下民八二八以下八三四以下)

**第九百七拾六條** (千八百四十一年六月二日ノ法律其他ノ場合ニ於テ就中裁判所ヨリ鑑定人ノ報告ヲ爲サシメスシテ分派ヲ命令シタル場合ニ於テハ訟求ノ手續ヲ爲ス者ハ民法第八百二十八條ニ定メタル如ク計算返還財産合部ノ組成先收區分財産ノ組立及ヒ供給ニ取掛ル爲メ共同分派人ノ其指シセラレタル日ニ於テ委任セラレタル公証人ノ面前ニ出席ス可キ旨ヲ催促ス可シ

不分物ノ雜賣ヲ爲シタル後ト雖モ若シ數箇ノ區分財産ノ間ニ平均ヲ得セシムル爲メ其雜賣落札ノ代金ヲ分派ノ共同財産合部中ノ他ノ物件ト混同セサル可カラサル時ハ亦右ト同一タル可シ(昨九六九以下九七五九七七以下)

**第九百七拾七條** 委任セラレタル公証人ハ第二ノ公証人又ハ証人ノ補助ナク唯一人ニテ處分ス可シ而シテ關係各人ノ代辦人ノ補助ヲ受ケタル時ハ其代辦人ノ謝金ハ分派ノ費用中ニ入ル可カラスシテ本人ノ責任タル可シ民法第八百三十七條ノ場合ニ於テハ公証人別段ノ調書ニ爭論及ヒ關係各人ノ申立ヲ記ス可シ但シ其調書ハ公証人ヨリ之ヲ書記局ニ差出シテ書記局ニ留メ置ク可キ者ノトス

委員裁判官ヨリ關係各人ヲ審問席ニ移送シタル時ハ其關係各人ノ出席ス可キ日ヲ指示シタルヲ以テ其關係各人ノ爲メニハ呼出ニ代用ス可キモノトス

其裁判官ノ面前若クハ審問席ニ出席セシムル爲メニハ別ニ催促ヲ爲ス可カラス(昨九七三九七六九八〇以下)

**第九百七拾八條** 民法第八百二十九條第八百三十條第八百三十一條ニ從ヒ分派ノ財産合部並ニ關係各人ノ爲ス可キ返還及ヒ先收ヲ公証人ノ設定シタル時ハ共同相續人ノ皆成年者ニシテ撰定ニ付キ合同シ且ツ其撰定シタル所ノ者ノ其委任ヲ受諾シタル時ハ共同相續人中ノ一人ニ於テ區分財産ヲ作ル可ク之ニ反シタル場合ニ於テハ公証人總テ其他ノ訴訟手續ヲ要スルヲナクシテ關係各人ヲ委員裁判官ノ面前ニ移送シ而シテ委員裁判官ハ鑑定人一名ヲ撰任ス可シ(民八三四)

**第九百七拾九條** 關係各人ノ撰定シタル共同相續人又ハ區分財産ノ組成ノ爲メニ撰任セラレタル鑑定人ハ報告書ヲ以テ其組立ヲ証明ス可シ但シ其報告書ハ公証人以前ノ所爲ノ後ニ之ヲ作ル可キモノトス(民九七八九八〇以下)

**第九百八拾條** 區分財産ヲ定メ而シテ若シ其組成ニ付キ爭論ノアル時ハ之ヲ裁判シタル上ニテ認求ノ手續ヲ爲ス者ハ共同分派人ノ其公証人ノ調書終成ノ時ニ於テ立會ヲ爲シ其讀上ヲ聞キテ若シ署名スルヲ得又ハ署名セント欲スル時ハ已レト共ニ其調書ニ署名セシムル爲メ其指示セラレタ

ル日ニ於テ公証人ノ役場ニ出席セシムル爲メ其共同分派人ニ催促セシム可シ(民八三五)

**第九百八拾壹條** 公証人ハ裁判所ヨリ分派ノ認可ヲ得ント求メシムル爲メ最モ先キニ手續ヲ爲ス者ニ其分派ノ調書ノ副本ヲ交付ス可シ而シテ裁判所ハ委員裁判官ノ報告ニ據リ關係各人出席ノ上若シ又其各人中ニ調書終成ノ時ニ出席セカリシ者アルニ於テハ其各人ヲ招喚シタル上且ツ關係各人ノ分限カ檢事ノ參涉ヲ要スル場合ニ於テハ檢事ノ意見申立ノ上其分派ヲ認可ス可キ時ハ之ヲ認可ス可シ(民八三九八二)

**第九百八拾貳條** 認可ノ裁判書ニハ委員裁判官ノ面前若クハ公証人ノ面前ニ於ケル區分財産ノ抽籤ヲ命令ス可シ但シ委員裁判官又ハ公証人ハ抽籤ノ後直チニ其區分財産ノ引渡ヲ爲ス可キモノトス(民九八二民八三四八四二)

**第九百八拾三條** 書記若クハ公証人ハ關係各人ノ請求ニ從ヒ分派ノ調書ノ全部又ハ一部ノ拔書ヲ交付ス可キモノトス(民八三九以下)

**第九百八拾四條** 若シ幼者又ハ民權ヲ享有セサル其他ノ各人ノ關係アル時

ハ不分ヲ止メシメントスル不分物糶賣及ヒ分派ニ付キ前ニ記シタル法式ニ從テ可キモノトス(民三八八五〇九八一九八三三八三九一六八七)

**第九百八拾五條** 右ノ外若シ共同所有者又ハ共同相續人ノ皆其民權ヲ享有スル成年者ニシテ且ツ皆出席シ又ハ適法ニ代理セラレタル時ハ裁判上ノ方法ヲ用ヒサルコトヲ得可ク又ハ訴訟中何時タリモ裁判上ノ方法ヲ拋棄シ而シテ其相當ト思考スル所ノ方法ヲ以テ處分スル爲メ相合同スルコトヲ得可シ(新九五二民八一九一六八七)

○第八卷 目錄ノ利益

**第九百八拾六條** 若シ相續人ノ其分限ヲ取ル前ニ民法ニ從ヒ遺留財産ニ屬スル動産ノ賣拂ニ取掛ルノ許可ヲ得ント欲スル時ハ之レカ爲メ其財産相續ノ開始シタル地ヲ管轄スル始審裁判所ノ長ニ請願書ヲ呈出ス可シ

其賣拂ハ動産賣拂ノ爲メ前ニ定メタル貼附及ヒ公告ノ後公ケノ役員ニ於テ之ヲ爲ス可シ(新一七四六一七以下九四五以下一〇〇〇民一一〇四六一七九六八〇五)

**第九百八拾七條** (千八百四十一年六月二日ノ法律若シ遺留財産ニ屬スル不動産ヲ賣拂フ可キ時ハ目錄ノ利益ヲ受クル相續人ハ財産相續開始ノ地ノ始審裁判所長ニ請願書ヲ差出ス可シ但シ其請願書ニハ右ノ不動産ヲ簡畧ニ指定ス可キモノトス)○其請願書ハ檢察官ニ之ヲ通報シ而シテ檢察官ノ意見申立及ヒ特ニ委任セラレタル裁判官ヨリ報告ノ上ニテ其賣拂ヲ許可シテ見積リ代價ヲ定ムル所ノ裁判ヲ爲シ又ハ職權上ヨリ撰任シタル鑑定人ヲシテ其不動産ヲ査視シテ之ヲ評價セシム可キ旨ヲ豫メ命令スル所ノ裁判ヲ爲ス可シ

右最後ニ記シタル場合ニ於テハ裁判所ニ於テ請願ニ依リ鑑定人ノ報告書ヲ認可シ而シテ檢察官ノ意見申立ノ上裁判所ヨリ其賣拂ヲ命令ス可シ(新八三三〇二民八〇六)

**第九百八拾八條** (千八百四十一年六月二日ノ法律)前ニ記シタル各箇ノ場合

ニ於テハ幼者ニ屬スル不動産ノ賣拂ノ卷ニ定メタル法式ニ從ヒ其賣拂ヲ爲ス可シ

此法典第七百一條第七百二條第七百五條第七百六條第七百七條第七百一一條第七百十二條第七百十三條第七百三十三條第七百三十四條第七百三十五條第七百三十六條第七百三十七條第七百三十八條第七百三十九條第七百四十條第七百四十一條第七百四十二條第九百六十四條ノ末ノ二項及ヒ第九百六十五條ハ本卷ニ共通ノモノト定ム

目錄ノ利益ヲ受クル相續人ノ若シ本卷ニ定メタル規則ニ從ハスシテ不動産ヲ賣拂ヒタル時ハ單純ナル相續人ト看做サル可シ(附九五三九六六八九七九八九九民七七八七九六八〇以下八〇六二〇六二〇二六一〇三一刑九五三九六六)

**第九百八拾九條** 若シ遺留財産ニ屬スル不動産及ヒ年金收受權ノ賣拂ヲ爲サシム可キ時ハ此類ノ財産ノ賣拂ノ爲メニ定メタル方法ニ從ヒ其賣拂ヲ爲ス可ク若シ之ニ背ク時ハ目錄ノ利益ヲ受クル相續人單純ナル相續人ト看做サル可シ(附六一九六四二以下九四五以下民七七八以下七九六八〇五)

**第九百九拾條** 不動産賣拂ノ代金ハ割合ヲ以テスル分配ノ卷ニ指示シタル法式ニ從ヒ故障ヲ申立ツル各債主ノ間ニ割合ヲ以テ分配ス可シ(附六五六以下民八〇八八〇九)

**第九百九拾壹條** 不動産賣拂ノ代金ハ先取特權及ヒ書入質ノ順序ニ從ヒ之ヲ分配ス可シ(附七四九以下民八〇六以下二〇九四二一六六)

**第九百九拾貳條** 目錄ノ利益ヲ受クル相續人ヲシテ強テ保証人ヲ立テシメント欲スル債主又ハ其他ノ關係人ハ本人又ハ住所ニ送達シタル裁判外ノ証書ヲ以テ特ニ之レカ爲メ其相續人ニ催促ヲ爲サシム可シ(附五一七以下民八〇七二〇四〇以下)

**第九百九拾三條** 其催促ノ日ヨリ三日ノ定期ニ其相續人ノ住所ト裁判所ト在ノ邑トノ間ニ三ミリアメートルノ距離毎ニ一日ヲ加ヘタル期限内ニ其相續人ハ保証人ノ容受ノ爲メニ定タル方法ヲ以テ其財産相續開始ノ地ノ裁判所ノ書記局ニ保証人ヲ呈出ス可シ(附五一七以下一〇三三民一〇二一一〇八〇七)

**參看** 三「ミリアメートル」ハ千八百六十二年五月三日ノ法律ヲ以テ五「ミリアメートル」ト改メタ



第四百二  
第九百九拾四條 若シ保証人ノ容受ニ關シテ紛争ノ起リタル時ハ要求ヲ爲  
ス各債主ハ最先任ノ代書人ニ依リ代理セラル可キモノトス(附五二。以下六五  
三六六七)

第九百九拾五條 目錄ノ利益ノ計算書差出ニ付テハ計算書ノ差出ノ卷ニ定  
メタル方法ヲ遵守ス可シ(附五二七以下民八。三八。九)

第九百九拾六條 目錄ノ利益ヲ受クル相續人ヨリ遺留財産ニ對シテ起ス可  
キ訴ハ他ノ相續人ニ對シテ之ヲ起ス可シ若シ又他ノ相續人アラサル時又  
ハ相續人全員ヨリ訴ヲ起ス時ハ相續人ノ虧缺シタル財産相續ノ管財人ト  
同一ノ方法ヲ以テ撰任シタル目錄ノ利益ニ於ケル管財人ニ對シテ其訴ヲ  
起ス可シ(附九九八九九九民八。二八一三三二五八)

第四百一  
○第九卷 共通財産ノ拋棄嫁資不動産ノ賣拂及ヒ財産相續ノ拋棄  
(千八百四十一年六月二日ノ法律)

第九百九拾七條 共通財産又ハ財産相續ノ拋棄ハ財産共通ノ解分シ又ハ財  
産相續ノ開始シタル地ヲ管轄スル裁判所ノ書記局ニ之ヲ爲シ而シテ民法  
第七百八十四條ニ定メタル簿冊上ニ之ヲ記載ス可ク且ツ同法典第千四百  
五十七條ニ從フ可キモノトス但シ其他ノ法式ヲ要スルコトナシ  
民法第千五百五十八條ニ定メタル場合ニ於テ嫁資ノ不動産ヲ賣拂フ可キ  
時ハ請願書ヲ差出シタル上公ケノ審問席ニ於テ爲シタル裁判ニ依リ豫メ  
其賣拂ヲ許可ス可シ  
右ノ外幼者ニ屬スル不動産賣拂ノ卷第九百五十五條及ヒ第九百五十六條  
以下ノ各條ヲ適用ス可キモノトス(附七八五以下一四五三一一四五五一四六一)

○第拾卷

相續人ノ虧缺シタル財産相續ノ管財人

第九百九拾八條 若シ目錄ヲ作り及ヒ熟考スル爲メノ猶豫期限ノ終リシ後  
財産相續ヲ要求スル者ノ出テ來ラヌ又ハ人ノ知ル所ノ相續人アラヌ又ハ  
人ノ知ル所ノ相續人ノ其財産相續ヲ拋棄シタル時ハ其財産相續ハ相續人  
ノ虧缺シタルモノト看做サレ而シテ民法第八百十二條ニ從ヒ其財産相續  
ニ管財人ヲ設備ス可シ(民七九五八ニ以下)

第九百九拾九條 管財人二名又ハ數名ノ間ニ於ケル抗競ノ場合ニ於テハ別  
ニ裁判ヲ要セスシテ先ニ撰任セラレタル者ヲ撰取ス可シ

第壹千條 管財人ハ目錄ニ依リ遺留財産ノ景狀ノ證明セラレサルニ於テハ  
先ツ第一ニ目錄ヲ以テ其遺留財産ノ景狀ヲ證明セシム可ク且ツ財産目錄  
ノ卷及ヒ助産ノ賣拂ノ卷ニ定メタル法式ニ從ヒ助産ヲ賣拂ハシム可シ(民  
九四一以下九四五民八一三以下)

第千壹條 目錄ノ利益ノ卷ニ定メタル方法ニ從フニ非サレハ不動産及ヒ年  
金收受權ノ賣拂ヲ爲スヲ得ス(民九八六以下民八一三)

第千貳條 目錄ノ利益ヲ受クル相續人ノ爲メニ定メタル法式ハ相續人ノ虧  
缺シタル財産相續ノ管財人ノ爲ス可キ管理ノ仕方及ヒ其差出ス可キ計算  
書ニモ亦適用ス可キモノトス(民九八六以下民八一四)

○第三編 (千八百六十六年四月二十九日決定五月九日宣令)

○第一卷 裁斷人ノ裁斷

第一千三條 何人ニ限ラス自己ノ自由ナル處分ヲ有スル所ノ權利ニ付キ裁斷人ノ裁斷ニ任カスコトヲ得可シ(一。四。民一。二。八。一。七以下二。五。四。五。七以下四。九。九。五。二。五。一。三。一。一。三。三。一。一。四。一。一。二。五。一。一。二。七。一。九。八。九。三。四。五。)

第一千四條 人ハ食物、住居及ヒ衣服ノ生存中ノ贈與及ヒ遺囑ノ贈與ニ付テモ又ハ夫婦ノ間ノ離分、離婚、身分上ノ論争ニ付テモ又ハ檢察官ヘノ通報ヲ受ク可キ如何ナル等論ニ付テモ裁斷人ノ裁斷ニ任カスコトヲ得ス(一。八。三。五。八。一以下一。〇。三。民。四。六。七。一。九。八。九。三。四。五。)

第一千五條 裁斷人ノ裁斷ニ任カスノ契約ハ撰定セラレタル裁斷人ノ面前ニ於ケル調書ニ依リ又ハ公証人ノ面前ニ於ケル証書或ハ私シノ署名ノ證書ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得可シ(一。五。四。一。〇。六以下一。〇。一。七。一。〇。二。八。民。一。三。三。八。)

第一千六條 裁斷人ノ裁斷ニ任カスノ契約ニハ争ヒアル物件及ヒ裁斷人ノ姓名ヲ指定ス可シ若シ之ニ背ク時ハ無効ナリトス(一。〇。五。一。〇。七。一。〇。二。九。民。)

**第一千七條** 裁斷人ノ裁斷ニ任カスノ契約ハ假令ヒ其期限ヲ定メスト雖モ有  
 效ノモノタル可シ而シテ此場合ニ於テハ裁斷人ノ職務ハ其裁斷ニ任カス  
 契約ノ日ヨリ三月間ノヨリ繼續ス可キモノトス(昨一〇三三〇二八二〇二九一〇三  
 三民一五九二)

**第一千八條** 裁斷ヲ爲ス期限間ハ關係各人ノ總員一致ノ承諾アルニ非サレハ  
 裁斷人ヲ廢止スルコトヲ得ス(昨一〇四民一一三四)

**第一千九條** 關係各人及ヒ裁斷人ハ其審理ノ手續ニ於テ裁判所ノ爲メニ設定  
 シタル期限及ヒ方法ニ從フ可シ但シ關係各人ノ之ニ異ナリタル合意ヲ爲  
 シタル時ハ格別ナリトス(昨一〇三三民一一三四)

**第一千拾條** 關係各人ハ裁斷人ノ裁斷ニ任カス契約ノ時及ヒ其後ニ控訴ヲ抛  
 棄スルコトヲ得可シ

若シ控訴ノ上又ハ撤換ノ請願ノ上ニテ裁斷人ノ裁斷ヲ受クル時ハ裁斷人  
 ノ裁決ハ確定ノモノニシテ更ニ之ヲ控訴ス可カラサルモノトス(昨四八〇民

**第一千拾壹條** 審理ノ所爲及ヒ裁斷人參涉ノ調書ハ裁斷人全員ニ於テ之ヲ作  
 爲ス可シ但シ裁斷人ノ裁斷ニ任カス契約ニ其中ノ一名ヲ委任スルコトヲ其  
 各裁斷人ニ許シタル時ハ格別ナリトス(昨一〇〇九)

**第一千拾貳條**

裁斷人ノ裁斷ニ任カスノ契約ハ左ノ諸件ニ依テ終ルモノトス

第一 裁斷人中一名ノ死去否拒辭退又ハ差支但シ其審理ヲ繼續シ又ハ  
 關係各人ノ撰擇或ハ後ニ殘リタル裁斷人一名又ハ數名ノ撰擇ニ於テ  
 後職ノ者ヲ撰任ス可キノ約款アル時ハ格別ナリトス

第二 約定セラレタル期限ノ終ル事若シ又其期限ヲ規定セサル時ハ三  
 月ノ期限ノ終ル事

第三 若シ裁斷人カ第三ノ裁斷人ヲ撰任ス可キノ權力ヲ有セサル時ハ  
 可トスル者ノ數ト否トスル者ノ數ト相同シキ事(昨一一八三三〇二〇〇六一  
 〇一四二〇二八)

**第一千拾三條**

相續人全員ノ皆成年者タルニ於テハ死去ノ爲メニ裁斷人ノ裁

斷ニ任カスノ契約ヲ廢止セサルモノトス但シ審理シ及ヒ裁決スル爲メノ期限ハ目錄ヲ作り及ヒ熟考スル爲メノ期限間ハ之ヲ停止ス可シ(訴一七四一。四一。七民七九五以下二二三二三四一四五六以下)

**第一千拾四條** 裁斷人ハ其所爲ヲ始メタル時ハ辭退スルヲ得ス又裁斷人ハ其裁斷ニ任カスノ契約ヨリ後ニ起リタル原由ノ爲メニ非ラサレハ之ヲ忌避スルヲ得ス(訴四四以下三〇八以下三七八以下一〇一二)

**第一千拾五條** 假令純粹ニ民事上ノモノタリト雖モ偽造ノ訴ヲ爲シタル時又ハ或ル刑事ノ附帶ノ訴ノ起リタル時ハ裁斷人關係各人ヲシテ上訴セシム可ク而シテ裁斷ヲ爲スノ期限ハ其附帶ノ訴ノ裁判アリシ日ヨリ繼續シテ經過ス可キモノトス(訴二一四以下四二七一。七治四四八以下)

**第一千拾六條** 關係各人ハ裁斷人ノ裁斷ニ任カス契約ノ期限ノ終ル時ヨリ少クモ十五日前ニ其辨論書及ヒ證據物ヲ差出ス可ク而シテ裁斷人ハ其差出シタル所ノモノニ據テ裁決ス可シ  
其裁決書ハ裁斷人各員之ニ署名ス可ク若シ二名以上ノ裁斷人アル場合ニ

於テ其中少數ノ署名スルヲ拒スル時ハ其他ノ裁斷人其旨ヲ記載ス可ク而シテ其裁決書ハ裁斷人各員ノ署名シタル時ト同一ノ效ヲ有ス可キモノトス

裁斷人ノ裁決ハ如何ナル場合ニ於テモ故障ノ申立ヲ爲ス可カラサルモノトス(訴一〇七一。九一。二以下一〇二八)

**第一千拾七條** 可トスル者ノ數ト否トスル者ノ數ト相同シキ場合ニ於テハ第三ノ人ヲ撰任スルヲ許サレタル裁斷人ハ其可否同數ノモノタル旨ヲ宣告スル所ノ裁決ニ依リ其第三ノ人ヲ撰任ス可シ若シ裁斷人ノ其第三ノ人ヲ合意スルヲ能ハサル時ハ調書上ニ其旨ヲ告示ス可ク而シテ裁斷人ノ裁決ノ執行ヲ命令ス可キ裁判所長ヨリ其第三ノ人ヲ撰任ス可シ之レカ爲メ最モ先キニ手續ヲ爲ス者ヨリ請願書ヲ差出ス可シ  
右二箇ノ場合ニ於テ其意見ノ分レタル裁斷人ハ同一ノ調書若クハ別々ノ調書ニ其理由ヲ附シタル各箇ノ意見ヲ記載ス可シ(訴一六以下一〇二ノ第三一。一六一。一八以下一〇二。良一三三八)

第千拾八條 第三ノ裁斷人ハ其受諾ノ日ヨリ一月内ニ裁定ス可シ但シ撰任ノ證書ヲ以テ其期限ヲ延シタル時ハ格別ナリトス又其第三ノ裁斷人ハ意見ノ分レタル他ノ各裁斷人ニ特ニ集會ス可キノ催促ヲ爲シタル上ニテ其裁判人ト商議シタル後ニ非サレハ宣告スルヲ得サルモノトス  
 若シ裁斷人全員ノ集會セサル時ハ第三ノ裁斷人ハ一人ニテ宣告ス可シ然レモ其第三ノ裁斷人ハ他ノ裁斷人ノ意見中ノ一箇ニ從ハサルヲ得サルモノトス(附一〇〇七。一。二。一。一七。一九。二八ノ第三條四。二。二九)

第千拾九條 裁斷人及ヒ第三ノ裁斷人ハ法律上ノ規則ニ從ヒ裁決ス可シ但シ裁斷人ノ裁斷ニ任カスノ契約ニ仲裁人トナリテ宣告スルノ權力ヲ其裁斷人ニ附與シタル時ハ格別ナリトス(附一〇〇九)

第千貳拾條 裁斷人ノ裁決ハ之ヲ爲シタル地ヲ管轄スル始審裁判所長ノ命令ヲ以テ執行ス可キモノト爲ス可シ但シ之レカ爲メ裁斷人中ノ一名ヨリ三日内ニ其裁判所ノ書記局ニ裁決書ノ細字正本ヲ納ム可キモノトス  
 若シ裁判ノ控訴ニ付キ裁斷人ノ裁斷ニ任カスノ契約ヲ爲シタル時ハ其裁

斷人裁決書ヲ控訴裁判所ノ書記局ニ納メ而シテ其裁判所ノ長ヨリ命令ヲ爲ス可シ

其書記局ニ納ムルノ費用及ヒ簿冊登記税ノ爲メノ請求ハ關係人ニ對スルニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス(附一三。以下五四五。一七。一八一。二以下。二八。民二二三)

第千貳拾壹條 裁斷人ノ裁決書ハ假令本按ニ影響セサル豫審ノモノト雖モ裁判所長ノ特ニ其細字正本ノ末又ハ其端ニ附記シタル命令ノ後ニ非サレハ之ヲ執行スルヲ得ス但シ其裁決書ハ之ヲ検査官ニ通報スルヲ要セサルモノトス而シテ又右ノ命令書ハ裁決書ノ副本ノ末ニ之ヲ寫取ル可シ  
 其裁決ノ執行ノ審理ハ右ノ命令ヲ爲シタル裁判所ニ屬スルモノトス(附一七三四。四二四。五二四。七二五。二八。五四五。一。二。二。民二二三)

第千貳拾貳條 裁斷人ノ裁決ハ如何ナル場合ニ於テモ第三ノ人ニ之ヲ以テ對抗スルヲ得ス(附四七四。民二一六。五。一三五)

第千貳拾三條 裁斷人ノ裁決ノ控訴ハ若シ其裁斷アラザリシテハ始審ト

終審トヲ開ハス治安裁判官ノ管轄内ノモノタル可キ事項ニ付テハ始審裁判所ニ之ヲ申告ス可ツ又始審ト終審トヲ開ハス始審裁判所ノ管轄内ノモノタル可キ事項ニ付テハ控訴裁判所ニ之ヲ申告ス可シ(訴一〇二六・一〇二八)

第一千貳拾四條 裁判所ノ裁判ノ假リノ執行ニ付テノ規則ハ裁斷人ノ裁決ニ適用ス可キモノトス(訴一三五以下一五五四三九四五七以下五五四)

第一千貳拾五條 若シ控訴ノ棄却セラル、時ハ其控訴者ハ通常ノ裁判所ノ裁判ニ關スル時ト同一ノ罰金ヲ言渡サル可シ(訴四七二)

第一千貳拾六條 通常ノ裁判所ノ裁判ニ付キ前ニ指定シタル期限、方法及ヒ場合ニ於テ裁斷人ノ裁決ニ對シ敬慎ノ請願ヲ爲スコトヲ得可シ

其敬慎ノ請願ハ控訴ヲ裁定スルノ權力アル裁判所ニ之ヲ申告ス可シ(訴四八〇以下)

第一千貳拾七條 然レモ左ノ諸件ハ敬慎請願ノ原由トシテ之ヲ申立ツルコトヲ得ス

第一 通常ノ法式ヲ遵守セサル事(但シ第一千九條ニ記シタル如ク關係各

人ノ之レニ異ナレル合意ヲ爲シタル時ハ格別ナリトス)

第二 認求セサル事物ニ付キ宣告ヲ爲シタルヨリ生スル憑據(但シ後條ニ從ヒ無効ト爲ス爲メニ上訴スルハ格別ナリトス(訴四八〇ノ第二第三))

第一千貳拾八條 左ノ場合ニ於テハ控訴ニ依テモ又敬慎ノ請願ニ依テモ上訴スルコトヲ要セサルモノトス

第一 若シ裁斷人ノ裁斷ニ任カスノ契約ナク又ハ其契約ノ文詞ノ外ニ於テ裁決ヲ爲シタル時

第二 無効ナル又ハ期限ノ終リタル裁斷人ノ裁斷ニ任カスノ契約ニ據リ裁決ヲ爲シタル時

第三 他ノ裁斷人ノ不在ニ於テ裁決スルコトヲ許サレサル裁斷人若干名ノ其裁決ヲ爲シタル時

第四 可否ノ意見ノ分レタル裁斷人ト商議セスシテ第三ノ人ノ其裁決ヲ爲シタル時

第五 認求セサル事物ニ付キ裁決ヲ宣告シタル時

總テ此等ノ場合ニ於テハ關係各人ハ執行ノ命令ニ對スル故障申立ニ依リ其命令ヲ爲シタル裁判所ニ上訴シテ裁斷人ノ裁決書ト稱スル證書ノ無效ヲ訟求ス可シ  
裁斷人ノ裁決ノ敬慎請願若クハ控訴ノ上ニテ爲シタル裁判所ノ裁判ニ對スルニ非サレハ破毀ヲ求ムルノ上告ヲ爲スコトヲ得ス(新四八ノ第三三〇〇九一〇一八一〇一九二〇二六一〇二九民一一三四二〇四四二〇五二)

○總則

第千貳拾九條

此法典ニ定メタル無效、罰金及ヒ失權ハ何レモ皆威嚇ノモノニ非ス(新一五五五六六一六六七〇一四七一五六一六一七三一九二一一三三四四以下三五七二六〇以下二六三以下二七一以下二七八二八〇二九二以下三四四三五七三六〇三六六三七四三九〇三九七三九九四四四五六四七一四七九四八〇五〇〇五〇三五一一以下五一六六〇八六〇九六三四一

六五五六六四七〇一七〇七七〇九七一七一五七二八七三九七四三三七一七五五七五七六六八三八八六九八七三三〇〇六一〇三九)

第千三拾條

如何ナル送達狀又ハ訴訟手續ノ證書ト雖モ法律上ニ明確ニ其無效ノ旨ヲ定メタルニ非サレハ無效ナリト宣告スルコトヲ得ス  
法律上ニ無效ノ旨ヲ定メサル場合ニ於テハ裁判所附役員ハ遺脱ノ爲メ若クハ違背ノ爲メニ五フランクヨリ少ナカル可カラヌ又百フランクニ過ク可カラサル罰金ヲ言渡サルコトアル可シ

第千三拾壹條

無効ナル又ハ無益ナル訴訟手續及ヒ證書並ニ罰金言渡ノ原由タル證書ハ之ヲ作爲シタル裁判所附役員ノ責任タル可シ但シ其裁判所附役員ハ場合ノ需要ニ從ヒ右ノ外本人ニ損害賠償ヲ爲ス可ク又然ノミナラス其職ヲ停止セラルコトアル可キモノトス(新六七七一八二〇二二〇三二〇五二二八二三二二五二二九二二九二二八二二九三三三三六〇以下四六二四六三三四六五五二九五三一五六二六〇九六六七七一七九九一〇三〇民一一三一九一三三八二一九八五一九九一治四一五)



第一千三百貳條

邑及ヒ公同設立場ハ裁判上ノ訟求ヲ爲スニ付テハ行政法律ニ從フ可キモノトス(新四九六九三三六民五三七)

【參看】

千八百三十七年七月十八日ノ法律第十九條ノ第十條及ヒ第四十九條以下ヲ引ル可

第一千三百三條

(千八百六十二年五月三日ノ法律)送達ノ日及ヒ滿期ノ日ハ本人又ハ住所ニ送リタル呼出狀催促狀及ヒ其他ノ證書ノ爲メニ定メタル一般ノ期限中ニ計算セサルモノトス○其期限ハ五ミリアメートルノ距離毎ニ一日ヲ増加ス可シ○若シ法律告令又ハ命令ニ據リ距離ノ爲メニ期限ヲ増加ス可キ時ハ民事及ヒ商事ニ於テ定メタル總テノ場合ニ於テモ亦右ト同シカル可シ○四ミリアメートル以下ノ距離ハ之ヲ計算ス可カラヌ又四「ミリアメートル」以上ノ距離ハ其期限ニ滿一日ヲ増加スルモノトス○若シ期限ノ最後ノ日カ祭日タル時ハ其期限ヲ翌日ニ延ハス可シ(新五一六二〇五  
一七三二六二一七五二五七二六〇二六一三一五三四五四〇八四一五四一六四五六三五六四四  
八三六〇二六一三六一四六九一七三二七六二八八二九九三二〇九一〇三〇民四一二四三五四八

九二一八五前一六五二〇一四九二)

第一千三百四條

鑑定人ノ報告ニ出席セシムル爲メノ催促狀並ニ併合ノ裁判ニ據リ附與シタル呼出狀ニハ第一次ノ取調席又ハ第一次ノ審問席ノ場所及ヒ日時ノミヲ指示ス可シ而シテ假令其取調席又ハ審問席ヲ他日ニ繼續シタル時ト雖モ更ニ再ヒ其催促狀及ヒ呼出狀ヲ繰返スヲ要セス(新一五三三二五)

第一千三百五條

若シ審ヲ受ケ又ハ保證人ヲ容受シ又ハ證人訊問ヲ爲シ又ハ實事ニ付ヤ本人ノ審訊ヲ爲シ又ハ鑑定人ヲ撰任シ及ヒ一般ニ一箇ノ裁判ニ據リ或ル所爲ヲ行フニ關シ而シテ本人所在ノ地又ハ争ヒアル場所カ太々遠隔ノモノタル時ハ裁判官ヨリ場合ノ需要ニ從ヒ近傍ノ一箇ノ裁判所又ハ裁判官一名又ハ然ノミナラス治安裁判官一名ニ委任スルヲ得可ク又然ノミナラス一箇ノ裁判所ニ其命令セラレタル所爲ヲ行ハシムル爲メ其職員中ノ一名若クハ治安裁判官一名ヲ撰任スルヲ許スヲ得可シ(新  
一二二二五五二六六二九六三〇五三二六四一二四二八五一七以下前一六治九〇)

第一千三十六條

裁判所ハ其況ノ輕重ニ從ヒ其掌轄シタル訴訟ニ於テ職權上  
タリハ確實ヲ宣告シ、書類ヲ滅却シ、其書類ヲ誣告ノモノナリト宣告シ而シ  
テ其裁判書ノ印刷及ヒ貼附ヲ命令スルコトヲ得可シ(刑八八五、一三治五〇四以下)

第一千三十七條

如何ナル送達又ハ執行ト雖モ十月一日ヨリ三月三十一日迄  
ハ朝ノ六時前夕ノ六時後ニ之ヲ爲スコトヲ得ヌ又四月一日ヨリ九月三十日  
迄ハ朝ノ四時前夕ノ九時後ニ之ヲ爲スコトヲ得ヌ又遲延ニ於テ危険アル場  
合ニ於テ裁判官ノ許ニ據ルニ非サレハ法律上ノ祭日ニモ亦之ヲ爲スコトヲ  
得ヌ(刑八六三、七八一、八二八、一〇三三治三九五以下、商一三四、一六二刑一八四)

第一千三十八條

確定ノ裁判アリシ訴訟ニ於テ職ヲ行ヒタル代書人ハ其裁判  
ノ宣告ヨリ一年內ニ之レカ執行ヲ爲スニ於テハ更ニ新ナル權力ナクシ  
テ其裁判ノ執行ニ付キ職ヲ行フ可キモノトス(刑七五、一四八、一六二、三三四以下、四  
九六)

第一千三十九條

送達書類ヲ收受スルノ任ヲ受ケタル公員ニ爲シタル總テノ  
書類送達ハ其公員ニ於テ無費ニテ之レカ正本ニ檢署ス可シ

否拒ノ場合ニ於テハ其公員ノ住所ノ始審裁判所ニ於ケル檢事之ニ檢署ス  
可シ○其否拒者ハ檢察官ノ意見申立ニ依リ五フランクヨリ少ナキコトヲ得  
サル罰金ヲ言渡サル、コアル可シ(刑四四五、六八六九ノ第五、第七五、六、一六、一六二、八、六  
七三、六、七六以下、六九八以下、九〇、一、九六、七、一〇、二九)

第一千四拾條

裁判官ノ參涉ヲ以テスル總テノ證書及ヒ調書ハ裁判所々在ノ  
地ニ於テ之ヲ作爲ス可シ但シ裁判官ハ常ニ必ス書記ノ補助ヲ受ク可ク而  
シテ書記ハ其細字ノ正本ヲ保存シテ之レカ副本ヲ交付ス可キモノトス若  
シ又至急ヲ要スル場合ニ於テハ裁判官其己レニ呈出セラレタル請願書ニ  
付キ自己ノ居所ニ於テ答ヲ爲スコトヲ得可シ但シ至急審理ノ卷ニ記載シタ  
ル成規ノ執行ハ格別ナリトス(刑八八、一〇六以下)

第一千四拾壹條

此法典ハ千八百七年一月一日ヨリ之ヲ執行ス可シ故ニ右ノ  
時期ヨリ後ニ起ス所ノ總テノ訴訟ハ此法典ノ成規ニ從ヒ之ヲ審理ス可キ  
モノトス○民事訴訟ニ關スル總テノ法律、慣習及ヒ規則ハ之ヲ廢止ス

第一千四拾貳條

右ノ時期ヨリ前ニ訴訟費用ノ算定並ニ裁判所ノ警察及ヒ取

締メ爲メ公ケノ行政規則ヲ作ル可シ○遲クハ三年内ニ右規則ノ成規中ニテ立法上ノ處分ヲ包含スルモノハ法律ノ体裁ヲ以テ立法機關ニ之ヲ呈出ス可シ

附佛蘭西法律書訴訟法 終

附佛蘭西法律書 商法

○第壹編

一般ニ商業第一卷ヨリ第五卷迄ノ數卷及ヒ第七卷ハ千八百七年九月十日決定同月二十日宣令第六卷ハ千八百六十三年五月二十三日決定同月二十九日宣令第八卷ハ千八百七十七年九月十一日決定同月二十一日宣令

○第壹卷 商人

第壹條 商業ノ所爲ヲ行ヒ且ツ之ヲ以テ其平常ノ職業ト爲ス所ノ者ハ商人タリ(前八五四三六三以下)

第貳條 凡ソ男女ヲ問ハス滿十八歳ノ年齢ニ及ヒタル後見免脱ノ幼者ニシ

テ民法第四百八十七條ニ依リ附與セラレタル商業ヲ爲スノ權能ヲ利用セント欲スルモノハ左ノ諸件ノアルニ非サレハ商業ノ行爲ヲ始ムルヲ得ス又商業ノ所爲ノ爲メニ其ノ契約シタル約務ニ關シテ成年者ト看做ス

ヲ得ス

第一 其幼者ノ豫メ其父ヨリ許可セラレ若シ其父ノ死去治産禁又ハ失踪ノ場合ニ於テハ其母ヨリ許可セラレ若シ又父母ノアヲサル時ハ民事裁判所ノ認可ヲ得タル親族會議ノ決議ニ依リ許可セラレタル事

第二 右ノ外其許可ノ證書ヲ幼者ノ其住所ヲ設定セント欲スル地ノ民事裁判所ノ簿冊ニ記録シ及ヒ其裁判所ニ於テ貼附シタル事(前六三一一四五八五五九一六三三三民四五〇四八五四八七一二二五一一三〇八刑四〇二)

第三條 前條ノ成規ハ第六百三十二條及ヒ第六百三十三條ノ成規ニ依テ商業ノ所爲ナリト定メラレタル各箇ノ所爲ニ關シテハ商人タラサルモノト雖モ幼者ニ適用ス可キモノトス(前一一四)

第四條 婦ハ其夫ノ承諾ナクシテ公ケノ商買タルコトヲ得ス(前六七以下民二一五二一七三三〇一三三三六)

第五條 婦ノ公ケノ商買タル時ハ其夫ノ許可ナクシテ其商業ニ關スル事ニ付キ己レニ義務ヲ負フコトヲ得可シ但シ此場合ニ於テ夫婦ノ間ニ財産共通

アル時ハ婦ハ其夫ニモ亦義務ヲ負ハシムルモノトス

婦ハ其夫ノ商品ヲ零賣スルノミニテハ公ケノ商買ト看做ス可カラズ婦ノ別ニ商業ヲ爲ス時ノミ之ヲ公ケノ商買ト看做ス可シ(前六五以下民二一七三三〇一三三三六二四二六二五三〇以下一五三六一五七六)

第六條 商買タル幼者ニシテ前ニ記シタル如クニ許可セラレタル者ハ其不動産ヲ質入シ及ヒ之ヲ借入質ニ爲スコトヲ得可シ

其幼者ハ然ノミナラス其不動産ノ所有權ヲ移轉スルコトヲ得可シ然レモ民法第四百五十七條以下ニ定メタル法式ニ從フコトヲ必要トス(前一一四民四八四四八七一一二五一一三〇八三〇八五以下二一一四以下二一二六)

第七條 公ケノ商買タル婦ハ亦其不動産ヲ質入シ借入質ニ爲シ及ヒ其所有權ヲ移轉スルコトヲ得可シ

然レモ婦ノ嫁資ノ制ヲ以テ婚姻シタル時ハ嫁資ナリト約權セラレタル婦ノ財産ハ民法ニ依リ定メラレタル場合ニ於テ且ツ民法ニ依リ規定セラレタル方法ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ借入質ニ爲シ又其所有權ヲ移轉スル

○第貳卷 商業ノ帳簿

第八條 各商人ハ毎日其能働及ヒ所働ノ負債其商業ノ行爲其手形ノ取引受諾又ハ裏書及ヒ如何ナル名義タルヲ問ハス一般ニ其收受シ及ヒ辨濟スル所ノ諸件ヲ明記シ並ニ毎月其家内ノ費ニ用ヒタル金額ヲ表示スル日用帳簿ヲ備フ可シ但シ右ハ商業上ニ於テ用フルモノト雖モ缺ク可カラサルモノニ非サル其他ノ帳簿ト相關セサルモノトス

商人ハ其收受スル所ノ書狀ヲ一束ニ爲シ置キ又其差送ル所ノ書狀ヲ一箇ノ簿冊ニ寫ス可キモノトス(前一二八四九六一〇三二〇九二二四五六ノ第六五九二)

第九條 商人ハ毎年私シノ署名ニテ其動産及ヒ不動産並ニ其能働及ヒ所働ノ負債ノ目錄ヲ作り且ツ毎年特設ノ簿冊ニ其目錄ヲ寫ス可キモノトス(前

五八六ノ第六五九二)

第十條 日用帳簿及ヒ目錄ノ帳簿ハ毎年一回花押ヲ附セラレ及ヒ檢署セラレ可キモノトス

書狀寫取ノ帳簿ハ右ノ法式ニ服從セサルモノトス

總テノ帳簿ハ空白漏寫及ヒ欄外ノ附記ナク日附ノ順序ヲ以テ之ヲ設備ス可シ

第十壹條 前第八條及ヒ第九條ニ依リ其設備ヲ命令セラレタル帳簿ハ商事裁判所ノ裁判官一名若クハ邑長又ハ其副職通常ノ方法ヲ以テ無費ニテ之ニ番號ヲ附シ花押ヲ爲シ及ヒ檢署ス可シ○商人ハ十年間右ノ帳簿ヲ保存ス可キモノトス(前八四)

第十貳條 適法ニ設備シタル商業ノ帳簿ハ裁判官商業ノ所爲ニ付テハ商人ノ間ニ於テ證據ト爲ス爲メ之ヲ許容スルヲ得可シ(前一〇九民一三三二九一三三〇)

第十參條 商業ヲ爲ス各人ノ設備ス可キノ義務アル帳簿ニシテ其各人ノ前

ニ定メタル法式ヲ遵守セザリシモノハ之ヲ設備シタル者ノ利益ニ於テ裁判上ニ之ヲ差出スヲ得ス又裁判上ニテ証憑ト爲スヲ得ス但シ家資分散及ヒ倒産ノ篇ニ規定スル所ノモノト相觸ル、ナカル可シ(前一〇九五八四以下五九二民一三二九一三三〇一三三三)

第拾四條 帳簿及ヒ目錄ノ通知傳觀ハ財産相續財産共通會社ノ分派ノ事項ニ付キ及ヒ家資分散ノ場合ニ非サレハ裁判上ニテ之ヲ命令スルヲ得ス(前一五二八以下四三七以下民八一五二一三三〇一三四二二四七六一八七二)

第拾五條 争訟中ニ於テハ帳簿ノ中ヨリ其争訟ニ關スル所ノモノヲ抜キ書キスル爲メ裁判官職權上ニテモ其帳簿ノ呈示ヲ命令スルヲ得可シ(前一九四九六民一三三二)

第拾六條 其呈示ヲ供陳シ又ハ請求シ又ハ命令シタル帳簿ノ其訴訟ヲ掌轄スル裁判所ヨリ遺隔ノ地ニアル場合ニ於テハ裁判官之ヲ調査シテ其記載諸件ノ調書ヲ作りタル上右訴訟掌轄ノ裁判所ニ之ヲ送ラシムル爲メ其地ノ商事裁判所ニ委託ノ証書ヲ差向ケ又ハ治安裁判官ニ委任スルヲ得可シ

シ(前一〇三五)

第拾七條 若シ訴訟ヲ爲ス一方ノ者ノ帳簿ヲ以テ相手方ヨリ証憑ト爲スヲ供陳シタル時其一方ノ者ノ之ヲ呈示スルヲ拒スルニ於テハ裁判官他ノ一方ノ者ニ替テ求ムルヲ得可シ(民一三三〇一三三六六以下前一二二六二)

### ○第三卷 會社

#### ○第一節 種々ノ會社及ヒ其規則

第拾八條 會社ノ契約ハ民法ニ依リ及ヒ商業ニ特別ノモノタル法律ニ依リ並ニ關係各人ノ合意ニ依テ之ヲ規定ス(前六三一六三三民一一三四一八三二以下一八六二)

參看

會社ニ關スル千八百六十七年七月廿四日ノ法律ヲ看ル可シ

第拾九條 法律ハ左ニ記スル三種ノ商業會社ヲ認定ス

合名會社

差金會社

無名會社(商二〇三三三九四七以下)

〔參看〕千八百六十七年七月二十四日ノ法律ヲ看ル可シ

第貳拾條 合名會社トハ二人又ハ更ニ多數ノ契約スルモノニシテ會社ノ名

號ニテ商業ヲ爲スヲ目的トスル會社ヲ云フ(商二〇三三三三三九四一四四四六四七)

第貳拾壹條 社員ノ姓名ノミヲ以テ會社ノ名號ノ一部分ト爲スヲ得可シ

(商二五四六)

第貳拾貳條 會社ノ證書ニ指示セラレタル合名ニ於ケル各社員ハ假令社員

中唯一名ノ署名シタル時ト雖モ會社ノ名號ヲ以テ爲シタルニ於テハ其會

社ノ總テノ約務ニ付キ連帶ノモノトス(商一八二〇二六四一以下四六民一ニ〇〇以下

一八六三)

第貳拾三條 差金會社ハ責任アリテ且ツ連帶ノモノタル一名又ハ數名ノ社

員ト單純ナル元金差入人タル一名又ハ數名ノ社員トノ間ニ契約スルモノ

ニシテ其元金差入人タル社員ハ之ヲ名ケテ差金者又ハ差金社員ト云フ

差金會社ハ會社ノ名號ヲ以テ之ヲ管理ス可シ但シ其會社ノ名號ハ必ス責

任アリテ且ツ連帶ノモノタル社員一名又ハ數名ノ姓名タル可キモノトス

(商二六二七六三二民一ニ〇〇以下一八五六一九九八一九九九三〇二二三二二四)

第貳拾四條 連帶ノモノニシテ姓名ヲ明示シタル社員數名アル時ハ其全員

ノ相共ニ管理スルト一名又ハ數名ノ全員ノ爲メニ管理スルトヲ問ハス其

會社ハ右ノ社員ニ關シテハ合名會社トシ兼テ又單純ナル元金差入人ニ

關シテハ差金會社トス

第貳拾五條 差金者タル社員ノ姓名ハ會社ノ名號ノ一部分タルヲ得ス(商

二六三八)

第貳拾六條 差金者タル社員ハ其會社ニ差入レ又ハ差入ル可キ元金ノ額ニ

充ツル迄ノ外損失ヲ擔任セザルモノトス(商七五民二九〇二九二二八三三二八四五

一九九九三〇三三)

第貳拾七條(千八百六十三年五月六日ノ法律差金者タル社員ハ代理委任ニ

據ルト雖モ管理ノ所爲ヲ行フコト得ス

**第貳拾八條** (千八百六十三年五月六日ノ法律前條ニ記載シタル禁止ニ違背シタル場合ニ於テハ差金者タル社員ハ其行ヒタル管理ノ所爲ヨリ生スル所ノ會社ノ負債及ヒ納務ノ爲メ合名ニ於ケル社員ト連帶シテ義務ヲ負フ可ク而シテ又其所爲ノ多寡或ハ輕重ニ從ヒ會社ノ總テノ納務ノ爲メ又ハ其中或者ノミノ爲メニ連帶シテ義務ヲ負ヒタリト宣告セラル、コアル可シ  
意見及ヒ助言並ニ監督及ヒ監視ノ所爲ハ差金者タル社員ヲ結束セス(民一  
二〇〇以下)

**第貳拾九條** 無名會社ハ會社ノ名ニテ存立セス又其會社ハ社員ノ姓名ヲ以テ指定セラレヌ(前三〇以下四〇四五)

參看 千八百六十七年七月廿四日ノ法律ヲ看ル可シ

**第三拾條** 無名會社ハ其業務ノ目的ノ指定ニ依テ名稱セラル、モノトス  
**第三拾壹條** 無名會社ハ社員タルト社員タラサルト給料ヲ受クルト無償ナ

ルトヲ開ハス廢止スルコトヲ得可キ有期ノ代理者之ヲ管理ス可シ(民一九八四  
一九八六)

本條ハ千八百六十七年七月二十四日ノ法律第四十七條ヲ以テ削除シタリ

**第三拾貳條** 管理人ハ其受ケタル代理ノ執行ノミニ付キ實ニ任ス可キモノトス

管理人ハ其管理ノ爲メ會社ノ納務ニ關シテ如何ナル一身上ノ義務ヲモ又連帶ノ義務ヲモ負ハサルモノトス(民一九九一以下一九九八以下)

**第三拾三條** 社員ハ會社ニ於ケル其部分ノ額ノ損失ノミヲ擔任ス可キモノトス(前二六三四)

**第三拾四條** 無名會社ノ資本ハ平等ノ價額ノ株數又然ノミナラス株數ノ部分ニ分ツモノトス

**第三拾五條** 株數ハ所持人拂ヒ証券ノ體裁ニテ之ヲ設定スルコトヲ得可シ  
此場合ニ於テ其讓渡ハ証券ノ引渡ニ依テ之ヲ爲スモノトス(民一六〇七一六八  
九以下)



第三拾六條 株取ノ所有權ハ會社ノ簿冊ニ於ケル記入ニ依テ之ヲ設定スル  
ト得可シ

此場合ニ於テ其讓渡ハ簿冊ニ記入シタル轉移ノ申述書ニ依テ之ヲ爲スモ  
ノトス但シ其申述書ハ轉移ヲ爲ス者又ハ其代理人之ニ署名ス可シ(民一六八  
九以下)

第三拾七條 無名會社ハ國王ノ允許ヲ受ケ且ツ其會社ヲ設立スル所ノ證書  
ニ付キ國王ノ認可ヲ受ケタル上ニ非サレハ存立スルコトヲ得ス但シ其認可  
ハ公ケノ行政規則ノ爲メニ定メタル方法ヲ以テ之ヲ附與ス可キモノトス  
本條ハ千八百六十七年七月二十四日ノ法律第四十七條ヲ以テ削除シタリ

第三拾八條 差金會社ノ資本ハ亦之ヲ數箇ノ株取ニ分ツコトヲ得可シ但シ此  
類ノ會社ノ爲メニ設ケタル規則ニ付キ總テ其他ノ違背ナカル可キモノト  
ス

第三拾九條 合名會社又ハ差金會社ハ公ケノ證書又ハ私シノ署名證書ニ依  
テ之ヲ證明セサル可カラス但シ私シノ署名證書ヲ以テ之ヲ證明シタル場

合ニ於テハ民法第千三百二十五條ニ從フ可キモノトス(民一三四一、一八三四)

第四拾條 無名會社ハ公ケノ證書ニ依ルニ非サレハ之ヲ組成スルコトヲ得ス  
千八百六十七年七月二十四日ノ法律第四十七條ヲ以テ削除シタリ

第四拾壹條 假令百五十二ヲランク以下ノ金額ニ關スル時ト雖モ會社ノ證書  
ニ記載シタル所ニ反スル事及ヒ其證書ニ記載シタル所ヨリ以外ノ事ニ付  
キ証人ニ依レル証ヲ許容スルコトヲ得ス又其證書ノ前或ハ其證書ノ時或ハ  
其證書ノ後ニ言說シタリト述フル所ノ事ニ付テモ亦証人ニ依レル証ヲ許  
容スルコトヲ得ス(民一三四一、一八三六)

第四拾貳條 合名會社及ヒ差金會社ノ證書ノ拔書ハ簿冊ニ登記シテ三月内  
審問席ノ廳堂ニ貼附スル爲メ其日附ヨリ十五日内ニ會社ノ商店設置ノ郡  
ノ商事裁判所ノ書記局ニ之ヲ差出サ、ル可カラス  
若シ其會社ニ於テ數郡ニアル數箇ノ商店ヲ有スル時ハ右拔書ノ差出登記  
及ヒ貼附ヲ各郡ノ商事裁判所ニ爲ス可シ  
毎年一月ノ初メノ十五日内ニ商事裁判所ハ其管轄内ノ首地ニ於テ若シ又

其首地ノアヲサル時ハ最近ノ都府ニ於テ合名會社又ハ差金會社ノ證書ノ  
拔書ヲ其日附ヨリ十五日内ニ記入ス可キ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ヲ指定メ  
且ツ其拔書印刷ノ費額ヲ規定ス可シ

其記入ハ印刷人ノ保証シテ邑長ノ確的ナリト認メ且ツ其日附ヨリ三月内  
ニ簿冊ニ記録シタル新聞紙ノ印本ヲ以テ之ヲ証明ス可シ○右ノ法式ハ必  
ス之ヲ遵守ス可ク若シ之ニ違背スル時ハ關係各人ニ關シテ無効ノモノト  
ス然レモ其法式中一箇ノ欠缺ハ社員ヨリ第三ノ人ニ向ヒ之ヲ以テ對抗ス  
ルコトヲ得ス

本條及ヒ第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條ハ千八百六十七年七月二十四日ノ法律  
第六十五條ヲ以テ之ヲ削除シタリ

第四拾三條

其拔書ニハ左ノ諸件ヲ記ス可シ

株主又ハ差金者ヲ除クノ外ノ各社員ノ姓名分限居所  
會社ノ商業上ノ名號  
社員中ニテ會社ノ爲メニ管理シ管理シ及ヒ署名スルコトヲ許サレタル者

ノ指定

株數毎ニ又ハ差金ニ於テ供給シ又ハ供給ス可キ價額  
會社ノ始マル可キ時期及ヒ會社ノ終ル可キ時期  
前條ノ註ヲ看ル可シ

第四拾四條

會社ノ證書ノ拔書ハ公ケノ證書ニ付テハ公証人之ニ署名ス可

ク又私シノ署名證書ニ付テハ若シ其會社カ合名會社タル時ハ各社員皆之  
ニ署名ス可ク若シ又其會社カ差金會社タル時ハ之ヲ數箇ノ株數ニ分チタ  
ルト分チサルトヲ問ハス連帶ノ社員又ハ管理者タル社員之ニ署名ス可シ

第四十二條ノ註ヲ看ル可シ

第四拾五條

無名會社ヲ允許スル國王ノ命令書ハ其結社ノ證書ト同時間之

ト共ニ貼附ス可キモノトス

第四十二條ノ註ヲ看ル可シ

第四拾六條

凡ソ會社ノ期限ノ終リシ後其會社ノ繼續スル事ハ共同社員ノ

申述ヲ以テ之ヲ証明ス可シ○右ノ申述書及ヒ會社ヲ設定スル證書ヲ以テ

其繼續時間トシテ定メタル期限ヨリ前ニ其會社ヲ解分スル總テノ証書總テ社員ノ變更又ハ退社總テ新ナル約權又ハ約款總テ會社ノ名號ニ於ケル變更ハ第四十二條第四十三條第四十四條ニ定メタル法式ニ從フ可キモノトス  
若シ右ノ法式ヲ遺脱シタル場合ニ於テハ第四十二條末項ノ罰例ヲ適用ス可キモノトス

第四十二條ノ註ヲ得ル可シ

第四拾七條 前ニ記シタル三種ノ會社ニ關セス法律ハ共分ニ於ケル商業上ノ結社ヲ認定ス(前四八以下五七六以下)

第四拾八條 右ノ結社ハ一箇又ハ數箇ノ商業上ノ行爲ニ關シ而シテ其共分者ノ間ニ合意シタル目的ニ付キ其合意シタル方法ト利益ノ割合及ヒ條件トニ於テ之ヲ爲ス可キモノトス(前二〇四二〇四三〇四四九一八五八一八六二)  
第四拾九條 共分ニ於ケル結社ハ帳簿及ヒ往復書翰ノ呈示ニ依テ之ヲ証明スルコトヲ得可ク若シ又裁判所ニ於テ証人ノ証ヲ許スコトヲ得可シト思考ス

ル時ハ証人ノ証ニ依テ之ヲ證明スルコトヲ得可シ(前一二二〇九前一二三三)

第五拾條 共分ニ於ケル商業上ノ結社ハ其他ノ會社ノ爲メニ定メタル法式ニ從服セサルモノトス

○第貳節 社員ノ間ノ争訟及ヒ之ヲ裁決スル方法

第五拾壹條 凡ソ社員ノ間ニ於テ會社ノ事ノ爲メニ生シタル争訟ハ裁斷人ノ之ヲ裁斷ス可シ

本條ヨリ第六十三條ニ至ル迄ノ各條ハ強逼ノ裁斷ニ關スル千八百五十六年七月十七日ノ法律ヲ以テ之ヲ別除シタリ

第五拾貳條 裁斷人ノ裁斷ハ之ヲ控訴シ又ハ破毀ヲ得ント上告スルコトヲ得可シ但シ其拋棄ヲ約シタル時ハ格別ナリトス○其控訴ハ控訴裁判所ニ之ヲ申告ス可シ

第五拾三條 裁斷人ノ撰任ハ左ノ諸件ヲ以テ之ヲ爲スモノトス  
私シノ署名証書  
公証人ノ記シタルノ証書

裁判外ノ証書

裁判上ニテ附與シタル承諾

第五拾四條 裁斷ノ爲メノ期限ハ裁斷人撰定ノ時ニ當リ關係各人之ヲ定ム可ク若シ又其期限ニ付キ合同セサル時ハ裁判官之ヲ規定ス可シ

第五拾五條 社員中一名又ハ數名ノ裁斷人ヲ撰任スルコトヲ否拒シタル場合ニ於テハ商事裁判所ヨリ職權上ニテ裁斷人ヲ撰任ス可シ

第五拾六條 關係各人ハ別ニ裁判上ノ法式ナクシテ其証據物及ヒ覺書ヲ裁斷人ニ交付ス可シ

第五拾七條 証據物及ヒ覺書ヲ裁斷人ニ交付スルコトヲ遲延シタル社員ハ十日内ニ其交付ヲ爲ス可キノ催促ヲ受ク可シ

第五拾八條 裁斷人ハ場合ノ需要ニ從ヒ証據物差出ノ爲メノ期限ヲ延ハスコトヲ得可シ

第五拾九條 若シ期限ノ更新アラサル時又ハ新ナル期限ノ終リタル時ハ裁斷人共交付セラレタル証據物及ヒ覺書ノミニ據テ裁斷ス可シ

第六拾條 可トスル者ノ數ト否トスル者ノ數ト相同シキ場合ニ於テ若シ其

裁斷人ノ裁斷ニ任カスノ契約ニ依リ補充裁斷人ヲ撰任シ置カサル時ハ裁斷人ニ於テ其補充裁斷人一名ヲ選任ス可シ若シ又裁斷人ノ其選擇ニ付キ互ニ異議アル時ハ商事裁判所ヨリ其補充裁斷人ヲ選任ス可シ

第六拾壹條 裁斷人ノ裁斷書ニハ其理由ヲ附ス可シ  
其裁斷書ハ商事裁判所ノ書記局ニ納ム可シ

其裁斷書ハ商事裁判所長ノ命令ニ據リ如何ナル更改モナクシテ執行ス可キモノト爲シ而シテ簿冊上ニ之ヲ登記ス可シ但シ其裁判所長ハ書記局ニ納メタル時ヨリ三日ノ期限内ニ單純ニ其命令ヲ發ス可キモノトス

第六拾貳條 前ニ記シタル成規ハ社員ノ寡婦相續人又ハ受權人ニ共通ノモノトス

第六拾三條 若シ幼者ハ商事會社ニ付テノ爭訟ニ關係シタル時ハ後見人ハ裁斷人ノ裁斷ヲ控訴スルノ權能ヲ拋棄スルコトヲ得ス

第六拾四條 算定者ヲラサル社員及ヒ其寡婦相續人又ハ受權人ニ對スル總

テノ訴權ハ若シ會社ノ繼續時間ヲ表示スル會社ノ證書又ハ解分ノ證書ヲ  
第四十二條第四十三條第四十四條第四十六條ニ從テ貼附シ及ヒ簿冊ニ記  
録シ且ツ其法式ヲ履行シタル後ニ裁判上ノ起訴ニ依リ右ノ各人ニ關シテ  
期滿效ヲ中斷セツル時ハ會社ノ終リ又ハ解分シタルヨリ五年ノ後ニ至リ  
期滿效ニ依テ消滅スルモノトス(前二六民二二一九三二四四以下)

○第四卷 財産ノ離分

第六拾五條 凡ソ財産離分ノ請求ハ民法第三編第五卷第二章第三節ト訴訟  
法第二部第一編第八卷トニ定メタル所ニ從ヒ之ヲ訴ヘ審理シ及ヒ裁判ス  
可シ(民一四四三以下前八六五以下)

第六拾六條 夫婦中一方ノ者ノ商人タル時其夫婦ノ間ニ於ケル分居又ハ離  
婚ヲ宣告スル總テノ裁判ハ訴訟法第八百七十二條ニ定メタル法式ニ從テ

可キモノトス若シ其法式ニ從ハサル時ハ各債主ニ於テ何時ニ限ラス自己  
ノ利益ニ關スル所ノモノニ付ヤ其裁判ニ故障ヲ申立テ且ツ之レカ效果ヲ  
ル總テノ算定ニ抗辨スルコトヲ許サル可シ(民三一、二四四五、一四四七、八七二)

第六拾七條 夫婦中一方ノ者ノ商人タル時其夫婦ノ間ニ於ケル總テノ婚姻  
契約書ハ訴訟法第八百七十二條ニ從ヒ帖上ニ展示スル爲メ其日附ヨリ一  
月内ニ同條ニ指定メタル書記局及ヒ各局ニ拔書ヲ以テ移送ス可シ

其拔書ハ夫婦ノ財産共通ニテ婚姻シタルヤ又ハ夫婦ノ財産ヲ離分シタル  
ヤ又ハ夫婦ノ嫁資ノ制ヲ以テ契約シタルヤヲ廣告ス可シ(前二民一三九二、一五  
三〇以下、一五三六以下、一五四〇以下)

第六拾八條 婚姻ノ契約書ヲ記シタル公証人ハ前條ニ依リ命令セラレタル  
交付ヲ爲ス可ク若シ之ニ違フ時ハ百フランクノ罰金ヲ言渡サレ又然ノミ  
ナラス通謀ノ爲メニ其交付ヲ爲サ、リシノ証アル時ハ罷免及ヒ各債主ニ  
對スル責任ヲ言渡サル可シ(民一三八二、一三九四)

千八百二十四年六月十六日ノ法律ヲ以テ本條ノ罰金ヲ減シテ二十フランクト爲シタリ

第六拾九條 財産ヲ離分シ又ハ嫁資ノ制ヲ以テ婚姻シタル夫婦中一方ノ者ニシテ其婚姻ノ後ニ商人ノ職業ニ就キタル者ハ其商業ヲ開キタル日ヨリ一月内ニ右ニ同シキ交付ヲ爲ス可キモノトス若シ其交付ヲ爲サハル時ハ其者ノ家資分産ノ場合ニ於テ單純ナル倒産者トシテ刑ヲ言渡スコトヲ得可シ(前五八六頁一五三六以下一五四〇以下刑四〇二)

千八百三十八年五月二十八日ノ法律ヲ以テ右ノ如クニ更改シタリ

第七拾條 此法律公布ノ時ニ當リテ凡ソ商人ノ職業ヲ執行スル所ノ財産ヲ離分シ又ハ嫁資ノ制ヲ以テ婚姻シタル夫婦中一方ノ者ハ其公布ノ時ヨリ一年内ニ右ト同一ノ交付ヲ爲ス可ク若シ之ニ違フ時ハ亦右ト同一ノ刑ニ處セラル可シ(前二八七二以下)

○第五卷

商人集會、手形賣買世話人及ヒ商業世話人

○第壹節

商人集會

第七拾壹條 商人集會トハ國王政府ノ統制ヲ受ケテ商人、船長、手形賣買世話人及ヒ商業世話人ノ爲ス集會ヲ云フ(前六一三)

第七拾貳條 商人集會ニ於テ爲ス所ノ取引及ヒ行爲ノ成果ハ爲替、商品、保險、船舶貸賃、水陸運送賃公ケノ手形ノ相場及ヒ其他其相場ヲ指定スルヲ得可キ手形ノ相場ヲ定ムルモノトス(前七六七)

第七拾三條 右ニ記シタル種々ノ相場ハ一般又ハ特別ナル警察規則ニ依リ定メタル方法ヲ以テ手形賣買世話人及ヒ商業世話人之ヲ証明スルモノトス(前七六七)

○第貳節

手形賣買世話人及ヒ商業世話人

第七拾四條 (千八百六十二年七月二日ノ法律)法律ハ商業ノ所爲ノ爲メ居間ノ世話人ヲ認定ス手形賣買世話人及ヒ商業世話人は是レナリ  
商人集會ノ設ケアル各都府ニ於テハ手形賣買世話人及ヒ商業世話人ヲ置クモノトス

手形賣買世話人及ヒ商業世話人ハ皇帝(共和國大統領)ヨリ之ヲ選任ス(前七  
一以下六三三條四〇四)

**第七拾五條** 圓關ヲ設備シアル商人集會ニ於ケル手形賣買世話人ハ其役場  
ノ收益及ヒ其價額ノ算定ヨリ生ズル利益及ヒ損失ヲ共分スル所ノ利害ノ  
關係アル元金差入人ヲ己レノ仲間ト爲スヲ得可シ○其元金差入人ハ  
其約務シタル元金ノ額ニ充ツル迄ノ外損失ヲ擔任セサルモノトス  
其役場ノ名前ハ常ニ必ス其役場ノ代價ト保証ノ高トニ當レル金額ノ少  
クハ四分一ヲ自己ノ名前ニ於テ所有セサルヲ得ス  
其証書ノ拔書及ヒ之ニ付キ爲スヲアル可キ更改ハ之ヲ公布ス可ク若シ之  
ニ背ク時ハ關係人ニ關シテ無效タル可シ但シ關係人ハ其公布ノ欠缺ヲ以  
テ第三ノ人ニ對抗スルヲ得サルモノトス

**第七拾六條** 法律ニ依リ定メラレタル方法ニテ設置セラレタル手形賣買世  
話人ニ限リ公ケノ手形及ヒ其他其相場ヲ指定スルヲ得可キ手形ノ取引ヲ  
爲シ又他人ノ計算ノ爲メニ爲替手形又ハ切手及ヒ賣買スルヲ得可キ總テ  
ノ書類ノ取引ヲ爲シ及ヒ其相場ヲ證明スルノ權利ヲ有ス  
手形賣買世話人ハ商品ノ商業世話人ト抗競シテ金屬物料ノ賣買ノ取引及  
ヒ世話ヲ爲スヲ得可シ○手形賣買世話人ニ限リ金屬物料ノ相場ヲ証明  
スルノ權利ヲ有ス

**第七拾七條** 商品ノ商業世話人アリ

保險ノ商業世話人アリ

通辦兼船舶借入商業世話人アリ

水陸運送ノ商業世話人アリ

**第七拾八條** 法律ニ依リ定メラレタル方法ニテ設置セラレタル商品ノ商業  
世話人ニ限リ商品賣買ノ世話ヲ爲シテ之レカ相場ヲ證明スルノ權利ヲ有  
シ又商品ノ商業世話人ハ手形賣買世話人ト抗競シテ金屬物料賣買ノ世話  
ヲ執行ス(前七四)

**第七拾九條** 保險ノ商業世話人ハ公証人ト抗競シテ保險ノ契約書ヲ作り又  
自己ノ署名ニ依テ之レカ真正ナルヲ証シ且ツ海上又ハ河川ノ總テノ航

行ニ付ヤ保險料ノ高ヲ保證ス(前三三以下)

**第八拾條** 通辦兼船舶借入商業世話人ハ船舶借入ノ世話ヲ爲シ且ツ右ノ外其商業世話人ニ限り裁判所ニ申告シタル争訟ノ場合ニ於テハ其反譯ノ必要ナル申述書船舶借入契約書積荷目録商業上ノ契約書及ヒ總テ商業上ノ証書ヲ反譯スルノ權利ヲ有シ又船舶貸賃ノ相場ヲ証明スルノ權利ヲ有ス商業上ノ争訟事件ニ付キ及ヒ海關稅局ノ事務ニ付テハ右ノ商業世話人ニ限り總テノ外國人船主商賈船ノ乗組人及ヒ其他ノ海員ノ爲メニ通事ノ用ヲ爲ス可キモノトス(前七八七九八二三七三以下)

**第八拾壹條** 若シ政府ヨリ設置スル証書ニ許可アル時ハ同一ノ人ニシテ手形賣買世話人商品又ハ保險ノ商業世話人及ヒ通辦兼船舶借入商業世話人ノ職務ヲ兼テ行フコトヲ得可シ

**第八拾貳條** 法律ニ從ヒ設置セラレタル水陸運送商業世話人ニ限り其設置セラレタル各地ニ於テ水陸運送ノ世話ヲ爲スノ權利ヲ有スルモノトス但シ其商業世話人ハ如何ナル場合ニ於テモ又如何ナル口實アリト雖モ第七

十八條第七十九條第八十條ニ指定シタル商品ノ商業世話人保險ノ商業世話人又ハ船舶借入商業世話人ノ職務ヲ兼テ行フコトヲ得ス(前九六以下)

**第八拾三條** 家資分散ヲ爲シタル者ハ復權セラレタルニ非サレハ手形賣買世話人タルコトヲ得ス又商業世話人タルコトヲ得ス(前四三七六〇四以下)

**第八拾四條** 手形賣買世話人及ヒ商業世話人ハ第十一條ニ定メタル法式ヲ具備スル所ノ帳簿ヲ設ク可キモノトス

手形賣買世話人及ヒ商業世話人ハ自己ノ紹介ニ依リ爲シタル賣買保險取引及ヒ一般ニ總テノ行爲ノ各條件ヲ毎日日附ノ順序ヲ以テ塗抹行間ノ書入辭語ノ入レ替ナク又畧語ナク且ツ數字ヲ用ヒスシテ右ノ帳簿ニ記載ス可シ

**第八拾五條** 手形賣買世話人又ハ商業世話人ハ如何ナル場合ニ於テモ如何ナル口實アリト雖モ自己ノ計算ノ爲メニ商業又ハ銀行ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

手形賣買世話人又ハ商業世話人ハ直接ト間接トヲ問ハス又自己ノ名前ヲ



以テスルト介入者ノ名前ヲ以テスルトヲ問ハス如何ナル商業上ノ業務ニ於テモ關係スルコトヲ得ス

手形賣買世話人又ハ商業世話人ハ其任用者ノ計算ノ爲メニ收受スルコトヲ得ス又辨濟スルコトヲ得ス(前八七)

第八拾六條 手形賣買世話人又ハ商業世話人ハ其紹介シタル契約ノ執行ニ付キ擔保者タルコトヲ得ス

第八拾七條 凡ソ前二條ニ表示シタル成規ニ違背シタル時ハ罷免ノ罰ト三千フランク以上タルコトヲ得サル罰金ノ言渡トヲ惹起シ其罰金ハ懲治警察裁判所ヨリ之ヲ宣告ス可キモノトス但シ損害賠償ニ於ケル關係各人ノ訴訟ト相觸ル、コトナカル可シ(民一四九一三三)

第八拾八條 凡ソ前條ニ據リ罷免セラレタル手形賣買世話人又ハ商業世話人ハ其職務ニ復スルコトヲ得ス

第八拾九條 家資分散ノ場合ニ於テハ凡ソ手形賣買世話人又ハ商業世話人ハ例産者ナリトシテ訴ヲ受ク可シ(前四三七五八四以下五九一以下刑四〇四)

第九拾條 (千八百六十二年七月二日ノ法律)左ノ諸件ニ關スル所ノモノニ付テハ公ケノ行政規則ヲ以テ之ヲ設備ス可シ

第一 保證金ノ高但シ其最上限ハ二十五萬フランクニ過クルコトヲ得サルモノトス

第二 公ケノ手形ノ取引及ヒ其所有權ノ移轉並ニ一般ニ本卷中ニ記シタル成規ノ執行

○第六卷 助産質及ヒ仲買人千八百六十三年五月二十三日ノ法律

○第壹節 助産質

第九拾壹條 商人若クハ商人ニ非サル者ノ商業ノ所爲ノ爲メニ設定シタル助産質ハ其契約ヲ爲ス各人ニ關シテモ又第三ノ人ニ關シテモ商法第百九條ノ成規ニ從ヒ之ヲ證明スルモノトス

動産質ハ取引ヲ爲スヲ得可キ證票類ニ關シテハ其證票類ヲ擔保トシテ  
交付シタル旨ヲ指示スル適法ノ裏書ヲ以テ亦之ヲ設定スルヲ得可シ  
會社ノ簿冊上ニ於ケル轉移ニ依リ其轉移ヲ爲ス所ノ理財工作商事又ハ民  
事會社ノ記名ノ株券股分ノ分ヶ前及ヒ證券ニ關シテハ亦右ニ同シク其簿  
冊上ニ記入シタル擔保ノ名義ニ於ケル轉移ニ依リ其動産質ヲ設定スルヲ  
得可シ

讓受人カ負債者ニ爲シタル轉移ノ通報ニ依ルニ非サレハ第三ノ人ニ關シ  
テ收據スルヲ得サル動産ノ債權ニ關シテハ民法第二千七十五條ノ成規  
ニ違背ス可カラス

動産質トシテ附與シタル商業上ノ手形ハ其質取人タル債主ニ於テ其金額  
ヲ取戻スヲ得可キモノトス(前一二三六以下民二〇七三以下二〇八四)

**第九拾貳條** 如何ナル場合ニ於テモ質物カ債主ノ占有又ハ雙方ノ間ニ合意  
シタル第三ノ人ノ占有ニ附セラレ且ツ其占有ニ存續シタル時ニ非サレハ  
先取特權ハ其質物ニ付キ存在セサルモノトス

商品カ債主ノ倉庫又ハ船舶内又ハ海關稅局或ハ公ヶノ貯藏場ニ於テ債主  
ノ處分内ニアリ又ハ其商品ノ到着セサル前ニ積荷目錄又ハ送り狀ニ依リ  
債主ノ其商品ヲ收據シタル時ハ債主其商品ヲ自己ノ占有ニ於テ有スルモ  
ノト看做ス可シ(前五六以下民一六九〇二〇七六)

**第九拾三條** 満期ニ至リ辨濟ヲ爲サハルニ於テハ債主ハ負債者ト質物ノ第  
三ノ供給者アル時ハ其第三ノ供給者トニ爲シタル單純ナル通報ヨリ八日  
ノ後ニ至リ其質トシテ附與シタル物件ノ公ヶノ賣掛ニ取掛ラシムルヲ  
得可シ

手形賣買世話人ノミニ限リテ委任セララル、ヲ得可キ賣掛ノ外其他ノ賣  
掛ハ商業世話人ノ紹介ヲ以テ之ヲ爲ス可シ○然レハ關係各人ノ請願ニ依  
リ商事裁判所長ハ其賣掛ニ取掛ラシムル爲メ更ニ他ノ種類ノ公ヶノ役員  
ヲ指定ムルヲ得可シ○此場合ニ於テハ其賣掛ヲ委任セラレタル公ヶノ  
役員ハ如何ナル者タルヲ問ハス其方法費用ノ額及ヒ責任ニ關シテハ商業  
世話人ヲ管理スル所ノ成規ニ從フ可キモノトス

公ケノ賣拂ニ關スル千八百五十八年五月二十八日ノ法律第二條ヨリ第七條ニ至ル迄ノ各條ノ成規ハ前項ニ記シタル賣拂ニ適用ス可キモノトス凡ソ前ニ定メタル法式ナクシテ債主ニ其質物ヲ自己ノ所有ト爲シ又ハ之ヲ處分スルコトヲ許ルス所ノ約款ハ無効ノモノトス(民二〇七八)

○第貳節 一般ニ仲買人

第九拾四條 仲買人トハ任用者ノ計算ノ爲メ自己ノ名前又ハ會社ノ名前ニテ事ヲ行フ所ノ者ヲ云フ  
任用者ノ名前ニテ事ヲ行フ仲買人ノ本分及ヒ權利ハ民法第三編第十三卷ニ之ヲ定ム(民一九八四以下)

第九拾五條 各仲買人ハ商品ノ收受ノ前ト商品ヲ占有スル時間トヲ問ハス自己ヨリ爲シタル總テノ貸金立替金又ハ辨濟ノ爲メ其商品ノ送還附託又ハ寄藏ノ所爲ノモノニ依リ其己レニ送還セラレ、附託セラレ又ハ寄藏セラレタル商品ノ價額ニ付キ先取特權ヲ有スルモノトス  
其先取特權ハ前第九十二條ニ定メタル條件ニ從フニ非サレハ存在セサル

モノトス

仲買人ノ先取特權アル價額中ニ其主額ト共ニ利息仲買口錢及ヒ費用ヲ包含スルモノトス  
若シ任用者ノ計算ノ爲メニ商品ヲ賣拂ヒ及ヒ引渡シタル時ハ仲買人ハ任用者ノ各債主ヨリ先キニ其賣拂代金ニ付キ自己ノ價額ノ額ノ償還ヲ受クルモノトス(前九三二〇九五七六)

○第三節 水陸運送ノ爲メノ仲買人

第九拾六條 水陸ノ運送ヲ引受クル所ノ仲買人ハ其日用帳簿ニ商品ノ性質及ヒ分量ノ申述ヲ記入シ又其請求ヲ受クル時ハ商品ノ價額ノ申述ヲ記入ス可キモノトス(民一七八五刑三八六三八七)

第九拾七條 其仲買人ハ法ニ從ヒ證明シタル抗拒ス可カラサル力ノ場合ノ外ハ送り狀ニ定メタル期限内ニ商品及ヒ物品ノ到着スルコトヲ擔保スルモノトス(前一〇四一〇八民一七八四)

第九拾八條 其仲買人ハ商品又ハ物品ノ運輸損害又ハ滅盡ヲ擔保スルモノ

トス但シ送り状ニ於テ之ニ反スル約權アル時又ハ抗拒ス可カラサルカアル時ハ格別ナリトス(前一〇三二〇八民一七八四)

**第九拾九條** 其仲買人ハ商品ヲ宛テ差送リタル居間ノ仲買人ノ所爲ヲ擔保スルモノトス(前一〇二〇五二〇八民一三一五一九九四)

**第壹百條** 賣主又ハ送遣人ノ倉庫ヨリ出テタル商品ハ反對ノ合意アラサル時ハ其屬スル所ノ者ノ危險ニテ運送スルモノトス但シ其者ヨリ運送ヲ任セラレタル仲買人及ヒ運送人ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スヲ得可シ(前一〇三民一三六二二五八五二七八四一九三七一九九二)

**第百壹條** 送り状ハ送遣人ト運送人トノ間又ハ送遣人仲買人及ヒ運送人ノ間ニ於テ一箇ノ契約ヲ爲スモノトス

**第百貳條** 送り状ニハ其日附ヲ記セサルヲ得ス

又送り状ニハ左ノ諸件ヲ明記セサルヲ得ス

運送ス可キ物件ノ性質及ヒ重量又ハ容積

其運送ヲ爲サ、ル可カラサル期限

又送り状ニハ左ノ諸件ヲ指示スルモノトス

其運送ノ業務ヲ爲ス仲買人アル時ハ其仲買人ノ姓名及ヒ住所

商品ヲ宛テ送ラレタル者ノ姓名

運送人ノ姓名及ヒ住所

又送り状ニハ左ノ諸件ヲ表示スルモノトス

運送費

運延ノ爲メニ負擔スル所ノ賠償

送り状ハ送遣人又ハ仲買人ニ於テ署名ス可シ

送り状ハ其端ニ運送ス可キ物件ノ記號及ヒ番號ヲ示スモノトス

送り状ハ番號ヲ附シ且ツ花押ヲ爲シタル簿冊上ニ仲買人間隙ナク相連接

シテ之ヲ寫ス可シ(前八二二四二八一以下前一七八五)

○第四節 運送人

**第百三條** 運送人ハ抗拒ス可カラサルカノ場合ヲ除クノ外其運送ス可キ物件ノ滅盡ヲ擔保スルモノトス

運送人ハ其物ノ固有ノ瑕疵又ハ抗拒ス可カラサルカヨリ生スル所ノモノヲ除クノ外其他ノ運輸損害ヲ擔保スルモノトス(前九七九八三二六民一三一五一七八四)

**第四百四條** 若シ抗拒ス可カラサルカノ效ニ依リ合意セラレタル期限内ニ運送ヲ成就セサル時ハ運延ノ爲メ運送人ニ對シテ賠償ヲ言渡ス可カラス(前九七九八三二六民一三一五一七八四)

**第四百五條** 運送シタル物件ノ收受及ヒ運送賃ノ辨濟ハ總テ運送人ニ對スル訴權ヲ消滅セシムルモノトス(前一〇〇二〇六一〇八)

**第四百六條** 運送シタル物件ヲ收受スルコトヲ拒シ又ハ其收受ニ付キ爭訟ヲ生シタル場合ニ於テハ商事裁判所長若シ又其アラサルニ於テハ治安裁判官ヨリ請願書ノ末ニ記シタル命令書ヲ以テ撰任シタル鑑定人ニ於テ其景狀ヲ調査シ及ヒ証明ス可シ

其附託又ハ爭訟アル物ノ附託ヲ命令シ然ル後公ケノ受託所ヘノ運送ヲ命令スルコトヲ得可シ

其賣拂ハ運送賃ノ額ニ充ツル迄運送人ノ利益ニ於テ之ヲ命令スルコトヲ得可シ(前九五九七一〇一民一五八三一九六一以下二一〇二以下)

**第四百七條** 本卷ニ記シタル成規ハ船主又ハ乗合馬車及ヒ公同車輛ノ起作人ニ共通ノモノトス(民一七八二以下)

**第四百八條** 商品ノ滅盡又ハ運輸損害ノ爲メ仲買人及ヒ運送人ニ對スル總テノ訴權ハ佛蘭西ノ内部ニ於テ爲シタル送遣ニ付テハ六月ノ後ニ期滿效ニ依テ消滅シ又外國ニ於テ爲シタル送遣ニ付テハ一年ノ後ニ期滿效ニ依テ消滅ス而シテ滅盡ノ場合ニ於テハ商品ノ運送ヲ成就ス可キ日ヨリ起算シ又運輸損害ノ場合ニ於テハ商品ノ交付ヲ爲シタル日ヨリ起算ス可キモノトス但シ詐欺又ハ不誠實ノ場合ト相觸ルハコトナル可シ(前九七九八三二六民一三二四九)

○第七卷 賣買

第九條 賣買ハ左ノ諸件ヲ以テ証明スルモノトス

公ケノ証書

私シノ署名証書

關係各人ノ適法ニ署名シタル手形賣買世話人又ハ商業世話人ノ明細書

又ハ算計表

受諾シタル勘定書

往復書翰

關係各人ノ帳簿

裁判所ニ於テ証人ノ証ヲ許サ、ルヲ得スト思考スル場合ニ於テハ証人

ノ証(前八以下、二四九七六七八八〇八二八四九二二五二二五〇二七三二八六三三九四一

五五三二七以下、二二三二二四二二三五三二三五七以下)

○第八卷 爲替手形、指圖書形及ヒ期滿效

○第壹節 爲替手形

○第壹款 爲替手形ノ法式

第九條 爲替手形ハ一ノ地ヨリ他ノ地ニ向ケテ差立ツルモノトス

爲替手形ニハ其日附ヲ記ス可シ

又爲替手形ニハ左ノ諸件ヲ表示スルノモトス

辨濟ス可キ金額

辨濟ス可キ者ノ姓名

辨濟ヲ成就ス可キ時期及ヒ場所

貨幣ニ於テ商品ニ於テ計算ニ於テ又ハ總テ其他ノ方法ヲ以テ供給シタ

ル價額

爲替手形ハ第三ノ人ノ差圖ニ於ケルモノアリ又ハ差立人自身ノ差圖ニ於

ケルモノアリ

若シ爲替手形カ第一番第二番第三番第四番等ノモノタル時ハ爲替手形ニ之ヲ明記スルモノトス(前一二三三六三七一三九一八八、一八九五八五ノ第三六三三三六以下民一一〇八、一一三二二三四)

**第百拾壹條** 爲替手形ハ或ル一人ニ宛テ之ヲ差立テ而シテ第三ノ人ノ住所ニ於テ之ヲ辨濟スルコトヲ得可シ

爲替手形ハ第三ノ人ノ差圖ニテ其計算ノ爲メニ差立ツルコトヲ得可シ

**第百拾貳條** 姓名若クハ分限若クハ住所若クハ爲替手形ヲ差立テタル地又ハ爲替手形ヲ辨濟ス可キ地ノ假設ヲ記シタル總テノ爲替手形ハ單純ナル約務書ナリト看做ス可シ(前一一三二六八、一八九六三六三三七一四七、一四八)

**第百拾三條** 爲替手形上ニ於ケル公ケノ商人又ハ商賈タラサル婦女ノ署名ハ其婦女ニ關シテハ單純ナル約務書ノミノ效力アルモノトス(前四五七六三七民二一七二二〇)

**第百拾四條** 商人タラサル幼者ノ署名シタル爲替手形ハ其幼者ニ關シテハ無効ノモノトス但シ民法第千三百十二條ニ從ヒ關係人各自ノ權利ト相觸

ル、コトナカル可シ(前三三六民一三〇、八一三一二)

○第貳款 爲替資金ノ準備

**第百拾五條** 爲替資金ノ準備ハ差立人又ハ其計算ノ爲メニ爲替手形ヲ差立テタル其人ヨリ之ヲ爲サ、ルヲ得ス但シ他人ノ計算ノ爲メニ差立人ハ裏番人及ヒ所持人ノミニ對シテ一身上ニ義務ヲ負フコトヲ止息セサルモノトス(前一一二二一六以下一四〇)

本條ハ千八百十七年三月十九日ノ法律ヲ以テ右ノ如クニ更改シタリ

**第百拾六條** 若シ爲替手形ノ辨濟期限ニ至リ其手形ヲ差立テラレタル者カ差立人ニ對シ又ハ其計算ノ爲メニ爲替手形ヲ差立テタル其人ニ對シテ少クハ爲替手形ノ額ニ等シヤ金額ノ債ヲ負ヒタル時ハ爲替資金ノ準備アリトス(前一一七)

**第百拾七條** 受附ハ爲替資金ノ準備ヲ推測セシムルモノトス  
受附ハ各裏番人ニ關シテ爲替資金準備ノ証ヲ設定スルモノトス  
受附ノアリタルト否トヲ問ハヌ差立人ノミニ限リ其非斥ノ場合ニ於テハ

其爲替手形ヲ差立テラレ者ノ辨濟期限ニ當リテ爲替資金ノ準備ヲ有シタル旨ヲ証ス可ク若シ然ラサレハ假令定メラレタル期限ノ後ニ拒絕証書ヲ作リタル時ト雖モ其爲替手形ヲ擔保ス可キモノトス(前一二八以下一七〇・一七三以下一八五・一八九)

○第三款 受諾

第百拾八條 爲替手形ノ差立人及ヒ裏書人ハ其受諾及ヒ辨濟期限ニ於ケル辨濟ノ連帶ノ擔保者タルモノトス(前一二一以下一三六以下一四〇・一四三以下一六〇・一六七四四四)

第百拾九條 受諾ノ否拒ハ受諾セサル爲メノ拒絕証書ト名クル証書ヲ以テ之ヲ証明ス可シ(前一二六・一六三・一七三以下)

第百貳拾條 受諾セサル爲メノ拒絕証書ノ送達ヲ受ケタル上ニテ各裏書人及ヒ差立人ハ各自爲替手形ノ辨濟期限ニ至リテ其辨濟ヲ保スル爲メノ保証人ヲ立ツ可ク又ハ拒絕証書及ヒ返シ爲替ノ費用ト共ニ爲替手形ノ償還ヲ爲ス可キモノトス

差立人若クハ裏書人ノ保証人ハ其保証シタル本人トノミ相連帶スルモノトス(前五一・七以下)

第百貳拾壹條 爲替手形ヲ受諾スル者ハ其金額ヲ辨濟ス可キノ義務ヲ負フモノトス

其受諾者ハ假令其受諾セサル前ニ自己ノ知ラスシテ差立人ノ家資分散ヲ爲シタル時ト雖モ其受諾ニ對シテ回復ス可カラサルモノトス(前一四〇・一四八以下一三九・二九)

第百貳拾貳條 爲替手形ノ受諾ハ署名セサルヲ得ス

其受諾ハ受諾スト云ヘル語ヲ以テ之ヲ明示ス可シ

若シ爲替手形ヲ閱覽ヨリ一日又ハ數日ニテ辨濟ス可キモノタル時ハ其受諾ノ日附ヲ記ス可シ

右最後ニ記シタル場合ニ於テ受諾ノ日附アラサル時ハ爲替手形ノ日附ヨリ起算シテ其手形ニ明記シタル期限ニ至リ右手形ノ償還ヲ要求スルヲ得可キモノトス(前一二四・一二五・一四一以下一三〇)



第百貳拾三條 受諾者居住ノ地ヨリ更ニ他ノ地ニ於テ辨濟ス可キ爲替手形ノ受諾ニハ其辨濟ヲ爲サ、ル可カラヌ又ハ要求ヲ爲サ、ル可カラサル所ノ住所ヲ指示ス可シ(前一七三)

第百貳拾四條 受諾ハ未必條件ニ關スルモノタルコトヲ得ス然レハ其受諾スル金額ニ關シテハ受諾ヲ制限スルコトヲ得可シ  
右ノ場合ニ於テハ所持人ハ其餘ノ額ノ爲メ爲替手形ニ付キ拒絕證書ヲ作ラシム可キモノトス(前一五六)

第百貳拾五條 爲替手形ハ其呈示ノ時ニ於テ之ヲ受諾シ又ハ遅クハ其呈示ノ時ヨリ二十四時内ニ之ヲ受諾セサル可カラヌ  
二十四時ノ後ニ至リ受諾スルト受諾セサルトヲ問ハス爲替手形ヲ返サ、ル時ハ之ヲ引留メタル者ハ所持人ニ對シテ損害賠償ヲ擔任ス可キモノトス

○第四款 參涉ニ依レル受諾

第百貳拾六條 受諾セサル爲メノ拒絕證書ノ場合ニ於テハ差立人ノ爲メ又

ハ裏書人中一名ノ爲メニ參涉スル第三ノ人ニ於テ爲替手形ヲ受諾スルコトヲ得可シ

其參涉ハ拒絕證書ニ之ヲ記載ス可ク而シテ其參涉ハ參涉者之ニ署名ス可シ(前一一九、一五八以下民一一三六)

第百貳拾七條 參涉者ハ其爲メニ參涉シタル所ノ本人ニ遅延ナク自己ノ參涉ヲ通知ス可キモノトス

第百貳拾八條 爲替手形ノ所持人ハ總テ參涉ニ依レル受諾ニ拘ハラヌ其手形ヲ差立テラレタル者ノ受諾ヲ爲サ、ルカ爲メ其差立人及ヒ各裏書人ニ對シテ總テ自己ノ權利ヲ保存スルモノトス(前一一八)

○第五款 辨濟期限

第百貳拾九條 爲替手形ハ左ノ方法ニテ差立ツルコトヲ得可シ

閱覽ノ上辨濟ス可キモノ

閱覽ノ上一日又ハ數日ニテ辨濟ス可キモノ

閱覽ノ上一月又ハ數月ニテ辨濟ス可キモノ

閱覽ノ上一回ノ慣例期又ハ數回ノ慣例期ニテ辨濟ス可キモノ  
日附ヨリ一日又ハ數日ニテ辨濟ス可キモノ  
日附ヨリ一月又ハ數月ニテ辨濟ス可キモノ  
日附ヨリ一回ノ慣例期又ハ數回ノ慣例期ニテ辨濟ス可キモノ  
定メタル日又ハ別段ニ定メアル日ニ於テ辨濟ス可キモノ  
市會ニ於テ辨濟ス可キモノ

第百三拾條 閱覽ノ上辨濟ス可キ爲替手形ハ其呈示ノ時ニ於テ之ヲ辨濟ス  
可キモノトス(前一六〇以下)

第百三拾壹條 閱覽ノ上一日又ハ數日ニテ辨濟ス可キ爲替手形

閱覽ノ上一月又ハ數月ニテ辨濟ス可キ爲替手形

閱覽ノ上一回又ハ數回ノ慣例期ニテ辨濟ス可キ爲替手形

右爲替手形ノ辨濟期限ハ受諾ノ日附ニ依リ又ハ受諾セサル爲メノ拒絕證  
書ノ日附ニ依テ之ヲ定ムルモノトス(前一九一ニ三二七四)

第百三拾貳條 慣例期トハ爲替手形ノ日附ノ翌日ヨリ起算スル所ノ三十日

ノ期限ヲ云フ

月ハグレゴリアン曆ニ依テ定ムル所ノモノトス(前一二九)

第百三拾三條 市會ニ於テ辨濟ス可キ爲替手形ハ其市會ノ終ル爲メニ定メ  
タル日ノ前日ニ辨濟期限ニ至リ若シ又市會ノ唯一日間繼續スル時ハ其市  
會ノ日ニ辨濟期限ニ至ルモノトス(前一六一以下)

第百三拾四條 若シ爲替手形ノ辨濟期限カ法律上ノ祭日タル時ハ其前日ニ  
之ヲ辨濟ス可キモノトス(前一六二前六三三〇三三三〇三七)

第百三拾五條 爲替手形辨濟ノ爲メ宥恕恩惠又ハ地方ノ慣習或ハ常慣ノ猶  
豫期限ハ總テ之ヲ廢止ス(前一五七一六一)

○第六款 裏書

第百三拾六條 爲替手形ノ所有權ハ裏書ノ方法ヲ以テ移轉スルモノトス(前  
一一〇一四〇一八七一八三三三三三三四四一三〇一四二二一四二六二六五三三六九二)

第百三拾七條 裏書ニハ其日附ヲ記ス可シ  
又裏書ニハ其供給セラレタル價額ヲ明記ス可シ

又裏書ニハ爲替手形ノ所有權ヲ受ケタル者ノ姓名ヲ表示ス可シ(前一三八民  
二〇〇三)

第百三拾八條 若シ裏書カ前條ノ成規ニ適合セサル時ハ其裏書ハ所有權ノ  
轉移ヲ爲サスシテ唯一箇ノ代理委任狀ノミトス(前一一〇民一三三八一三五二一  
三五六二〇〇九)

第百三拾九條 裏書ノ日附ヲ實ヨリ前ニ記スルコトヲ禁ス若シ之ニ背ク時ハ  
偽造ノ刑ニ處セラル可シ(刑一四七)

○第七款 連帶

第百四拾條 爲替手形ニ署名シ之ヲ受諾シ又ハ之ニ裏書シタル各人ハ所持  
人ニ對シテ連帶ノ擔保ヲ爲ス可ヤモノトス(前一一八一二二二三六二六四一八七民  
一一〇〇二二〇二二三四二二三五三一六九三)

○第八款 保證

第百四拾壹條 爲替手形ノ辨濟ハ受諾及ヒ裏書ニ拘ハラズ保證ヲ以テ之ヲ  
擔保スルコトヲ得可シ(前一八七)

第百四拾貳條 其擔保ハ第三ノ人ニ於テ爲替手形ニ記入シテ之ヲ給與シ又  
ハ別ノ證書ヲ以テ之ヲ給與ス可シ

保證ヲ爲ス者ハ差立人及ヒ裏書人ト同一ノ方法ヲ以テ相連帶シテ負擔ス  
可シ但シ關係各人ノ之ト異ナリタル合意ヲ爲シタル時ハ格別ナリトス(民  
二〇一四二二〇二二)

○第九款 辨濟

第百四拾三條 爲替手形ハ其指示スル所ノ貨幣ヲ以テ辨濟セサル可カラズ  
(民一二四三)

第百四拾四條 爲替手形ノ辨濟期限ニ至ラサル前ニ之ヲ辨濟スル者ハ其辨  
濟ノ有效ナルコトノ實ニ任ス可シ(前一六一民一一八六以下)

第百四拾五條 爲替手形ノ辨濟期限ニ至リテ故障ノ申立ヲ受クルコトナク之  
ヲ辨濟シタル者ハ有效ニ釋免セラレタルモノト看做ス可シ(前一六一)

第百四拾六條 爲替手形ノ所持人ハ其辨濟期限ノ前ニ強テ之レカ辨濟ヲ受  
ケシムルコトヲ得ス(民一一八七二二五八ノ第四)

第四百拾七條 第二番、第三番、第四番等ニ據リ爲シタル爲替手形ノ辨濟ハ若シ其第二番、第三番、第四番等ニ其辨濟ハ他ノ手形ノ效ヲ取消ス旨ヲ記載シタル時ハ有效ノモノトス(前一一〇)

第四百拾八條 若シ受諾ノ旨ヲ記シタル手形ヲ取戻サスシテ第二番、第三番、第四番等ニ據リ爲替手形ヲ辨濟シタル者ハ其受諾ヲ記シタル手形ノ所持人タル第三ノ人ニ關シテ自己ノ釋免ヲ爲サ、ルモノトス(前一二二)

第四百拾九條 爲替手形ヲ失ヒタル場合又ハ所持人ノ家資分散ノ場合ニ非サレハ辨濟ニ付テ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ許サス

第五百拾條 受諾セラレタル爲替手形ヲ失ヒタル場合ニ於テハ其手形ノ屬セシ所ノ者ハ第二番、第三番、第四番等ニ據リ其辨濟ヲ要求スルコトヲ得可シ(前一七五)

第五百拾壹條 若シ失ヒタル爲替手形カ受諾ヲ附シタルモノナル時ハ裁判官ノ命令書ニ依リ且ツ保證人ヲ立ツルニ非サレハ第二番、第三番、第四番等ニ據リ其辨濟ヲ得ント要求スルコトヲ得ス

第五百拾貳條 爲替手形ノ受諾セラレタルモノナルト否トヲ問ハス之ヲ失ヒタル者カ第二番、第三番、第四番等ヲ差出スコト能ハサル時ハ其失ヒタル爲替手形ノ辨濟ヲ請求シ而シテ自己ノ帳簿ニ依テ其所有權ヲ證明シ且ツ保證人ヲ立テタル上裁判官ノ命令ニ依テ其辨濟ヲ受クルコトヲ得可シ

第五百拾三條 前二條ニ據リ爲シタル請求ノ上ニテ辨濟ヲ否拒セラレタル場合ニ於テハ其失ヒタル爲替手形ノ所有者ハ拒ミ證書ヲ以テ總テ自己ノ權利ヲ保存スルモノトス

其證書ハ失ヒタル爲替手形ノ辨濟期限ノ翌日ニ之ヲ作ラサル可カラス其證書ハ拒絕證書ノ送達ノ爲メ後ニ定ムル所ノ方法及ヒ期限ニ於テ差立人及ヒ各裏書人ニ之ヲ送達セサル可カラス(前一六一以下)

第五百拾四條 紛失シタル爲替手形ノ所有者ハ第二番ノモノヲ得ル爲メ自己ノ直接ノ裏書人ニ請求メサル可カラス而シテ其裏書人ハ更ニ己レノ裏書人ニ對シテ要求ヲ爲シシムル爲メ自己ノ名前ト自己ノ管照トヲ其紛失シタル手形ノ所有者ニ貸ス可ク而シテ又斯クノ如ク裏書人ヨリ裏書人ニ溯

リテ終ニ手形ノ差立人ニ至ル可シ○紛失シタル爲替手形ノ所有者ハ其費用ヲ負擔ス可シ

第百五拾五條 第百五十一條及ヒ第百五十二條ニ記載シタル保証人ノ約務ハ若シ三年ノ間ニ訟求モ又裁判上ノ起訴モアラサル時ハ三年ノ後ニ至リテ消滅スルモノトス(前一八九)

第百五拾六條 爲替手形ノ金額ニ付キ内金ニテ爲シタル辨濟ハ差立人及ヒ各裏書人ノ義務免除トナルモノトス  
所持人ハ其餘ノ額ニ付テハ爲替手形ニ付キ拒絶証書ヲ作ラシム可キモノトス(前一二四一七三以下)

第百五拾七條 裁判官ハ爲替手形ノ辨濟ノ爲メ如何ナル猶豫期限ヲモ附與スルコトヲ得ス(前一三五二六一民一二四四)

○第拾款 參涉ニ依レル辨濟

第百五拾八條 拒絶証書ヲ作ラレタル爲替手形ハ差立人ノ爲メ又ハ裏書人中一名ノ爲メ總テノ參涉者ヨリ之ヲ辨濟スルコトヲ得可シ

其參涉及ヒ辨濟ハ拒絶証書ノ中又ハ其証書ノ末ニ之ヲ証明ス可シ(前一二六以下民一二三六一三三七)

第百五拾九條 參涉ニ依リ爲替手形ヲ辨濟スル者ハ所持人ノ權利ニ代替シ而シテ其履行ス可キ法式ニ付テハ之ト同一ノ本分ヲ負擔スルモノトス  
若シ參涉ニ依レル辨濟カ差立人ノ計算ノ爲メニ爲サレタル時ハ各裏書人ハ皆釋免セラル、モノトス

若シ其辨濟カ裏書人中一名ノ爲メニ爲サレタル時ハ其後ノ各裏書人ハ釋免セラル、モノトス

若シ參涉ニ依リ爲替手形ヲ辨濟スルニ付キ抗競アル時ハ最モ多數ノ釋免ヲ爲ス所ノ者ヲ撰取ス可シ

若シ原來手形ヲ差立テラレタル者ノ之ヲ受諾セサルカ爲メニ拒絶証書ヲ作ラレ而シテ其者ノ右ノ手形ヲ辨濟スル爲メニ出テ來ル時ハ其者ハ總テ其他ノ各人ヨリモ撰取セラル可シ(前一九一六。以下民一二五〇一二五二)

○第拾壹款 所持人ノ權利及ヒ本分

第六拾條

(千八百六十二年五月三日ノ法律歐羅巴ノ大陸及ヒ島嶼又ハア

ルゼリ)ヨリ差立テ而シテ閱覽ノ上若クハ閱覽ノ時ヨリ一日又ハ數日ニ  
月又ハ數月、一回ノ慣例期又ハ數回ノ慣例期ニ於テ歐羅巴ニアル佛蘭西ノ  
領地又ハ「アルゼリ」ニ於テ辨濟ス可キ爲替手形ノ所持人ハ其日附ヨリ三  
月内ニ之レヲ辨濟又ハ受諾ヲ要求セサルヲ得ス若シ然ラサル時ハ各裏替  
人ニ對シ又差立人ノ爲替資金準備ヲ爲シタル時ハ其差立人ニ對シテモ償  
還ヲ要求スルノ權利ヲ失フ可キモノトス

其期限ハ地中海ノ沿岸及ヒ黑海ノ沿岸ニアル各國ヨリ歐羅巴ニアル佛蘭  
西ノ領地ニ向ケ差立テタル爲替手形又其裏面ニ於テ歐羅巴ノ大陸及ヒ島  
嶼ヨリ地中海及ヒ黑海ノ佛蘭西人居留地ニ向ケ差立テタル爲替手形ニ付  
テハ四月トス

其期限ハ喜望峯ヨリ近キ亞非利加ノ各國及ヒ「ホルン」岬ヨリ近キ亞米利加  
ノ各國ヨリ歐羅巴ニアル佛蘭西ノ領地ニ向ケ差立テタル爲替手形又其裏  
面ニ於テ歐羅巴ノ大陸及ヒ島嶼ヨリ喜望峯ヨリ近キ亞非利加ノ各國及ヒ

「ホルン」岬ヨリ近キ亞米利加ノ各國ニアル佛蘭西ノ領地又ハ佛蘭西人居留  
地ニ向ケ差立テタル爲替手形ニ付テハ六月トス

其期限ハ總テ其他ノ世界ノ各部ヨリ歐羅巴ニアル佛蘭西ノ領地ニ向ケ差  
立テタル爲替手形又其裏面ニ於テ歐羅巴ノ大陸及ヒ島嶼ヨリ總テ其他ノ  
世界ノ各部ニアル佛蘭西ノ領地及ヒ佛蘭西人居留地ニ向ケ差立テタル爲  
替手形ニ付テハ一年トス

佛蘭西又ハ佛蘭西ノ領地或ハ佛蘭西人居留地ヨリ差立テ而シテ外國ニ於  
テ辨濟ス可キ爲替手形ニシテ閱覽ノ上又ハ閱覽ノ時ヨリ一日又ハ數日、一  
月又ハ數月、一回ノ慣例期又ハ數回ノ慣例期ニ於テ辨濟ス可キモノ、所持  
人ハ各箇ノ距離ノ爲メ前ニ定メタル期限内ニ辨濟又ハ受諾ヲ要求ス可ク  
若シ然ラサル時ハ其所持人ハ右ニ同シキ失權ヲ受ク可シ○前ニ定メタル  
期限ハ海上戰鬪ノ時ニ於テハ海外各國ノ爲メ之ヲ倍ス可シ  
然レモ前ノ成規ハ手形ノ收受人又然ノミナラス各裏替人ノ間ニ爲  
ス「アル」可キ右ニ反スル約權ヲ害スル「ナカル」可シ(番一三九一七三)

第百六拾壹條 爲替手形ノ所持人ハ其辨濟期限ノ日ニ之レカ辨濟ヲ要求セサル可カラヌ(前一二三〇・一四三以下)

第百六拾貳條 辨濟ノ否拒ハ其辨濟期限ノ日ノ翌日ニ辨濟セサル爲メノ拒絕証書ト名クル一箇ノ証書ヲ以テ之ヲ証明セサル可カラヌ

若シ其日カ法律上ノ祭日タル時ハ次キノ日ニ拒絕証書ヲ作ル可シ(前一二三〇・一七三・一七四・一七五・一七六・一七七)

第百六拾三條 所持人ハ受諾セサル爲メノ拒絕証書ニ依テモ又爲替手形ヲ差立テラレタル者ノ死去又ハ家資分散ニ依テモ辨濟セサル爲メノ拒絕証書ヲ免除セラレサルモノトス○若シ辨濟期限前ニ受諾者ノ家資分散ヲ爲シタル場合ニ於テハ所持人ハ拒絕証書ヲ作ラシメ而シテ其償還ノ請求ヲ執行スルコトヲ得可シ(前一二九・一五六・一六八・一四四・一六九)

第百六拾四條 辨濟ヲ爲サ、ル爲メニ拒絕証書ヲ作ラレタル爲替手形ノ所持人ハ左ノ如クニ其擔保ニ於ケル訴權ヲ執行スルコトヲ得可シ  
差立人及ヒ各裏書人ニ對シ各自ニ其訴權ヲ執行スルコトヲ得可シ

又ハ各裏書人及ヒ差立人ニ對シ相連合シテ其訴權ヲ執行スルコトヲ得可シ

各裏書人ハ差立人及ヒ自己ヨリ前ノ裏書人ニ關シテ右ニ同シキ權能ヲ有スルモノトス(前一二四〇・民一二五二・一三三七・一三五九・一八二・一八四・二一六)

第百六拾五條 若シ所持人カ其讓渡人ニ對シテ各自ニ償還ノ請求ヲ執行スル時ハ其讓渡人ニ拒絕証書ヲ送達セシム可ク而シテ其償還ヲ得サル場合ニ於テ若シ讓渡人カ五ミリアメートルノ距離内ニ居住スル時ハ其拒絕証書ノ日附ヨリ十五日内ニ裁判ノ爲メ之ヲ呼出サシム可シ  
其期限ハ爲替手形ヲ辨濟ス可キ場所ヨリ五ミリアメートル以上ノ地ニ住スル讓渡人ニ關シテハ五ミリアメートルニ過キタルニミリアメートル半毎ニ一日ヲ増ス可キモノトス(前一九六・一六八・七〇・四二〇・一〇三三)

第百六拾六條 (千八百六十二年五月三日ノ法律)佛蘭西ヨリ差立テ而シテ歐羅巴ニ於ケル佛蘭西大陸ノ領地外ニ於テ辨濟ス可キ爲替手形ノ拒絕証書ヲ作ラレタル時ハ佛蘭西ニ居住スル差立人及ヒ各裏書人ハ左ノ期限内ニ

請求セラル可シ

「エルス」島「アルゼリ」不列顛諸島、意大利、荷蘭王國及ヒ佛蘭西ト境ヲ接スル各國又ハ各聯邦ニ於テ辨濟ス可キモノニ付テハ一月

歐羅巴若シクハ地中海ノ沿岸及ヒ黑海ノ沿岸ノ其他ノ各國ニ於テ辨濟ス可キモノニ付テハ二月

「マラッカ」及ヒ「ソンド」ノ海峽ヨリ近ク及ヒ「ホルン」岬ヨリ近キ歐羅巴外ノ地ニ於テ辨濟ス可キモノニ付テハ五月

「マラッカ」及ヒ「ソンド」ノ海峽ヨリ遠ク及ヒ「ホルン」岬ヨリ遠キ地ニ於テ辨濟ス可キモノニ付テハ八月○右ノ期限ハ佛蘭西大陸外ノ佛蘭西ノ領

地ニ居住スル差立人及ヒ各裏書人ニ對シテ執行ス可キ償還ノ請求ニ付テハ右ト同一ノ割合ヲ以テ之ヲ遵守ス可キモノトス

前ニ定メタル期限ハ海上戰鬪ノ場合ニ於テハ海外各國ニ付キ之ヲ倍ス可シ

第四百六拾七條 若シ所持人カ各裏書人及ヒ差立人ニ對シ相違合シテ其償還

ノ請求ヲ執行スル時ハ其各人ニ關シテ前數條ニ定メタル猶豫期限ヲ享有スルモノトス

各裏書人ハ或ハ各自ニ或ハ相連合シテ右ト同一ノ期限内ニ右ト同一ノ償還ノ請求ヲ執行スルノ權利ヲ有ス

各裏書人ニ關シテハ裁判所ニ呼出ノ日ノ翌日ヨリ其期限ヲ起算ス可シ

第四百六拾八條 閱覽ノ上又ハ閱覽ノ時ヨリ一日又ハ數日、一月又ハ數月、一回

ノ慣例期又ハ數回ノ慣例期ニ於テ辨濟ス可キ爲替手形ノ差出ノ爲メ

辨濟セサル爲メノ拒絕證書ノ爲メ

擔保ノ訴權ノ執行ノ爲メ

此等諸件ノ爲メ前ニ定メタル期限ノ終リシ後ニ於テハ爲替手形ノ所持人ハ各裏書人ニ對シテ總テノ權利ヲ失フモノトス(民一六九三)

第四百六拾九條 各裏書人ハ各々自己ニ關スル所ノモノニ付キ前ニ定メタル

期限ノ後ニ於テハ其讓渡人ニ對シテ亦同シク總テ擔保ノ訴權ヲ失フモノトス



第四百七拾條 若シ差立人カ爲替手形ノ辨濟期限ニ於テ爲替資金ヲ準備シタル旨ヲ證明スル時ハ所持人及ヒ各裏書人ハ其差立人自身ニ關シテ右ニ同シキ失權ヲ受クルモノトス

此場合ニ於テ其所持人ハ爲替手形ヲ差立テラレタル者ノミニ對シテ訴權ヲ保存スルモノトス(前一一五以下一六〇一八九)

第四百七拾壹條 前三條ニ定メタル失權ノ效ハ拒絕證書拒絕證書ノ送達又ハ裁判ニ於ケル呼出ノ爲メニ定メタル期限ノ終リシ後計算又ハ相殺ニ依リ又ハ其他ノ方法ニテ爲替手形ノ辨濟ノ用ニ供セシ元資ヲ收受シタル差立人ニ對シ又ハ裏書人中ニテ其元資ヲ收受シタル者ニ對シ所持人ノ利益ニ於テ止息スルモノトス

第四百七拾貳條 擔保ノ訴權ノ執行ノ爲メニ定メタル法式ニ拘ハラヌ辨濟ヲ爲サハル爲メニ拒絕證書ヲ作ラレタル爲替手形ノ所持人ハ裁判官ノ許ヲ得タル上ニテ權利保存ノ爲メ差立人受諾人及ヒ裏書人ノ動産ヲ差押ユルコトヲ得可シ(前四一七五五七以下)

○第四百七拾貳款 拒絕證書

第四百七拾三條 受諾セサル爲メ又ハ辨濟セサル爲メノ拒絕證書ハ公證人二名ニテ之ヲ作り又ハ公證人一名ト證人二名トニテ之ヲ作り又ハ使吏一名ト證人二名トニテ之ヲ作ル可シ

拒絕證書ハ左ノ場所ニ之ヲ送付セサル可カラヌ

爲替手形ヲ辨濟ス可キ者ノ住所又ハ人ノ知リタル其者ノ最後ノ住所

已ムヲ得サルニ於テハ辨濟スル爲メ爲替手形ニ指示シタル各人ノ住所  
參涉ヲ以テ受諾シタル第三ノ人ノ住所

右ハ一箇同一ノ證書ヲ以テ之ヲ爲ス可キモノトス

若シ住所ノ指示ニ誤リアル場合ニ於テハ拒絕證書ヲ作ル前ニ搜索ノ證書ヲ作ル可シ(前一一九一二六二六三二八四一八七二八九民二三三八一三八二前一〇三一)

本條第一項ニ記シタル證人二名ノ立會ハ千八百四十八年三月二十三日ノ法令ヲ以テ不用ノモノト爲セリ

第四百七拾四條 拒絕證書ニハ左ノ諸件ヲ記スルモノトス

爲替手形、受附裏書ノ全文ノ登記及ヒ已ムヲ得サル時ニ於テ辨濟ス可キ者アル旨ヲ其手形ニ指示シタル時ハ其指示ノ全文ノ登記

爲替手形ノ金額ヲ辨濟ス可キノ催促

又拒ミ證書ニハ左ノ諸件ヲ表示スルモノトス

辨濟ス可キ者ノ居在又ハ不在

辨濟スルコトヲ否拒シタルノ理由及ヒ署名スルコト能ハス又ハ署名スルコト

否拒シタル事(商一七五、民一九九三)

第七拾五條 爲替手形ノ所持人ノ方ニ於ケル如何ナル證書ト雖モ爲替手

形ノ紛失ニ關シテ第百五十條以下ニ定メタル場合ノ外ハ拒絕證書ノ缺ヲ

補足スルコトヲ得ス

第七拾六條 公證人及ヒ使吏ハ拒絕證書ノ正確ナル寫ヲ遺シ置キ且ツ見

出シ帳ノ爲メニ定メタル方法ヲ以テ設ケタル番號ヲ附シ花押ヲ爲シタル

特別ノ簿冊ニ毎日其日附ノ順序ヲ以テ拒絕證書ノ全文ヲ記入ス可ク若シ

之ニ背ク時ハ其職ヲ罷免セラレ且ツ關係各人ニ對シテ費額ヲ償ヒ及ヒ損

害賠償ヲ爲ス可キノ言渡ヲ受ク可シ(商七一〇三)

○第七拾三款 返シ爲替

第七拾七條 返シ爲替ハ返シ爲替手形ニ依テ之ヲ爲スモノトス

第七拾八條 返シ爲替手形トハ所持人カ其拒絕證書ヲ作リタル爲替手形

ノ主領ト其費用及ヒ自己ヨリ辨濟スル所ノ再度ノ爲替貨トヲ差立人又ハ

各裏書人中ノ一名ヨリ己レニ償還セシムル所ノ再度ノ爲替手形ヲ云フ

第七拾九條 返シ爲替貨ハ差立人ニ關シテハ爲替手形ヲ辨濟ス可キ地ヨ

リ之ヲ差立テタル地ニ至ル爲替ノ相場ニ依テ規定スルモノトス

又返シ爲替貨ハ各裏書人ニ關シテハ其裏書人ノ爲替手形ヲ交付シ又ハ取

引シタル地ヨリ償還ヲ爲ス地ニ至ル爲替ノ相場ニ依テ規定スルモノトス

第八拾條 返シ爲替手形ニハ返シ爲替計算書ヲ添ニ可シ

第八拾壹條 返シ爲替計算書ニハ左ノ諸件ヲ包含スルモノトス

拒絕證書ヲ作ラレタル爲替手形ノ主領

拒絕證書ノ費用及ヒ銀行ノ口錢、商業世話人ノ世話料、印税及ヒ手形ノ運

質ノ如キ其他ノ正當ナル費用

又返シ爲替計算書ニハ返シ爲替手形ヲ差向ケラル、者ノ姓名ト其返シ爲替手形ヲ取引スル爲替質トヲ表示スルモノトス

返シ爲替計算書ハ手形賣買世話人之ヲ保證ス可シ  
手形賣買世話人ノアラサル各地ニ於テハ商人二名其返シ爲替計算書ヲ保證ス可シ

返シ爲替計算書ニハ拒絕證書ヲ作ラレタル爲替手形其拒絕證書又ハ其證書ノ副本ヲ添ユ可シ

裏書人中ノ一名ニ向ケ返シ爲替手形ヲ作りタル場合ニ於テハ其返シ爲替手形ニ右ノ外爲替手形ヲ辨済ス可キ地ヨリ之ヲ差立テタル地ニ至ル爲替ノ相場ヲ證明スル所ノ保證書ヲ添ユ可シ

第百八拾貳條 同一ノ爲替手形ニ付テハ數箇ノ返シ爲替計算書ヲ作ルヲ得ス  
其返シ爲替計算書ハ逐次裏書人ヨリ裏書人ニ之ヲ償還シ而シテ結局差立

人ニ於テ之ヲ償還ス可シ

第百八拾三條 數箇ノ返シ爲替質ヲ併合スルヲ得ス○各裏書人並ニ差立人ハ唯一箇ノ返シ爲替質ノミヲ負擔スルモノトス

第百八拾四條 辨済セサル爲メノ拒絕證書ヲ作ラレタル爲替手形ノ主領ノ利息ハ其拒絕證書ノ日ヨリ起算シテ之ヲ負擔ス可キモノトス(前一六二一七三、民一一五三)

第百八拾五條 拒絕證書ノ費用返シ爲替質及ヒ其他ノ正當ナル費用ノ利息ハ裁判所ニ於ケル訟求ノ日ヨリ起算スルニ非サレハ之ヲ負擔セサルモノトス(前一六二一七三、民一一五三)

第百八拾六條 若シ返シ爲替計算書ニ第百八十一條ニ定メタル手形賣買世話人又ハ商人ノ保證書ヲ添ヘサル時ハ返シ爲替質ヲ負擔スルヲナシ

○第貳節 指圖手形

第百八拾七條 爲替手形ニ關スル總テノ成規及ヒ左ノ諸件ニ關スル總テノ成規ハ指圖手形ニ適用ス可キモノトス但シ第六百三十六條、第六百三十七

條第六百三十八條ニ定メタル場合ニ關スル成規ト相觸ル、イナカル可シ

辨濟期限

裏書

連帶

保證

辨濟

參涉ニ依レル辨濟

拒絕證書

所持人ノ本分及ヒ權利

返シ爲替又ハ利息(前一二三〇以下、一三六以下、一四〇以下、一五八以下、一六〇以下、一七三以下、

一七七一、八九九、一三二六)

第四百八拾八條

指圖手形ニハ其日附ヲ記ス可シ

又指圖手形ニハ左ノ條件ヲ表示スルモノトス

辨濟ス可キ金額

其指圖手形ノ金額ヲ受取ル可キ者ノ姓名

辨濟ヲ成就ス可キ時期

貨幣ニ於テ、商品ニ於テ、計算ニ於テ又ハ總テ其他ノ方法ヲ以テ供給シタ

ル價額(前一二一〇)

○第三節 期滿效

第四百八拾九條

爲替手形及ヒ商人商賈又ハ銀行者ノ署名シ又ハ商業ノ所爲

ノ爲メニ署名シタル指圖手形ニ關スル總テノ訴權ハ金額ヲ辨濟ス可キノ

裁判言渡アラサル時又ハ別ノ證書ヲ以テ負債ヲ認定セサル時ハ拒絕證書

ノ日又ハ最後ノ裁判上ノ訟求手續ノ日ヨリ起算シ五年ヲ以テ期滿效ニ依

リ消滅スルモノトス

然レハ負債者ナリト稱言セラレタル者ハ若シ請求ヲ受クルニ於テハ其最

早價ヲ負ハサル旨ヲ誓ヲ爲シテ確言ス可ク又其者ノ寡婦、相續人又ハ受權

人ハ最早少シモ負擔ナシト善意ニテ思考スル旨ヲ誓ヲ爲シテ確言ス可キ

モノトス(前一二五五、一七三、民一三三、五二、一三三、五七以下、二二四、二以下、二二四、九、二二七、八)



第五 船ノ最後ノ航行及ヒ其入港以來其船及ヒ船具器具ヲ修理スルノ費用

第六 最後ノ航行ニ於テ使用セラレタル船長及ヒ其他ノ乗組人ノ雇賃及ヒ給料

第七 最後ノ航行中船ノ需用ノ爲メ船長ニ貸シタル金額及ヒ之ト同一ノ目的ノ爲メニ船長ノ賣リタル商品ノ代金ノ償還

第八 船ノ未タ航行ヲ爲サ、ル時ニ於テ賣主品物供給者及ヒ造船ニ使用セラレタル職工ニ對シテ負擔シタル金額並ニ船ノ既ニ航海シタル時ニ於テハ其出帆前ニ品物供給、工作、工價ノ爲メ及ヒ修理、飲食料、船具ノ裝置、艦裝ノ爲メ各債主ニ對シテ負擔シタル金額

第九 船ノ出帆前ニ修理、飲食料、船具ノ裝置、艦裝ノ爲メ其船體、船身、船具器具ヲ引當トシ航海ノ危險ヲ冒シテ貸シタル金額千八百七十四年十月十日ノ法律第二十七條ヲ以テ本項ヲ削除シタリ

第十 船體、船身、船具、器具及ヒ船ノ艦裝物ニ付キ爲シタル保險料ノ金額

ニシテ最後ノ航行ノ爲メニ負擔シタルモノ

第十一 船ノ賃借人ノ積入レタル商品ヲ引渡サ、ルノ爲メ又ハ船長或ハ乗組人ノ過失ニ依リ右商品ノ受ケタル運輸損害ノ償還ノ爲メ其賃借人ニ對シテ負擔シタル損害賠償

本條ノ各項ニ記シタル各債主ハ代金ノ不足ナル場合ニ於テハ其債權ノ割合ヲ以テ相抗競シテ償還ヲ受ク可キモノトス

船ニ付テノ書入質權アル各債主ハ其記入ノ順序ヲ以テ先取特權アル債權ノ後ニ來ル可キモノトス(本項ハ千八百七十四年十二月十日ノ法律第二十七條ヲ以テ追加シタリ)(舊三五〇二七三三三三三三三四民一七九八三〇九三三三〇九七三三三〇一三三三三〇三三三)

第九拾貳條 前條ニ表示シタル負債ニ附與セラレタル先取特權ハ左ノ方法ヲ以テ證明セラレタルニ非サレハ之ヲ執行スルコトヲ得ス

第一 裁判費用ハ該管裁判所ノ決定シタル費用目録ヲ以テ之ヲ證明ス可シ

第二 噸稅及ヒ其他ノ稅ハ收受役ノ適法ナル受取証書ヲ以テ之ヲ証明ス可シ

第三 第九十一條ノ第一、第三、第四、第五ニ指定シタル負債ハ商事裁判所長ノ決定シタル目錄ヲ以テ之ヲ証明スヘシ

第四 乗組人ノ雇賃及ヒ給料ハ海軍兵士徵募役署ニ於テ決定シタル船具裝置ノ帳簿及ヒ船具取收ノ帳簿ヲ以テ之ヲ証明ス可シ

第五 最後ノ航行中船ノ需用ノ爲メニ貸シタル金額及ヒ其需用ノ爲メニ賣リタル商品ノ價格ハ船長及ヒ乗組人中重立チタル者ノ署名シタル調書ヲ以テ憑據ト爲ス船長ノ決定シタル目錄ヲ以テ之ヲ証ス可シ

但シ其調書ニハ借入ノ必要ナルコトヲ証明ス可キモノトス

第六 船ノ賣拂ハ正確ナル日附ヲ有スル証書ヲ以テ之ヲ証明ス可ク又船ノ船具裝置、機裝及ヒ飲食料ノ爲メノ品物供給ハ船長ノ檢署シ且ツ

機船者ノ決定シタル稅書勘定書又ハ目錄ヲ以テ之ヲ証明ス可シ但シ其副本一通ヲ船ノ出帆前又ハ遅クモ其出帆ノ後十日内ニ商事裁判所

ノ書記局ニ納ム可キモノトス

第七 船ノ出帆前ニ船体、船身、船具、器具及ヒ船ノ機裝物ヲ引當トシ航海ノ危險ヲ冒シテ貸シタル金額ハ公証人ノ面前ニ於テ作リタル契約書又ハ私シノ署名契約書ヲ以テ之ヲ証明ス可シ但シ其副本ヲ其日附ヨリ十日内ニ商事裁判所ノ書記局ニ納ム可キモノトス(千八百七十四年十二月十日ノ法律第二十七條ヲ以テ本項ヲ削除シタリ)

第八 保險料ハ保險ノ契約書又ハ保險ノ商業世話人ノ帳簿ノ抜書ヲ以テ之ヲ証明ス可シ

第九 船ノ賃借人ニ對シテ負擔シタル損害賠償ハ裁判書又ハ此事ニ付キ爲シタル裁斷人ノ裁決書ヲ以テ之ヲ証明ス可シ(前二五〇、三一以下三三三、三三三、三三三、三三三、三三三)

第九拾三條

各債主ノ先取特權ハ義務消滅ノ一般ノ方法ニ拘ハラヌ更ニ左ノ條件ニ依テ消滅スルモノトス  
後卷ニ定ムル所ノ方法ヲ以テ爲シタル裁判上ノ賣拂ニ依リ

又ハ任意ノ賣拂ノ後其船ノ獲得者ノ名前ヲ以テ其危険ニテ航海ヲ爲シ  
而シテ賣主ノ債主ノ方ヨリ故障ヲ申立テサル時(前一九七ヨリ二一五ニ至ル)

第百九拾四條

船ハ左ノ場合ニ於テハ航海ヲ爲シタルモノト看做ス可シ

若シ此港ヲ出帆セシノ証アリテヨリ三十日ノ後ニ至リ彼港ニ到着シタルノ証アル時

若シ他ノ港ニ到着セスト雖モ同一ノ港ニ於ケル出帆ト歸着トノ間ニ六十  
十日以上經過シタル時又ハ遠路ノ航行ノ爲メニ出帆シタル船ノ六十  
日以上航行ヲ爲シテ賣主ノ債主ノ方ヨリ要求ヲ爲サ、ル時

第百九拾五條

船ノ任意ノ賣拂ハ書面ヲ以テ之ヲ爲サ、ルヲ得ス而シテ其  
書面ハ公ケノ証書又ハ私シノ署名証書タルヲ得可キモノトス

其賣拂ハ船ノ港内ニアルト航行中タルトヲ問ハス船ノ全部ニ付キ又ハ船  
ノ一部分ニ付キ之ヲ爲スヲ得可シ(前一九六六三三)

第百九拾六條

航行中ノモノタル船ノ任意ノ賣拂ハ賣主ノ債主ニ害ヲ被ム  
ラシメサルモノトス

故ニ其賣拂ニ拘ハラス船又ハ其代金ハ矢張右債主ノ抵當物ニシテ其債主  
ハ若シ相當ナリト思考スルニ於テハ詐害ノ原由ノ爲メニ其賣拂ヲ取消サ  
ント求ムルヲ得シ得可シ(前一九〇以下頁一一六七)

○第貳卷

船ノ差押及ヒ賣拂

第百九拾七條

凡ソ海船ハ裁判上ノ威力ヲ以テ之ヲ差押ヘ及ヒ賣拂ヲ得

得可ク而シテ各債主ノ先取特權ハ以下ノ法式ニ依リ之ヲ排除ス可キモノ  
トス(頁二二二〇、二五八三以下)

第百九拾八條

辨濟ノ督促ヲ爲シタルヨリ二十四時ノ後ニ非サレハ差押ニ  
取掛ルヲ得ス(前五八三、一〇三三)

第百九拾九條

辨濟ノ督促ハ所有者ニ對シテ執行ス可キ一般ノ訴權ニ關ス  
ル時ハ其所有者自身又ハ其住所ニ之ヲ爲サ、ルヲ得ス



若シ債權カ第百九十一條ノ文面ニ從ヒ船ニ付テノ先取特權ヲ得可キモノ  
ノ買取中ニアル時ハ辨濟ノ督促ヲ其船ノ船長ニ爲スヲ得可シ(第百八三)

**第百條**

使吏ハ調書ニ左ノ諸件ヲ表示スルモノトス

其使吏ノ代理スル債主ノ姓名、職業、居所

使吏ノ處分ヲ爲スノ憑據タル証券

使吏ノ其辨濟ヲ請求スル所ノ金額

賣拂ヲ請求ス可キ裁判所々在ノ地及ヒ差押ヘタル船ノ碇泊シタル地ニ

於テ債主ノ爲シタル住所ノ撰定

所有者及ヒ船長ノ姓名

船ノ名、種類及ヒ噸數

又使吏ハ其船ニ屬スル將船、救艇、船具、器具、兵器、彈藥、食料ノ表示及ヒ明記ヲ

爲スモノトス

又使吏ハ監守人ヲ設置ス(民一九六ニ條五八六以下)

**第百壹條**

若シ差押ヘラレタル船ノ所有者カ裁判所ノ管轄地内ニ居住ス

ル時ハ差押人ヨリ三日ノ期限内ニ差押ノ調書ノ寫ヲ其所有者ニ送達セシ  
メ而シテ其差押ヘタル物件ノ賣拂ニ取掛ルヲ見セシムル爲メ其所有者ヲ  
裁判所ニ呼出サシメサル可カラズ

若シ所有者カ其裁判所ノ管轄地内ニ住セサル時ハ其所有者ヘノ送達狀及

ヒ呼出狀ヲ右差押ヘラレタル船ノ船長ニ送付ス可ク若シ又船長ノ不在ニ

於テハ所有者又ハ船長ノ代理タル者ニ送付ス可シ而シテ三日ノ期限ハ所

有者ノ住所ノ距離ニミリアメートル半毎ニ一日ヲ増ス可キモノトス

若シ其所有者カ外國人ニシテ佛蘭西外ノ地ニ在ル時ハ訴訟法第六十九條

ニ定メタル如クニ其呼出狀及ヒ送達狀ヲ送付ス可シ(第百九六。二。三)

**第百貳條**

若シ差押カ噸數十噸以上ノ船ヲ以テ目的トスル時ハ其賣拂ヲ

可キ物件ノ三次ノ賣取宣揚及ヒ公告ヲ爲ス可シ

其賣取宣揚及ヒ公告ハ商人集會場ト船ノ碇泊シタル地ノ重立チタル公場

トニ於テ引續キ八日ヲ隔テ之ヲ爲ス可シ

其差押ヲ請求シタル裁判所々在ノ地ニ於テ印行スル新聞紙中ノ一ニ其賣

賣宣揚及ヒ公告ノ告示ヲ記入ス可ク若シ其地ニ於テ印行スル新聞紙ノアラサル時ハ本州内ニ於テ印行スル新聞紙中ノ一ニ之ヲ記入ス可シ(第六一七六ニ)

第貳百三條 每次ノ糶賣宣揚及ヒ公告ヲ爲シタルヨリ二日内ニ左ノ場所ニ貼附書ヲ貼附ス可シ

差押ヘタル船ノ大橋

訴ヲ爲シタル裁判所ノ表門

其船ノ碇泊シタル港ノ公場及ヒ波戸場並ニ商人集會場(前二〇三三〇四以下ニ〇七六六ニ)

第貳百四條 糶賣宣揚公告及ヒ貼附書ニハ左ノ諸件ヲ指定セサル可カラズ

認求ノ手續ヲ爲ス者ノ姓名職業居所

其者ノ憑據タル証券

其者ノ償還ヲ受ク可キ金額

其者ノ裁判所々在ノ地及ヒ其船ノ碇泊シタル地ニ於テ爲シタル住所ノ

撰定

其差押ヘタル船ノ所有者ノ姓名及ヒ住所

其船ノ名及ヒ其船ノ既ニ機装シ又ハ機装中ノモノタル時ハ船長ノ名

船ノ噸數

其船ノ繋リ場又ハ碇泊場

認求ノ手續ヲ爲ス者ノ代書人ノ姓名

最初ノ見積リ代價

糶買ヲ受ク可キ審問席ノ日(第六一八)

第貳百五條 第一次ノ糶賣宣揚ノ後貼附書ニ指示シタル日ニ糶買ヲ受ク可

シ

賣拂ノ爲メ職權上ニテ委任セラレタル裁判官ハ各次ノ糶賣宣揚ノ後八日ヲ隔テ其命令書ニ定メタル特定ノ日ニ引續テ糶買ヲ受ク可キモノトス(前二〇六六六一三六一四)

第貳百六條 第三次ノ糶賣宣揚ノ後蠟燭ノ燃ヘ盡クル時ニ至リ別ニ他ノ法

式ナク最モ高價ヲ供陳スル最後ノ糶買人ニ落札ヲ爲スコシ  
職權上ニテ委任セラレタル裁判官ハ各々八日間ノ一回又ハ二回ノ猶豫ヲ  
附與スルコトヲ得可シ

其猶豫ハ之ヲ公告シ及ヒ貼附書ニ記スコシ(第六二四)

第貳百七條 若シ十噸以下ノ容積ノモノタル小船、舢舨及ヒ其他ノ船ニ付キ  
差押ヲ爲ス時ハ三日間引續キ波戸場ニ於テ公告ヲ爲シ且ツ棹ニ貼附ヲ爲  
シ又棹ノアラサルニ於テハ船中ノ見易キ其他ノ場所ニ貼附ヲ爲シ並ニ裁  
判所ノ門ニ貼附ヲ爲シタル後審問席ニ於テ糶賣入札ヲ爲スコシ  
其差押ノ通報ト賣拂トノ間ニ於テ滿八日ノ猶豫期限ヲ遵守スコシ(第六二  
〇・三三)

第貳百八條 船ノ糶賣落札ハ船長ノ職務ヲ止息セシムルモノトス但シ船長  
ハ當然ノ義務アル者ニ對シテ損害ノ償ヲ請求スルコトヲ得可シ(第六二一  
九)

第貳百九條 噸數ノ如何ヲ問ハス船ノ糶賣落札人ハ二十四時ノ期限内ニ其

落札ノ代金ヲ辨濟シ又ハ費用ナク之ヲ商事裁判所ノ書記局ニ附託スコシ  
若シ之ニ背ク時ハ拘留ヲ受ク可キモノトス  
若シ其辨濟又ハ附託ヲ爲サハル時ハ其糶賣落札人ノ適當ノ糶買ニテ右ノ  
船ヲ更ニ再ヒ賣拂ニ附シ而シテ更ニ新ナル一回ノ公告ト唯一箇ノ貼附  
トヲ爲シタルヨリ三日ノ後ニ至リ糶賣入札ヲ爲スコシ但シ右ノ糶賣落札  
人ハ不足高損害賠償利息及ヒ費用ノ辨濟ノ爲メ亦拘留ヲ受ク可キモノト  
ス(第六二四)

拘留ハ千八百六十七年七月二十二日ノ法律ヲ以テ廢止シタリ

第貳百拾條 離分ニ於ケル訟求ハ糶賣落札ノ前ニ裁判所ノ書記局ニ之ヲ爲  
シ且ツ之ヲ通知スコシ

若シ離分ニ於ケル訟求ヲ糶賣落札ノ後ニ至リテ爲シタル時ハ其訟求ヲ賣  
拂ヨリ得タル金額ノ交付ニ付テノ故障申立ニ當然變易スコシ(第六二二以下  
第六七七以下六〇八・六五六以下七二五以下)

第貳百拾壹條 其原告人又ハ故障申立人ハ三日内ニ其憑據ヲ差出スコシ

被告人ハ三日内ニ之ニ抗辨ス可シ

其訴訟ハ單純ナル呼出ノ上審開席ニ之ヲ申告ス可シ(前二一。前八二六。八)

第貳百拾貳條 糶賣落札ノ後三日間ハ代金ノ交付ニ付テノ故障申立ヲ受理

ス可ク其時期ヲ過クル時ハ最早之ヲ許容ス可カラス(前五五七以下)

第貳百拾三條 故障ヲ申立ツル各債主ハ請求ノ手續ヲ爲ス債主又ハ差押ヘ

ラレタル第三ノ人ヨリ受ケタル催促ノ後三日内ニ自己ノ債權ノ証券ヲ借

記局ニ差出ス可ク若シ之ヲ差出サハル時ハ其各債主ヲ賣拂代金ノ分配中

ニ加フルコトナクシテ其分配ニ取掛ル可シ(前六五六以下)

第貳百拾四條 各債主ノ班位整理及ヒ金額ノ分配ハ第九十一條ニ定メタ

ル順序ヲ以テ先取特權アル各債主ノ間ニ之ヲ爲ス可ク又其他ノ債主ノ間

ニ於テハ其債權ノ割合ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

班位ヲ整理セラレタル各債主ハ其主額ト利息及ヒ費用トニ付キ其班位ヲ

整理セラル、モノトス

第貳百拾五條 出帆スルノ川意ヲ爲ス船ハ其將サニ爲サントスル航行ノ爲

メニ契約シタル負債ノ爲メニ非サレハ差押エ可カラサルモノトス而シテ  
又其將サニ爲サントスル航行ノ爲メニ負債ヲ契約シタル場合ニ於テモ其  
負債ニ付保証人ヲ立ツル時ハ差押ヲ防止スルモノトス  
船長ノ其航行ノ爲メニ必要ナル書類ヲ具備シタル時ハ船ノ出帆スルノ用  
意ヲ爲シタルモノト看做ス可シ(前二三一)

○第三卷 船ノ所有者

第貳百拾六條 (千八百四十一年六月十四日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス)船

ノ各所有者ハ船長ノ所爲ニ付キ民事上ニテ其實ニ任ス可ク且ツ其船ト船

送トニ關スル所ノモノ、爲メ船長ノ契約シタル船務ヲ擔任ス可キモノト

ス

船ノ各所有者ハ如何ナル場合ニ於テモ船ト船ノ貸賃トヲ委棄スルニ依リ

前ニ記シタル義務ヲ免カル、ヲ得可シ

然レハ其委聚ヲ爲スノ權能ハ同時ニ船長タリ且ツ船ノ所有者又ハ共同所有者タル者ニ附與セラレサルモノトス○若シ船長カ船ノ共同所有者タル時ハ船ト其離送トニ關スル所ノモノニ付キ自己ノ股分ノ割合ニ非サレハ其契約シタル義務ノ實ニ任セサルモノトス(前二二三三四二八三二九八三五三三六九以下四〇五四〇七民一三八四一九九八三〇九二)

第貳百拾七條 然レハ戰鬪ノ爲メニ離送シタル船ノ所有者ハ其船中ニ在ル軍人又ハ乗組人ノ海上ニテ行ヒタル犯罪及ヒ損傷ニ付テハ其保証人ヲ立テタル金額ニ充ツル迄ノ外資ニ任セサルモノトス但シ其所有者カ其犯罪及ヒ損傷ノ共犯者又ハ從犯タル時ハ格別ナリトス

第貳百拾八條 所有者ハ船長ニ暇ヲ遣スヲ得可シ

若シ書面ニ依レル合意ノアラサル時ハ賠償ヲ爲スニ及ハス(前二〇八)

第貳百拾九條 若シ暇トナリタル船長カ船ノ共同所有者タル時ハ其船長ハ共同ノ所有權ヲ拋棄シ而シテ其共同所有權ヲ代表スル元金ノ償還ヲ要求

スルヲ得可シ

其元金ノ額ハ合意シタル鑑定人又ハ職權上ニテ選任シタル鑑定人ニ於テ之ヲ定ム可シ

第貳百貳拾條 船ノ各所有者ノ共通ノ利益ニ關スル諸件ニ付テハ多數ノ意見ニ從フ可シ

其多數ハ船ノ價額ノ一半ニ過キタル其船ニ於ケル股分ノ一部ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

船ノ糶賣ハ相合シテ其船ニ於ケル股分全部ノ一半ヲ組成スル所有者數名ノ請求ニ據ルニ非サレハ之ヲ許與スルヲ得ス但シ之ニ反シタル書面ニ依レル合意アル時ハ格別ナリトス(前四一〇民八一五一六八六以下)

○第四卷 船長

第貳百貳拾壹條

海船又ハ其他ノ船ノ指揮ヲ任セラレタル各船長船頭又ハ指令者ハ其職務ノ執行ニ付キ假令輕少ノ過失ト雖モ之ヲ擔保スルモノトス(前二二六二一八二一九二五。以下二九三四。五四。七四三五四三六民一三八二以下一九九二)

第貳百貳拾貳條

船長船頭又ハ指令者ハ其引受クル所ノ商品ノ實ニ任ス可キモノトス

船長船頭又ハ指令者ハ其商品ノ承認証書ヲ差出ス可シ

其承認証書ハ之ヲ名ケテ積荷目録ト云フ(前二二六二二八以下二八二二九三四二〇。民一七八二以下)

第貳百貳拾三條

船ノ乗組人ヲ組成シ且ツ水夫及ヒ其他ノ乗組人ヲ擇ミテ之ヲ雇入ルハ船長ノ職務ナリトス然レモ船長ノ其船ノ各所有者居住ノ地ニ在ルニ於テハ船長其各所有者ト相協議シテ右ノ諸件ヲ爲ス可キモノトス(前二二二民六一三三)

第貳百貳拾四條

船長ハ商事裁判所ノ裁判官一名又商事裁判所ノアラサル地ニ於テハ邑長又ハ其副職ノ番號ヲ附シ及ヒ花押ヲ爲シタル一箇ノ簿冊

ヲ設ク可シ

其簿冊ニハ左ノ諸件ヲ記スルモノトス

航行中ニ爲シタル決定

船ニ關スル收受及ヒ費額并ニ總テ船長ノ責任ノ所爲ニ關スル諸件及ヒ計算ヲ爲シ又ハ訟求ヲ爲スノ原由タルイアル可キ諸件

第貳百貳拾五條

船長ハ荷物ヲ積入ルハ前ニ規則ニ依リ定メタル文面ト方法トヲ以テ其船ヲ検査セシム可シ

其検査ノ調書ハ商事裁判所ノ書記局ニ納ム可ク而シテ其抜書ヲ船長ニ交付ス可キモノトス(前二二八二二三。二九七三七七)

第貳百貳拾六條

船長ハ左ノ書類ヲ船中ニ備ヘ置ク可シ  
船ノ所有權ノ證書

佛蘭西ニ屬スル旨ヲ證明スル證書

乗組人姓名簿

積荷目録及ヒ船舶借入契約書

検査ノ證書

海關稅受取證書及ヒ海關稅上納ノ保證人ヲ立テタルノ證書(前二五〇・二七三以下二八二・三八六以下)

モノトス(前二四一)

第貳百貳拾八條

前四條ニ依リ負ハシメラレタル義務ニ違背シタル場合ニ於テハ船長其船及ヒ積荷ニ關係アル各人ニ對シ總テ事故ノ責ニ任ス可キモノトス(前二五七)

第貳百貳拾九條

船長ハ亦荷主ノ書面ニ依レル承諾ナクシテ其船ノ甲板上ニ積入レタル商品ニ生スルコアル可キ總テノ損害ノ責ニ任スルモノトス右ノ成規ハ沿岸航行ノ小船ニ適用ス可カラサルモノトス(前四一・四二)

第貳百三拾條

船長ノ責任ハ抗拒ス可カラサルカアル障礙ノ腫アルニ非サレハ止息セサルモノトス(民一四八・一七八)

第貳百三拾壹條

船中ニ在ル所ノ船長及ヒ乗組人又ハ解船ニ乘リテ出帆ス

ル爲メ船中ニ赴ク所ノ船長及ヒ乗組人ハ其航行ノ爲メニ契約シタル負債ノ爲メニ非サレハ民事ノ負債ノ爲メニ之ヲ拘留スルコトヲ得ス又其航行ノ爲メニ契約シタル負債ノ場合ト雖モ若シ右各人ノ保證人ヲ立ツル時ハ亦之ヲ拘留スルコトヲ得ス(前二五五・二四〇・二四一・二七〇)

第貳百三拾貳條

船長ハ各所有者又ハ其代理人居住ノ地ニ於テハ其特別ナル許可ナクシテ船ノ修理ヲ營ミ帆布綱具及ヒ船用ノ爲メノ其他ノ物件ヲ買入レ又ハ之レカ爲メ船体ヲ引當トシテ金額ヲ借入レ又ハ船ヲ貸貸スルコトヲ得ス(前三二)

第貳百三拾三條

(千八百七十四年十二月十日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス) 若シ各所有者ノ承諾ヲ以テ船ヲ貸貸シ其中或者ノ搬送ノ爲メニ必要ナル費用ヲ分擔スルコトヲ拒メタル時ハ船長ハ此場合ニ於テハ否拒者ニ其分擔ノ額ヲ供給ス可キノ催促ヲ爲シタルヨリ二十四時ノ後ニ至リ裁判官ノ許可ヲ得テ船ニ於ケル其否拒者ノ分ヶ前ヲ引當ト爲シ其者ノ計算ヲ以テ借入賃上ニテ金額ヲ借入ルコトヲ得可シ

第貳百三拾四條

若シ航行中ニ修理ヲ爲シ又ハ飲食料ヲ買入ル、ノ必要アル時ハ船長ハ乗組人中重立チタル者ノ署名シタル調書ヲ以テ其必要ナルヲ證明セシメタル後佛蘭西ニ於テハ商事裁判所ノ許可ヲ受ケ若シ其アラサル時ハ治安裁判官ノ許可ヲ受ケ又外國ニ於テハ佛蘭西領事ノ許可ヲ受ケ若シ其アラサル時ハ其地ノ官吏ノ許可ヲ受ケタル上ニテ船体及ヒ船身ヲ引當トシテ金額ヲ借入レ又ハ其證明セラレタル需用ノ必要トスル金額ニ充ツル迄商品ヲ質入シ或ハ之ヲ賣拂フヲ得可シ

各所有者又ハ之ニ代理スル船長ハ船ノ到着ノ時期ニ當リ其船ノ荷卸ノ地ニ於ケル同性質及ヒ同品種ノ商品ノ相場ニ從ヒ其賣拂ヒタル商品ノ計算ヲ爲ス可シ  
唯一名ノ貸借人又ハ相合同シタル荷主數名ハ其商品ヲ荷卸シ且ツ航行ノ進ミタル割合ヲ以テ船ノ借貸ヲ辨濟スルニ依リ其商品ノ賣拂又ハ質入ニ付キ故障ヲ申立ツルヲ得可シ○荷主中一部分ノ承諾アラサル時ハ其荷卸ノ權能ヲ行ハント欲スル者ハ自己ノ商品ニ付キ其船ノ借貸全部ヲ負擔

ス可キモノトス(前二四九二九八三一二四〇〇)

(本條ノ末項ハ千八百四十一年六月十四日ノ法律ヲ以テ追加シタリ)

第貳百三拾五條

船長ハ佛蘭西ニ歸ル爲メ外國ノ港又ハ佛蘭西ノ藩屬地ヲ出帆スル前ニ其積荷ノ景狀其積入レタル商品ノ代價其借入レタル金額其貸主ノ姓名及ヒ居所ヲ記シタル計算書ニ署名シテ之ヲ各所有者又ハ其代理人ニ差送ル可シ

第貳百三拾六條

船長ノ若シ必要ナクシテ船体又ハ船ノ食料或ハ機裝物ヲ引當トシテ金額ヲ借入レ又ハ商品或ハ飲食料ヲ質入シ又ハ賣拂ヒ若クハ其計算書中ニ虛妄ナル運輸損害及ヒ費額ヲ加ヘタル時ハ機送者ニ對シテ其實ニ任ス可ク而シテ一身上ニテ金額ノ償還又ハ物件ノ辨濟ヲ負擔ス可キモノトス但シ別段ノ理由アル時ハ犯罪ノ起訴ト相觸ル、コトナカル可シ

第貳百三拾七條

法ニ從ヒ船ノ航海ニ堪ヘサル旨ヲ證明シタル場合ノ外ハ船長ハ各所有者ヨリ特別ノ權力ヲ附與セラレタルニ非サレハ船ヲ賣拂フ



ヲ得ス若シ之ニ背ク時ハ其賣拂ノ效ナカル可シ(前二九七三六九三九。以下)

**第貳百三拾八條** 凡ソ航行ノ爲メニ雇入レラルタル船ノ船長ハ其航行ヲ成就ス可ク若シ之ニ背ク時ハ各所有者及ヒ船ノ賃借人ニ對シテ總テノ費額及ヒ損害賠償ヲ負擔ス可キモノトス(前二五二以下)

**第貳百三拾九條** 積荷ニ付テノ共通ノ利益ヲ以テ航海スル所ノ船長ハ己レ一個ノ計算ノ爲メニ貿易ヲモ又商業ヲモ爲スコトヲ得ス但シ之ニ反シタル合意アル時ハ格別ナリトス(前二五二)

**第貳百四拾條** 前條ニ記載シタル成規ニ違背シタル場合ニ於テハ船長ノ己レ一個ノ計算ノ爲メニ船ニ積入レタル商品ヲ其他ノ關係各人ノ利益ニ於テ沒收ス可シ

**第貳百四拾壹條** 船長ハ如何ナル危難ノ爲メト雖モ役員及ヒ乗組人中重立チタル者ノ意見ヲ聽キタル上ニ非サレハ航行中ニ其船ヲ委棄スルコトヲ得ス而シテ此場合ニ於テ船長ハ金圓及ヒ其積荷中ノ最貴重ナル商品ヲ成ル可キ丈救ヒ出ス可ク若シ之ニ背ク時ハ自己ノ名前ヲ以テ其責ニ任ス可キ

モノトス

若シ斯クノ如クニ船ヨリ引出シタル物品カ或ル意外ノ事故ニ依テ滅盡シタル時ハ船長其義務ヲ免除セラル可シ(前二二七四一。以下)

**第貳百四拾貳條** 船長ハ其到着ノ時ヨリ二十四時内ニ自己ノ簿冊ヲ檢署セシメ且ツ其報告ヲ爲ス可キモノトス

其報告書ニハ左ノ諸件ヲ表示セサル可カラス

其出帆ノ地及ヒ時

其航行シタル路筋

其冒シタル危険

船中ニテ生シタル紛亂及ヒ其航行中ノ總テ著ルシキ景況

**第貳百四拾三條** 其報告ハ商事判裁所長ノ面前ニ於テ書記局ニ之ヲ爲ス可シ

商事裁判所ノアラサル地ニ於テハ其郡ノ治安裁判官ニ報告ヲ爲ス可シ其報告書ヲ收受シタル治安裁判官ハ最近ノ商事裁判所長ニ遅延ナク之ヲ

送ル可キモノトス

右ノ中何レノ場合ニ於テモ商事裁判所ノ書記局ニ其報告書ヲ納ム可シ

第貳百四拾四條

若シ船長カ外國ノ港ニ着シタル時ハ佛蘭西領事ノ面前ニ出席シテ領事ニ報告ヲ爲シ而シテ其到着及ヒ出帆ノ時期ト其積荷ノ景狀及ヒ性質トヲ証明スル保証書ヲ受取ル可キモノトス

第貳百四拾五條

若シ航行中ニ船長已ムトヲ得スシテ佛蘭西ノ港ニ停泊シタル時ハ其地ノ商事裁判所長ニ其停泊ノ原由ヲ申述ス可キモノトス

若シ止ムトヲ得スシテ外國ノ港ニ停泊シタル時ハ佛蘭西領事ニ其申述ヲ爲ス可ク若シ領事ノアラサルニ於テハ其地ノ官吏ニ其申述ヲ爲ス可シ

第貳百四拾六條

破船シテ唯一人存命ナルヲ得又ハ其乗組人中ノ一部分ト共ニ存命ナルヲ得タル船長ハ其地ノ裁判官ノ面前ニ出席シ又裁判官ノアラサルニ於テハ總テ其他ノ文官ノ面前ニ出席シテ其報告ヲ爲シ而シテ其乗組人中ニテ存命ナルトヲ得テ共ニ其場ニ居ル所ノ者ヲシテ其報告書ヲ

調査セシメ且ツ其副本ヲ寫取ル可キモノトス(前二三八二四五二四七二九八三〇三三二七三五〇三六九刑三六三)

第貳百四拾七條

裁判官ハ船長ノ報告書ヲ調査スル爲メ乗組人ノ審訊ヲ爲シ又成ル可キニ於テハ旅客ノ審訊ヲ爲ス可シ但シ其他ノ証ト相觸ルハナカル可キモノトス

調査セラレサル報告書ハ船長ノ義務免除ノ証トシテ之ヲ許容ス可カラヌ又裁判上ニテ証憑ヲ爲サ、ルモノトス但シ破船シタル船長ノ其報告ヲ爲ス地ニ於テ唯一人存命ナルトヲ得タル場合ハ格別ナリトス

右ニ反シタル事實ノ証ハ關係各人ニ於テ之ヲ立ツルトヲ得可シ(前二五六以下)

第貳百四拾八條

差迫リタル危險ノ場合ヲ除クノ外船長ハ其報告ヲ爲サ、ル前ニ如何ナル商品タリト之ヲ荷卸スルトヲ得ス若シ之ニ背ク時ハ自己ニ對シテ異常ノ訴ヲ受ク可シ(前二四二)

第貳百四拾九條

若シ船ノ飲食料カ航行中ニ缺乏スル時ハ船長乗組人中重

立チタル者ノ意見ヲ聽キタル上ニテ私用ノ食物ヲ有スル者ニ之レカ價額ヲ辨濟シ強テ其食物ヲ共通ニ附セシムルコトヲ得可シ(前一九一ノ第七)

○第五卷 水夫及ヒ乗組人ノ雇入及ヒ雇賃

第貳百五拾條 船ノ船長及ヒ乗組人ノ雇入ノ條件ハ乗組人姓名簿ヲ以テ之ヲ証明シ又ハ關係人ノ合意ヲ以テ之ヲ証明スルモノトス(前一九一ノ第六一九ニノ第四三二六四三三以下六三三)

第貳百五拾壹條 船長及ヒ乗組人ハ如何ナル口實アリト雖モ所有者ノ許ヲ受ケ且ツ船ノ借賃ヲ辨濟スルコトナクシテ自己ノ計算ノ爲メ如何ナル商品タリハ其船中ニ積入ル、コトヲ得ス但シ雇入ノ契約ニ依リ右ノ事ヲ許可セラレタル時ハ格別ナリトス(前二九九三四〇)

第貳百五拾貳條 若シ船ノ出帆前ニ所有者、船長又ハ船ノ賃借人ノ所爲ニ依

リ航行ヲ止メタル時ハ航行中ノ約定ニテ雇入レラレ又ハ月雇ノ約定ニテ雇入ラレタル水夫ハ其船ヲ機裝スル爲メニ使用セラレタル日數ニ准シテ雇賃ノ辨濟ヲ受ク可シ○其水夫ハ既ニ收受シタル前掛金ヲ賠償トシテ保チ置クモノトス

若シ未タ其前掛金ノ辨濟ヲ得サル時ハ右ノ水夫ハ其合意シタル雇賃一月分ヲ賠償トシテ收受スルモノトス

若シ航行ノ始マリシ後ニ之ヲ止メタル時ハ航行中ノ約定ニテ雇入レラレタル水夫ハ其合意ノ文面ニ從ヒ雇賃全部ノ辨濟ヲ受ク可シ

月雇ノ約定ニテ雇入レラレタル水夫ハ其使用セラレタル時間ニ付テハ約權シタル雇賃ヲ收取シ且ツ右ノ外其雇入レラレタル航行ノ思量シタル時間ノ殘期ニ付キ其雇賃ノ半額ヲ賠償トシテ收受スルモノトス

航行中ノ約定又ハ月雇ノ約定ニテ雇入レラレタル水夫ハ右ノ外船ノ出帆ノ地ニ至ル迄其歸路ノ旅費ヲ收受スルモノトス但シ船長所有者又ハ船ノ賃借人或ハ管理ノ役員ニ於テ其水夫ヲ其出帆ノ地ニ歸ル處ノ他ノ船ニ乘

込マシメタル時ハ格別ナリトス(前二三八二七一三〇四三一九三四九)

第貳百五拾三條 若シ航行ヲ始メサル前ニ其船ヲ差向ケントスル地ト商業禁止ノ命令アリタル時又ハ政府ノ命令ヲ以テ其船ヲ差留メタル時ハ其船ヲ機装スル爲メニ使用シタル日數ノ雇賃ノミヲ水夫ニ辨濟ス可キモノトス(前二七三三三六三九九三〇三三五〇三八七)

第貳百五拾四條 若シ航行中ニ商業ノ禁止又ハ船ノ差留アリタル時ハ左ノ如ク爲ス可シ

禁止ノ場合ニ於テハ水夫ヲ使用シタル時間ニ准シテ之ニ辨濟ス可シ  
差留ノ場合ニ於テハ月雇ノ約定ニテ雇入レタル水夫ノ雇賃ハ其差留ノ時間之レカ半額ヲ辨濟ス可シ  
航行中ノ約定ニテ雇入レラレタル水夫ノ雇賃ハ其雇入契約ノ文面ニ從ヒ之ヲ辨濟ス可シ(前二七三)

第貳百五拾五條 若シ航行ノ長引ヤタル時ハ其航行中ノ約定ニテ雇入レラレタル水夫ノ雇賃ハ其航行ノ長引ヤタル割合ヲ以テ之ヲ増加ス可シ

第貳百五拾六條 船ノ貸賃証書ニ指定メタル所ノ地ヨリ更ニ近キ地ニ於テ任意ヲ以テ其船ノ荷卸ヲ爲ス時ト雖モ水夫ノ雇賃ヲ少シモ減少ス可カラサルモノトス

第貳百五拾七條 若シ利益ヲ分ツノ約定又ハ船ノ貸賃ヲ分ツノ約定ニテ水夫ヲ雇入レタル時ハ抗拒ス可カラサルカニ依リ生シタル航行ノ阻止遲延又ハ長引ノ爲メ其水夫ニ少シモ損害ノ償ヲ爲スニ及ハス又日數ニ准シタル雇賃ノ辨濟ヲ爲スニ及ハス

若シ荷主ノ所爲ニ依リ航行ノ阻止遲延又ハ長引ノ生シタル時ハ乗組人其船ニ附與セラレタル賠償ノ一部分ヲ受ク可シ  
其賠償ハ船ノ貸賃ト同一ノ割合ヲ以テ其船ノ所有者ト乗組人トノ間ニ分派ス可シ

若シ船長又ハ所有者ノ所爲ニ依リ防止ノ生シタル時ハ船長又ハ所有者ハ乗組人ニ對スル賠償ヲ負擔スルモノトス

第貳百五拾八條 掠奪又ハ破壊難船ノ場合ニ於テ其船及ヒ商品ヲ全ク失ヒ

タル時ハ水夫ハ少シモ雇賃ヲ得ント求ムルヲ得ス  
水夫ハ其雇賃中ニテ前拂ニ爲サレタルモノヲ返スニ及ハス(前二四六二七二三  
〇三〇四三二七三六九)

第貳百五拾九條 若シ船ノ一部分ノ救ハレタル時ハ航行中ノ約定又ハ月雇  
ノ約定ニテ雇入レラレタル水夫ハ其救ヒタル船ノ殘餘物ニ付キ既ニ期限  
ニ至リタル自己ノ雇賃ノ辨濟ヲ受ク可シ

若シ其殘餘物ノ充分ナラス又ハ商品ノミヲ救ヒタル時ハ右ノ水夫ハ補助  
ノ方法ヲ以テ其船ノ雇賃ニ付キ自己ノ雇賃ノ辨濟ヲ受ク可シ(前一九一ノ第  
六二八六三二七四二八)

第貳百六拾條 船ノ雇賃ヲ分ツノ約定ニテ雇入レラレタル水夫ハ船長ノ收  
受スル雇賃ノ割合ヲ以テ其雇賃ノミニ付キ自己ノ雇賃ノ辨濟ヲ受ク可シ  
(前二八六)

第貳百六拾壹條 水夫ハ其雇入レラレタル方法ノ如何ヲ問ハス難破船ノ殘  
餘物及ヒ品物ヲ救フ爲メニ使用セラレタル日數ニ准シテ其雇賃ノ辨濟ヲ

受ク可シ

第貳百六拾貳條 若シ水夫ノ航行中病ニ罹リ又ハ船ノ用向ニテ創傷ヲ被  
リタル時ハ其雇賃ヲ辨濟セラレ而シテ船ノ費用ニテ治療ヲ受ク可シ(前四  
〇〇ノ第六)

第貳百六拾三條 若シ水夫ノ敵又ハ海賊ト戰ヒテ創傷ヲ被マリタル時ハ其  
船及ヒ積荷ノ費用ニテ治療ヲ受ク可シ(前四〇〇ノ第六)

第貳百六拾四條 若シ許可ヲ得スシテ船ヨリ出テタル水夫カ陸上ニテ創傷  
ヲ被マリタル時ハ其治療ハ自費タル可ク又然ノミナラス船長ヨリ暇ヲ與  
フルヲ得可シ

此場合ニ於テ其雇賃ハ右水夫ノ使用ヲ受ケタル時間ノ割合ノミヲ以テ之  
ヲ辨濟ス可キトス

第貳百六拾五條 航行中ニ水夫ノ死去シタル場合ニ於テハ若シ其水夫カ月  
雇ノ約定ニテ雇入レラレタル時ハ死去ノ日ニ至ル迄ノ雇賃ヲ其遺留財産  
ニ辨濟ス可シ

若シ其水夫カ航行中ノ約定ニテ雇入レヲレタル時ハ其往路ニテ死去シ又ハ到着ノ港ニテ死去シタル場合ニ於テ其雇賃ノ半額ヲ辨濟ス可シ  
若シ歸路ニテ死去シタル時ハ其雇賃ノ全額ヲ辨濟ス可シ  
若シ其水夫カ利益ヲ分ツノ約定又ハ船ノ貸賃ヲ分ツノ約定ニテ雇入レヲレタル時ハ既ニ航行ヲ始メタル後ニ死去シタル場合ニ於テハ其分ケ前ノ全部ヲ辨濟ス可シ

船ヲ防守シテ戰死シタル水夫ノ雇賃ハ其船ノ安全ニ着港シタル時ニ於テハ其航行ノ全部ニ付キ全ク之ヲ辨濟ス可シ

**第貳百六拾六條** 船中ニテ虜獲セラレテ奴隷ト爲サレタル水夫ハ其贖金ノ辨濟ノ爲メ船長所有者又ハ船ノ賃借人ニ對シテ何等ノモノヲモ得ント求ムルコトヲ得ス

右ノ水夫ハ其虜獲セラレテ奴隷ト爲サレタル日ニ至ル迄其雇賃ノ辨濟ヲ受ク可キモトス(前二六七以下)

**第貳百六拾七條** 船ノ用向ノ爲メニ海上又ハ陸上ニ送遣セラレタル時虜獲

セラレテ奴隷ト爲サレタル水夫ハ其雇賃全部ノ辨濟ヲ受ク可キノ權利アリトス

右ノ水夫ハ其船ノ安全ニ着港シタル時ハ其贖金ノ爲メ賠償ノ辨濟ヲ受ク可キノ權利アリトス

**第貳百六拾八條** 若シ船ノ用向ノ爲メニ水夫ヲ海上又ハ陸上ニ送遣シタル時ハ船ノ所有者ヨリ其賠償ヲ辨濟ス可シ

若シ船ト積荷トノ用向ノ爲メニ水夫ヲ海上又ハ陸上ニ送遣シタル時ハ船ノ所有者ト積荷ノ所有者トニ於テ其賠償ヲ辨濟ス可シ

**第貳百六拾九條** 賠償ノ額ハ六百フランクト定ム

其收受及ヒ使用ハ俘虜ノ膺身ニ關スル規則ヲ以テ政府ヨリ定メタル方法ニ從ヒ之ヲ爲スヘシ

**第貳百七拾條** 有効ノ原由ナクシテ暇トナリタル旨ヲ証明スル各水夫ハ船長ニ對シテ賠償ヲ求ムルノ權利アリトス

若シ航行ヲ始ムル前ニ暇トナリタル時ハ其賠償ハ雇賃ノ三分一ト定ム

若シ航行中ニ暇トナリタル時ハ其賠償ハ雇賃ノ全額及ヒ歸路ノ旅費ト定

ム

船長ハ前ニ記シタル如何ナル場合ニ於テモ船ノ所有者ニ對シテ賠償ノ額ヲ取戻スコトヲ得サルモノトス

乗組人姓名簿ヲ終成スル前ニ水夫ノ暇トナリタル時ハ賠償ヲ爲スニ及ハス

如何ナル場合ニ於テモ船長ハ外國ニ於テ水夫ニ暇ヲ與フルコトヲ得ス(前二二三三三以下)

第貳百七拾壹條 船及ヒ船ノ貸賃ハ水夫ノ雇賃ノ爲メ特ニ引當タルモノト

ス(前一九一ノ第六三三。三三六三。七四二八四三三以下)

第貳百七拾貳條 水夫ノ雇賃治療及ヒ酬金ニ關スル總テノ成規ハ役員及ヒ總テ其他ノ乗組人ニ共通ノモノトス

○第六卷

船舶借入契約船ノ貸賃又ハ船ノ借入

第貳百七拾三條

凡ソ船舶借入契約船ノ貸賃又ハ船ノ借入ト名クル船舶賃

貸ノ爲メノ合意ハ書面ニ記セサルヲ得ス

其合意ノ書面ニハ左ノ諸件ヲ表示スルモノトス

船ノ名及ヒ噸數

船長ノ姓名

船ノ貸賃人及ヒ賃借人ノ姓名

荷物積入ノ爲メ及ヒ荷卸ノ爲メニ合意シタル場所及ヒ時期

船ノ貸賃

其貸賃ノ全部タルヤ又ハ一部タルヤノ事

遅延ノ場合ノ爲メニ合意シタル賠償(前二二六三三六以下六三三)

第貳百七拾四條

若シ關係各人ノ合意ニ依リ船ニ荷物ヲ積入及ヒ荷卸ヲ爲スノ時期ヲ定メサル時ハ土地ノ慣習ニ從テ之ヲ規定ス可シ

第貳百七拾五條 若シ船ヲ月借リニ爲シ而シテ別段ノ合意アラサル時ハ其借賃ヲ船ノ出帆シタル日ヨリ起算ス可キモノトス

第貳百七十六條 若シ船ノ出帆前ニ之ヲ差向ケントスル國ト商業禁止ノ命令アリタル時ハ何レノ方ニ於テモ損害賠償ナクシテ合意ヲ解除ス可シ荷主ハ其商品ノ積入及ヒ荷卸ノ費用ヲ負擔スルモノトス(前二五三三九九民一七三三三七八)

第貳百七拾七條 船ノ出帆ヲ唯一時防止スル所ノ抗拒ス可カラサルカノ存在スル時ハ其合意ハ存續シ而シテ遲延ノ爲メニ損害賠償ヲ爲スニ及ハサルモノトス

又航行中ニ抗拒ス可カラサルカノ生シタル時ハ其合意ハ亦同シク存續シ而シテ之レカ爲メニ少シモ船ノ借賃ヲ増加スルニ及ハサルモノトス(前三〇〇民一一四八)

第貳百七拾八條 荷主ハ船ノ差留メラル、間自己ノ費用ニテ其商品ヲ荷卸セシムルコトヲ得可シ但シ荷主ハ更ニ再ヒ其商品ヲ積入レ又ハ船長ニ賠償

ヲ爲ス可キモノトス

第貳百七拾九條 船ヲ差向ケントスル港ノ封港ノ場合ニ於テハ船長共同國ノ最近ノ港口中ニテ其近寄ルコトヲ許サレタル一ヶ所ニ赴ク可キモノトス但シ之ニ反スル差圖ヲ受ケタル時ハ格別ナリトス

第貳百八拾條 船、船具、器具並ニ貸貸及ヒ積入レタル商品ハ各自相互ニ關係各人ノ合意執行ノ引當タルモノトス(前一九一三三七一三五)

○第七卷 積荷目録

第貳百八拾壹條 積荷目録ニハ運送ス可キ物件ノ性質、分量並ニ種類又ハ品質ヲ明記セサル可カラズ

積荷目録ニハ左ノ諸件ヲ指示ス  
荷主ノ姓名





書ヲ附與ス可ク若シ之ニ背ク時ハ總テ費額及ヒ損害賠償ヲ負擔シ又然ノ  
ミナラス遲延ノ損害賠償ヲモ負擔ス可キモノトス(前九四ヨリ一〇八ニ至ル三〇  
五)

○第八卷 船ノ借貸即チ船舶借貸

第貳百八拾六條 船舶又ハ其他ノ海船ノ借貸ハ之ヲ名ケテ船ノ借貸又ハ船  
船借貸ト云フ

其借貸ハ關係各人ノ合意ヲ以テ之ヲ規定ス可シ

其借貸ハ船舶借入契約書ニ依リ又ハ積荷目録ニ依テ之ヲ証明ス

其借貸ハ船ノ全部或ハ一部ニ付キ之ヲ定メ又ハ航行時間ノ全部或ハ特定

ノ時間ニ付キ之ヲ定メ又ハ噸數或ハ「カンタル」並「アル」並「ル」並「目」ノ名ノ數ヲ以テ之

ヲ定メ又ハ請負ニテ之ヲ定メ或ハ積荷ノ分量ノ充分ナル時ニ至リテ出帆

ス可キノ約定ヲ以テ之ヲ定ム但シ如何ナル場合ニ於テモ船ノ噸數ヲ指定  
ス可キモノトス(前二七三ニ八一以下四三三、五七六、六三三)

第貳百八拾七條 若シ船ノ全部ヲ貸借シ而シテ其賃借人カ其船ニ充分ナル  
積荷ヲ爲サ、ル時ト雖モ船長其賃借人ノ承諾ナクシテ他ノ商品ヲ積入ル  
、トヲ得ス

賃借人ノ全部貸借シタル船ノ積荷ヲ補完スル商品ニ付テノ船ノ借貸ハ其  
船ノ賃借人ノ利益ナリトス(前二五一)

第貳百八拾八條 船舶借入契約書ニ載セタル商品ノ分量ヲ積入レサル船舶  
賃借人ハ其約束シタル充分ナル積荷ノ爲メ船ノ借貸ノ全部ヲ辨済ス可シ  
若シ更ニ餘分ヲ積入レタル時ハ船舶借入契約書ニ規定シタル賃銀ノ割合  
ヲ以テ其餘分ノ船舶借貸ヲ辨済スルモノトス

若シ然レハ船舶賃借人カ何物ヲモ積入レヌシテ出帆前ニ其航行ヲ止メタ  
ル時ハ其爲ス可キ積荷ノ全部ノ爲メ船舶借入契約書ヲ以テ合意シタル船  
船借貸ノ半額ヲ賠償トシテ船長ニ辨済ス可シ

若シ船ノ其積荷ノ一部分ヲ收受シ而シテ他ノ荷物ヲ積入レヌシテ出帆シタル時ハ船舶借賃ノ全額ヲ船長ニ辨濟ス可キモノトス(前二五三三四九)

第貳百八拾九條 船ノ容積ヲ其實ヨリ更ニ大ナリト申述シタル船長ハ船ノ賃借人ニ對シテ損害賠償ヲ負擔スルモノトス(前二七三三九〇)

第貳百九拾條 船ノ噸數ニ付テノ錯誤カ四十分一ニ過キサル時又ハ噸數ノ申述カ測量ノ保證書ニ適合シタル時ハ其噸數ノ申述ニ於テ錯誤アルモノト看做ス可カラヌ(前二八九)

第貳百九拾壹條 若シ積荷ノ分量ノ充分ナル時ニ至リテ出帆ス可キノ約定ヲ以テ船ニ荷物ヲ積入レ又ハ「カンタル」噸數或ハ噸數ヲ以テ之ヲ積入レ又ハ請負ニテ之ヲ積入レタル時ハ荷主其船ノ出帆前ニ船舶借賃ノ半額ヲ辨濟シテ其商品ヲ引取ルヲ得可シ

其荷主ハ荷物積入ノ費用荷卸ノ費用他ノ商品ヲ移動シテ之ヲ積直スノ費用及ヒ遅延ノ費用ヲ負擔ス可シ

第貳百九拾貳條 若シ船長己レニ申述セラレサル商品ヲ其船中ニ於テ見出

シタル時ハ其荷物積入ノ場所ニ於テ之ヲ陸揚セシムルヲ得又ハ之ト同性質ノ商品ニ付キ其同一ノ地ニ於テ辨濟ス可キ最モ貴キ船舶借賃ヲ右ノ商品ニ付キ收取スルヲ得可シ

第貳百九拾三條 航行中ニ自己ノ商品ヲ引取ル所ノ荷主ハ其船舶借賃ノ全額ト荷卸ノ爲メニ生セシメタル總テ移動ノ費用トヲ辨濟ス可シ若シ又船長ノ所爲又ハ過失ノ爲メニ商品ヲ引取ル時ハ船長其總テノ費用ノ實ニ任ス可キモノトス(前二六三三二)

第貳百九拾四條 若シ船舶賃借人ノ所爲ニ依リ船ノ出帆ノ時又ハ途中又ハ其荷卸ノ地ニ於テ其船ヲ滞留セシメタル時ハ船舶賃借人ニ於テ其遅延ノ費用ヲ負擔ス可シ

若シ往返ノ爲メニ船ヲ賃借シ而シテ積荷ナク又ハ不充分ナル積荷ヲ以テ其船ノ歸來リタル時ト雖モ其船舶借賃ノ全額ト遅延ノ利息トヲ船長ニ辨濟ス可キモノトス

第貳百九拾五條 若シ船長ノ所爲ニ依リ出帆ノ時又ハ途中又ハ荷卸ノ地ニ

於テ其船ヲ滞留セシメ又ハ遅延セシメタル時ハ船長其船舶賃借人ニ對シテ損害賠償ヲ負擔ス可シ

其損害賠償ハ鑑定人之ヲ規定ス(前一〇六三二四一四)

第貳百九拾六條

若シ船長ノ已ムヲ得スシテ航行中ニ船ヲ修理セシムル時ハ船舶賃借人其修理ノ終了スルヲ待チ又ハ船舶借賃ノ全額ヲ辨済ス可キモノトス

其船ヲ修理スルヲ得サル場合ニ於テハ船長更ニ他ノ船ヲ賃借ス可キモノトス

若シ船長ノ更ニ他ノ船ヲ賃借スルヲ得サル時ハ航行ノ進ミタル割合ノミヲ以テ其船舶借賃ヲ辨済ス可シ(前二四一三九二)

第貳百九拾七條

若シ船舶賃借人カ船ノ出帆スル時ニ於テ其船ノ航海ヲ爲スニ堪ヘカリシ旨ヲ証スル時ハ船長其船ノ貸賃ヲ損失シ且ツ其船ノ賃借人ニ對シテ損害賠償ヲ擔任スルモノトス

出帆ノ時ニ於ケル検査ノ保證書ニ拘ハラヌ及ヒ其保證書ニ反對シテ右ノ

証ヲ許容ス可キモノトス(前二二五二二六三三八九)

第貳百九拾八條

飲食料修理及ヒ其他船ノ差迫リタル必要ニ供備スル爲メ船長ノ已ムヲ得スシテ賣拂ヒタル商品ニ付テハ船ノ安全ニ着目シタル時其殘品又ハ之ト同質ノ他ノ商品ヲ其荷卸ノ地ニ於テ賣拂フ可キ代價ヲ以テ船長ヨリ其賣拂ヒタル商品ノ價額ヲ計算ス可ク而シテ荷主ハ右ノ商品ニ付キ船舶ノ借賃ヲ辨済ス可キモノトス

若シ船ヲ失ヒタル時ハ船長積荷目録ニ載セタル船舶ノ貸賃ヲ右ニ同シク扣除シテ其商品ヲ賣拂ヒタル代價ノ割合ヲ以テ右商品ノ計算ヲ爲ス可シ右ニ記シタル二個ノ場合ニ於テハ第二百十六條ノ第二項ニ依リ船ノ所有者ニ貯存セラレタル權利ヲ行フヲ得可キモノトス

若シ其權利ノ執行ヨリシテ其商品ヲ賣拂ハレ又ハ賃入トナサレタル者ノ爲メニ損失ヲ生スル時ハ右ノ商品ノ價額ト總テ其差向ケントスル地ニ着シタル商品又ハ其賣拂或ハ賃入ヲ已ムヲ得サルニ至ラシメタル海上ノ事故以後ニ其難破ヨリ救出シタル商品ノ價額トニ割合ハセテ其損失高ヲ配

當ス可シ(前二三四三三六三四六)

本條ノ末項ハ千八百四十一年六月十四日ノ法律ヲ以テ追加シタリ

**第貳百九拾九條** 船ノ到ラントスル國ト商業禁止ノ命令アリテ船ノ已ムコトヲ得ス其積荷ト共ニ歸來リタル時ハ假令往返ノ爲メニ其船ヲ賃借シタル時ト雖モ往路ノ借賃ノミヲ船長ニ辨濟ス可キモノトス(前二五三二七六)

**第三百條** 若シ航行中或國ノ命令ニ依リ船ヲ差留メラレタル時ハ其船ヲ毎月ノ約定ニテ賃借シタル場合ニ於テハ其差留時間ノ借賃ヲ辨濟スルニ及ハス又航行中ノ約定ニテ賃借シタル場合ニ於テハ其借賃ヲ増加スルニ及ハス

船ノ差留時間ニ於ケル乗組人ノ食料及雇賃ハ運輸損害ト看做ス可シ(前二五八二七五三九七以下)

**第三百壹條** 船長ハ共通ノ安全ノ爲メニ海ニ投入レタル商品ノ船舶借賃ニ付テハ分擔ノ責任ヲ以テ辨濟ヲ受クルモノトス(前四〇〇ノ第二四一〇以下)

**第三百貳條** 破船又ハ岩礁淺瀬ニ乗掛ケタル事ノ爲メニ失ヒタル商品又ハ

海賊ノ爲メニ剽掠セラレ又ハ敵ノ爲メニ奪取セラレタル商品ニ付テハ少シモ船舶借賃ヲ辨濟スルニ及ハス

船長ハ其前拂ニ爲サレタル船舶借賃ヲ返ス可キモノトス但シ之ニ反シタル合意アル時ハ格別ナリトス(前二四六二五八)

**第三百三條** 若シ船及ヒ商品ヲ贖戻シタル時又ハ商品ヲ破船ヨリ救ヒタル時ハ船長其掠奪又ハ破船ノ地ニ至ル迄ノ船舶借賃ノ辨濟ヲ受ク可シ  
船長商品ヲ其差向ケントスル地ニ送リタル時ハ贖戻ヲ分擔シテ其船舶借賃全額ノ辨濟ヲ受ク可シ

**第三百四條** 贖戻ノ爲メノ分擔ハ商品荷卸ノ地ニ於ケル商品ノ通價中ヨリ費用ヲ引去リタル價額ト船及ヒ船ノ貸賃ノ半額トニ據テ之ヲ爲スモノトス

水夫ノ雇賃ハ分擔中ニ加ヘサルモノトス(前二五八)

**第三百五條** 若シ商品ヲ宛テ送ラレタル者カ其商品ヲ收受スルコトヲ拒スル時ハ船長裁判所ノ許ヲ得テ其船舶借賃ノ辨濟ヲ受クル爲メ其商品ヲ賣

拂ハシメ而シテ其殘餘物ノ附託ヲ命令セシムルヲ得可シ

若シ不足アル時ハ船長ヨリ荷主ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スノ權利ヲ保存ス(前一〇六三、八五)

第三百六條 船長ハ船舶借賃ノ辨濟ヲ得サルカ爲メ商品ヲ其船中ニ引留ムルヲ得ス

船長ハ荷卸ノ時ニ於テ其船舶借賃ノ辨濟ニ至ル迄第三ノ人ノ手裏ニ其商品ヲ附託セント請求スルヲ得可シ(民一九六一以下)

第三百七條 船長ハ其積荷ノ商品ヲ引渡シタル後十五日間ハ船舶借賃ヲ得ル爲メ其商品ニ付キ他人ニ優レル權利ヲ有ス可シ但シ其商品ノ第三ノ人ノ手裏ニ移リタル時ハ格別ナリトス(民二一〇二ノ第六)

第三百八條 右十五日ノ經過セサル前ニ荷主又ハ荷物收受人ノ家資分散ノ場合ニ於テハ船長其己レニ受ク可キ船舶借賃及ヒ運輸損害高ノ辨濟ヲ得ル爲メ各債主ニ優レル先取特權ヲ有スルモノトス(前三九七)

第三百九條 如何ナル場合ニ於テモ荷主ハ其船舶借賃ノ減少ヲ得ント請求

メルヲ得ス

第三百拾條 荷主ハ代價ノ減少シタル商品又ハ其固有ノ瑕疵或ハ意外ノ事故ニ依テ損取シタル商品ヲ船舶借賃ノ爲メニ委棄スルヲ得ス  
若シ然レハ酒、油、蜜及ヒ其他ノ流動物ヲ入レタル樽桶ヨリ其流動物ノ流出シテ空虛トナリ又ハ幾ント空虛トナリタル時ハ其樽桶ヲ船舶借賃ノ爲メニ委棄スルヲ得可シ(前三六九以下)

○第九卷 航海ノ危険ヲ冒ス貸借契約

第三百拾壹條 航海ノ危険ヲ冒ス貸借契約證書ハ公証人ノ面前ニテ之ヲ作リ又ハ私シノ署名ニテ之ヲ作ル可シ

其貸借契約證書ニハ左ノ諸件ヲ表示スルモノトス  
貸シタル元金及ヒ海上ノ利益ノ爲メニ合意シタル金額

其貸金ノ引當ト爲ス物件

船ノ名及ヒ船長ノ姓名

貸主及ヒ借主ノ姓名

一個ノ航行ノ爲メニ貸借ヲ爲シタル事

如何ナル航行ノ爲メ及ヒ如何ナル時間ノ爲メニ貸借ヲ爲シタルヤノ事

償還ノ時期(前四三三三三三)

第三百拾貳條 凡ソ佛蘭西ニ於テ航海ノ危険ヲ冒シテ金額ヲ貸ス者ハ其日

附ヨリ十日内ニ商事裁判所ノ書記局ノ簿冊ニ其契約証書ヲ記録セシム可

ク若シ之ニ背ク時ハ其先取特權ヲ失フ可キモノトス

若シ外國ニ於テ其契約ヲ爲シタル時ハ第二百三十四條ニ定メタル法式ニ

從フ可シ

第三百拾三條 凡ソ航海ノ危険ヲ冒ス貸借契約証書ハ指圖ニ於ケルモノタ

ル時ハ裏書ノ方法ヲ以テ之ヲ取引スルコトヲ得可シ

此場合ニ於テハ其証書ノ取引ハ其他ノ商業上ノ手形ノ取引ト同一ノ效力

ヲ有シ且ツ之ト同一ナル擔保ニ於ケル訴權ヲ生スルモノトス(前一三六以下)

第三百拾四條 辨濟ノ擔保ハ海上ノ利益ニ及ハサルモノトス但シ明白ニ其

反對ヲ約權シタル時ハ格別ナリトス

第三百拾五條 航海ノ危険ヲ冒ス借入ハ左ノ諸件ヲ引當ト爲スコトヲ得可シ

船体及ヒ船身

船具及ヒ器具

機裝物及ヒ飲食料

積荷

相合シテ右諸物件ノ全部又ハ其中各箇ノ定マリタル一部分(前二三四二八

〇三三四)

第三百拾六條 凡ソ航海ノ危険ヲ冒ス借入ノ引當タル物件ノ價額ニ過クル

金額ノ爲メニ爲シタル其借入ハ若シ借主ノ方ニ詐欺アリシノ証アルニ於

テハ貸主ノ請求ニ依リ無効ナリト宣告スルコトヲ得可シ(前三三六良一一六一

一一七)

第三百拾七條 詐欺ノアヲサル時ハ其爲シタル評價又ハ合意シタル評價ニ從ヒ其借入ノ引當ト爲シタル物品ノ價額ニ充ツル迄航海ノ危険ヲ冒ス貸借契約ヲ有效ノモノトス  
其借入レタル金額ノ餘分ハ其地ノ相場ニ於ケル利息ヲ附シテ之ヲ償還ス可シ(前三一六)

第三百拾八條 凡ソ船ヨリ得ントスル貸貸及ヒ後日得ント希望スル商品ノ利益ヲ引當ト爲ス金額ノ借入ハ之ヲ禁止ス

此場合ニ於テハ貸主ハ少シモ利息ヲ得ヌシテ元金ノ償還ノミヲ受クルノ權利アリトス(前三一四)

第三百拾九條 凡ソ航海ノ危険ヲ冒ス金額ノ貸渡ハ水夫又ハ海員ノ雇賃又ハ航行ノ給料ヲ引當トシテ之ヲ其水夫又ハ海員ニ爲スヲ得ヌ

第三百貳拾條 船船具器具機裝物及ヒ飲食料又然ノミナラス既ニ獲得シタル船舶貸賃ハ船体及ヒ船身ヲ引當ト爲シ航海ノ危険ヲ冒シテ貸與ヘタル金額ノ元金及ヒ利息ニ付キ先取特權ヲ以テ引當ト爲スモノトス

三二四

積荷ヲ引當ト爲シ航海ノ危険ヲ冒シテ貸與ヘタル金額ノ元金及ヒ利息ニ付テハ右ニ同シク其積荷ヲ以テ引當ト爲スモノトス

若シ船又ハ積荷中特別ノ物件ヲ引當トシテ金額借入ヲ爲シタル時ハ先取特權ハ其借入ノ引當ト爲シタル量額ノ割合ヲ以テ右ノ物件ノミニ付キ存在スルモノトス(前三一五)

第三百貳拾壹條 所有者居住ノ地ニ於テ其公正ナル許可ナク又ハ証書ニ於ケル其所有者ノ參涉ナクシテ船長ノ航海ノ危険ヲ冒ス借入ヲ爲シタル時ハ船長ノ其船及ヒ船ノ貸賃ニ付キ有スルヲアル可キ部分ノミニ關スルノ外訴權及ヒ先取特權ヲ付與セサルモノトス(前二二三、二三三、二三六)

第三百貳拾貳條 船ヲ出帆シ得可キ景狀ニ爲ヌ爲メニ其分擔ノ額ヲ供備ス可キノ催促ヲ受ケタルヨリ二十四時内ニ之ヲ供備セザリシ所有者ノ分ケ前及ヒ部分ハ關係各人居住ノ地ニ於テモ修理及ヒ飲食料ノ爲メニ借入レタル金額ノ引當ナリトス(前二二三)

第三百貳拾三條 船ノ最後ノ航行ノ爲メニ爲シタル借入ハ以前ノ航行ノ爲



メニ貸シタル金額ヨリ先キニ償還セラル可シ但シ以前ノ航行ノ爲メニ貸シタル金額ヲ繼續又ハ更新ヲ以テ其儘差置キタル旨ヲ申述シタル時ト雖モ亦之ニ同シ

航行中ニ借入レタル金額ハ船ノ出帆前ニ借入レタル金額ヨリ先キニ償還ス可ク若シ又同一ノ航行中ニ爲シタル數個ノ借入アル時ハ後ノ借入ヲ常ニ必ス其前ノ借入ヨリ先キニ償還ス可シ

**第三百貳拾四條** 契約書ニ指定メタル船ニ積入ル可キ商品ヲ引當ト爲ス航海ノ危険ヲ冒ス貸主ハ其商品ノ更ニ他ノ船ニ積入レラレタル時ハ假令海上ノ災禍ノ爲メニ其商品ヲ失ヒタルト雖モ其損失ヲ負擔セス但シ抗拒ス可カラサルカノ爲メニ之ヲ他ノ船ニ積入レシ旨ヲ適法ニ証明シタル時ハ格別ナリトス

**第三百貳拾五條** 若シ航海ノ危険ヲ冒ス貸金ノ引當タル品物カ其危険ヲ約定シタル時間ト場所トニ於テ全ク滅盡シ而シテ其滅盡ノ意外ノ事故ニ依リ生シタル時ハ其貸渡シタル金額ヲ取返サント求ムルヲ得ス(前三二四)

**第三百貳拾六條** 物ノ固有ノ瑕瑾ニ依テ生シタル損敗、減少、滅盡及ヒ金額借主ノ所爲ニ依テ生シタル損害ハ貸主ノ責任タラサルモノトス(前一〇三)

**第三百貳拾七條** 被船ノ場合ニ於テハ航海ノ危険ヲ冒シテ借入レタル金額ノ辨濟ハ其救ハレタル品物ニシテ契約ノ引當ト爲シタルモノ、價額ニ減スルモノトス但シ其中ヨリ救出ノ費用ヲ引去ル可シ(前二五六、二五八、三六四、三七)

**第三百貳拾八條** 若シ危険ノ時間ヲ契約書ニ定メサル時ハ其時間ハ船、船具、器具、機裝物及ヒ飲食料ニ關シテハ其船ノ出帆シタル日ヨリ其之ヲ差向クル港又ハ地ニ仰從シ又ハ繫キ止ムル日ニ至ル迄經過スルモノトス  
商品ニ關シテハ其危険ノ時間ハ之ヲ船中ニ積入レタル日又ハ之ヲ船中ニ運送スル爲メ小艇ニ積入レタル日ヨリ之ヲ陸揚スル日ニ至ル迄經過スルモノトス(前二一五、三六一、三六九)

**第三百貳拾九條** 商品ヲ引當ト爲シ航海ノ危険ヲ冒シテ金額ヲ借入レタル者ハ自己ノ計算ノ爲メニ其借入レタル金額ニ充ツル迄ノ品物ヲ有セシ旨

ヲ証明セサル時ハ船及ヒ積荷ノ滅盡ニ依テ釋免セラレサルモノトス(前三一六)

第三百三拾條 航海ノ危険ヲ冒ス貸主ハ借主ノ義務免除ノ爲メ共通ノ運輸損害ヲ分擔スルモノトス

單一ノ運輸損害モ亦貸主ノ責任タリ但シ之ニ反シタル合意アル時ハ格別ナリトス(前三九七以下)

第三百三拾壹條 若シ同一ノ船又ハ同一ノ積荷ニ付キ航海ノ危険ヲ冒ス貸借契約ト保險ノ契約トノアル時ハ其破船ヨリ救ハレタル品物ノ賣拂代金ハ航海ノ危険ヲ冒ス貸主ト保險人トノ間ニ其各自ノ關係高ノ割合ヲ以テ貸主ニハ其元金ノ〇〇〇〇爲メ又保險人ニハ其保險シタル金額ノ爲メニ之ヲ分派ス可シ但シ第九十一條ニ設定シタル先取特權ト相觸ルハナカル可キモノトス(前二五九三二五三四七四一七)

○第拾卷 保險

○第壹節 保險ノ契約其法式及ヒ其目的

第三百三拾貳條 保險契約ハ之ヲ書面ニ記ス可シ

其契約書ニハ之ヲ署名シタル日附ヲ記ス可シ

其契約書ニハ午前又ハ午後ニ之ヲ作リタル事ヲ表示ス可シ

其契約書ハ私シノ署名ニテ之ヲ作ルヲ得可シ

其契約書ニハ少シノ空白ヲモ存スルヲ得ス

其契約書ニハ左ノ諸件ヲ明記スルモノトス

保險ヲ爲サシムル者ノ姓名及ヒ住所並ニ其者ノ所有者タリ又ハ仲買人

タルノ分限

船ノ名及ヒ指定

船長ノ姓名

商品ヲ積入レタル地又ハ積入ル可キ地



特定ノ時間ノ爲メニ之ヲ爲スヲ得可シ  
又ハ海河川及ビ舟ヲ通ス可キ溝渠ニ依レル總テノ航行及ヒ運送ノ爲メニ  
之ヲ爲スヲ得可シ

**第三百三十六條** 保險セラレタル品物ノ評價ニ於ケル詐欺ノ場合又ハ假設  
或ハ偽造ノ場合ニ於テハ保險人其物件ノ調査及ヒ評價ニ取掛ラシムルヲ  
得可シ但シ民事上ト刑事上ヲ間ハス總テ其他ノ訴ノ手續ト相觸ル、  
ナカル可キモノトス(前三一六三五七以下三八〇)

**第三百三十七條** 「ルバン」地中海ニ接レタル亞細  
亞ノ西岸ノ地ヲ云フノ互市場亞非利加ノ海岸及  
ヒ世界ノ其他ノ部分ヨリ歐羅巴ニ差向ケテ爲シタル積荷ハ其如何ナル船  
ニ爲シタルヲ問ハス船ヲモ又船長ヲモ指定セスシテ之ヲ保險スルヲ得  
可シ

此場合ニ於テハ商品ト雖モ其性質及ヒ種類ヲ指定セスシテ之ヲ保險スル  
ヲ得可シ  
然レモ保險ノ契約書ニハ其送遣ヲ爲サ、ル所ノ者又ハ其送遣スル荷物ヲ

宛送ラル可キ者ヲ指示セサル可カラズ但シ保險ノ契約書ニ於テ之ニ反ス  
ル合意アル時ハ格別ナリトス

**第三百三十八條** 凡ソ保險ノ契約書ニ外國ノ貨幣ヲ以テ其代價ヲ約定シタ  
ル品物ハ保險ノ契約書ニ署名シタル時期ニ於ケル相場ニ從ヒ其約定シタ  
ル貨幣ノ佛蘭西ノ貨幣ニ對スル代價ヲ以テ之ヲ見積ル可キモノトス

**第三百三十九條** 若シ其契約書ニ商品ノ價額ヲ定メサル時ハ勘定書又ハ帳  
簿ヲ以テ其價額ヲ証明スルヲ得可ク若シ其勘定書又ハ帳簿ノアラサル  
時ハ荷物積入ノ時ト其場所トニ於ケル通價ニ從ヒ其評價ヲ爲ス可シ但シ  
其船中ニ積入ル、迄ニ辨濟シタル税金及ヒ爲シタル費用ハ總テ其評價中  
ニ算入ス可キモノトス(前一〇九)

**第三百四十條** 若シ物ト物トノ交換ノミニ依テ商業ヲ爲ス國ヨリノ歸路ニ  
於テ保險ヲ爲シ而シテ保險ノ契約書ニ其商品ノ評價ヲ爲サ、ル時ハ交換  
ニ於テ附與シタル商品ノ價額ニ據テ其保險ヲ規定ス可シ但シ運送ノ費用  
ヲ其價額ニ併合ス可キモノトス